

平成 26 年度 蔵の町並みキャンパス 成果発表集



須坂市まちづくり課

目 次

1. 清泉女学院大学	
・「信州須坂蔵の町映画祭への参加」	3
・「郷土愛育成プロジェクト」	10
2. 長野工業高等専門学校	
・「蔵の町並み景観に配慮した店舗併用住宅の設計」	24
3. 長野県短期大学	
・生活科学科健康栄養専攻	
「食を中心とした蔵の町並みキャンパス―7年間を振り返って―」	49
・多文化コミュニケーション学科日本語日本文化専攻	
「蔵の町並みキャンパスでの見学地の情景 ―ポストカードを作成しました―」	55
4. 信州大学工学部建築学科	
・「街区の再生」	66
・「民家の再生」	105
・「まちなかベンチのデザイン」	145
5. 東京大学文学部	
・『文化芸術振興ビジョンの咲かせ方』	153
6. 文化学園大学	
・「須坂市古民家再生プロジェクト『平成26年度活動報告』」	200

蔵の町並みキャンパス成果発表会 「信州須坂蔵の町映画祭への参加」

北沢みすず 小島晴香
鈴木杏奈 堀内紀子



SEISEN JOGAKUIN COLLEGE
清泉女学院大学

授業名「現代基礎演習Ⅰ」

○外部企業との共同プロジェクト

例. 長野グランドシネマズ × 清泉

→映画評論レポート

例. 広告代理店 × 清泉

→大学広報を作成



信州須坂蔵の街映画祭映画祭

- 映画上映
- 小林創コレクション映画祭ポスター展
- ワークショップ
- SUZAKAショートムービーコンペ



応募要項

- 募集部門：須坂or自由
 - ・須坂の企業・物産・観光のCM
 - ・須坂がテーマであれば撮影場所は須坂でなくてもOK！
- 上映時間：おおよそ3分
- 撮影方法：携帯・スマホ可

映像作品を作ろう！

仮のPV作成

思いついたことを
とりあえずやってみる！

反省

どうして面白くなかった？
学生が作る意味は？

本作成

反省を生かして
楽しい作品に仕上げよう！

キューピー 3分クッキング

「3分」って…
応募条件と一緒にだ！

「清泉キューポークツッキング」



みそすき丼

長野県須坂市で販売されているご当地丼である。市内の飲食店とみそ醸造元でつくる「信州須坂みそ料理乃會」が共同で開発したご当地料理。共通の味噌の割り下と伝統野菜「村山早生（わせ）ゴボウ」の使用を条件としている。

本作成

撮影（練習）学内調理室



反省会



撮影（本番）学内調理室



本物のみそすき丼を食べに行く



オープニング
エンディング

編集

CM

料理

制作期間 : 約1ヶ月
編集ソフト : Final Cut Pro



表彰式



学び・反省・今後

○学び

協力してもらうには、なるべく早くお願いする

○反省

周りのことを考えてスケジュールを組む

○今後

新しく得た技術を、これからに生かしたい

ご清聴いただき
ありがとうございました





郷土愛プロジェクト 報告

清泉女学院大学 英語コース



概要

- 1、活動の概要—経緯・活動の流れ
- 2、プロジェクトの特徴・内容
- 3、アンケート結果

1、活動の概要－経緯・活動の流れ

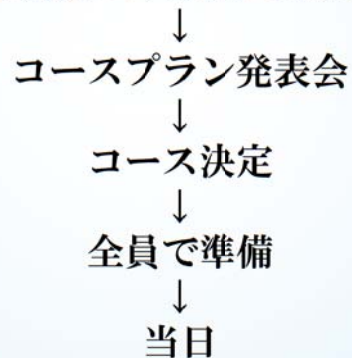
活動の経緯

「須坂景観づくりの会」は須坂の小学生に郷土愛を育んでもらうためのプロジェクトに取り組んでいます。今年度私たちは小学生5，6年生を対象としたプロジェクトに参加させていただくことになりました。

4月	事前学習
5月	グループごとの現地調査（2回）
6月	コースプラン発表会
7月	コース決定
8月	準備
9月	郷土愛プロジェクト

全体の流れ

2つのグループで須坂を2回訪れて調査しコースを決める



事前学習

- ・パンフレット、ネット、須坂アプリを使って須坂について各自調べました。
- ・4月下旬に全員で須坂視察に行きました。須坂の街をバスや実際に歩きながら周りました。臥龍公園で下車し、お昼を食べ、自由に周辺を視察しました。
- ・グループごとにどの場所が気になるか話し合い、各場所についてさらに調べました。

現地調査

- ・グループごとに2回調査
- ・事前に調べてきた場所を訪れ、その際、時間を図りながら、歩きました。
- ・機織り体験や投扇興体験をし、地域の方と直接交流することができました。





コースプラン発表会

- 2014年6月11日開催。
- 審査員として、
須坂市の役場職員さん、街歩き警備隊の方が来校。
- A班とB班、それぞれ5，6年生を対象にしたコースプランを発表し、審査員の方から改善点などのアドバイスを頂きました。

2、プロジェクトの特徴

郷土愛育成のためのコンセプト

A班（5年生向け）

「見落としがちな昔の人の歴史を見つけよう」

B班（6年生向け）

「アクティビティを通して須坂を知る」

「歴史ある須坂・建物を誇りに感じる」

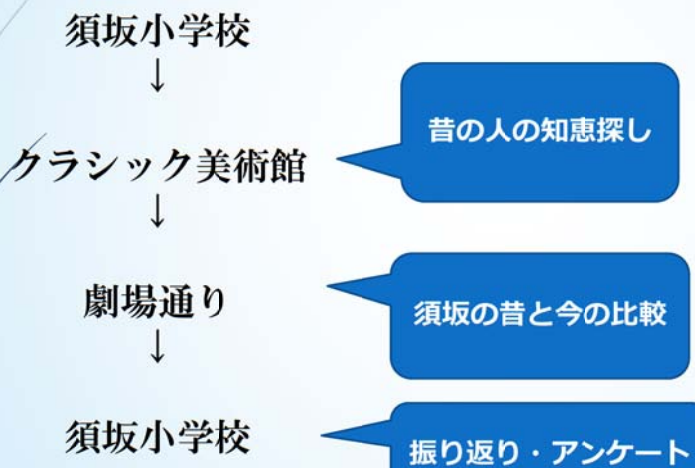
5 年生向けプランの特徴

- 子供たちの集中力を持続させるために、短時間のアクティビティをたくさん取り入れた。
- 説明を聞くだけでなく、主体的に学ぶことができるようにクイズや「見つけてみよう」を考案した。
- 子供たちが楽しんで学習できるようにしおりを作った。
- 須坂の昔と今の良さを知ってもらうために、写真を比較した。

6年生プランの特徴

- ・卓上の学習だけでなく、体験的に学ぶ。
- ・須坂の歴史をわかりやすく理解してもらうため、紙芝居を作成した。
- ・投扇興体験を通して、地域の方々との繋がりを持ち、体験後も交流を持つことで須坂の歴史を直接知ってもらうきっかけにする。
- ・5年生プランに比べ、より深い歴史や偉人などの学習を取り入れた。

5年生コース



6年生コース



須坂小学校にて事前学習



投扇興体験



須坂小学校

製糸業歴史・越寿三郎紙芝居

振り返り・アンケート

しおり

A班

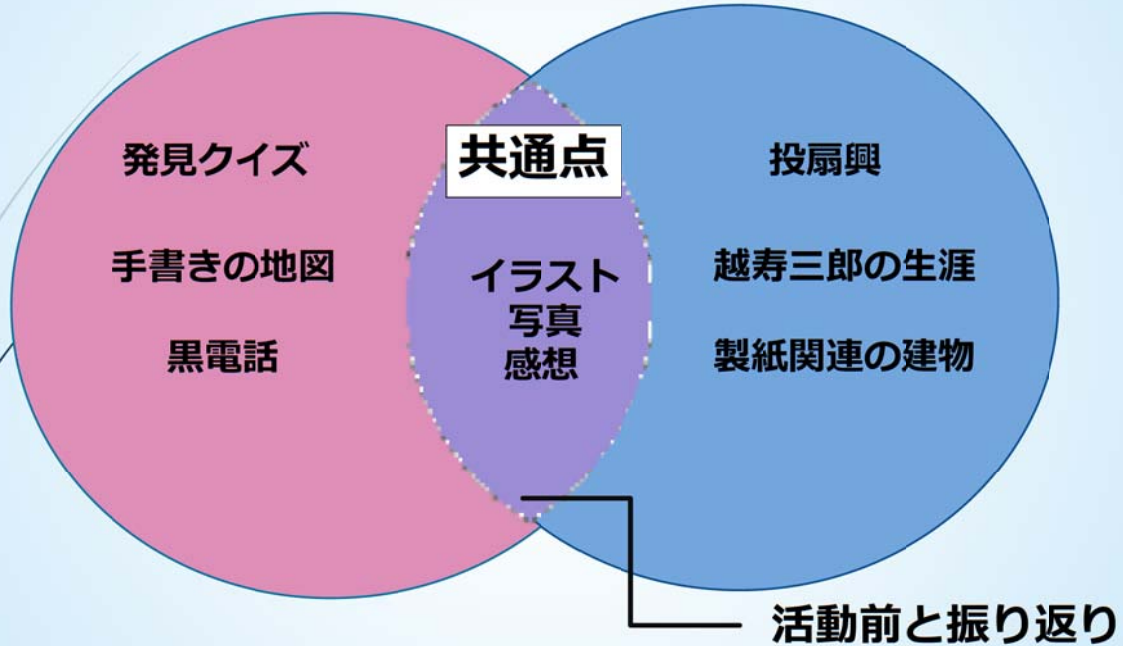
- ・地図
- ・活動の目的
- ・タイムスケジュール
- ・見つけてみよう！
- ・写真
- ・感想
- ・背表紙

B班

- ・今日のスケジュール
- ・今日の目標
- ・越寿三郎の生涯
- ・製糸関連の建物の紹介
- ・投扇興について

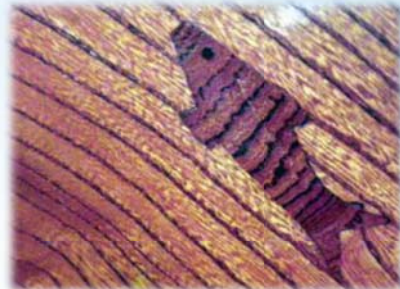
A班

B班



実際のしおりの1ページ

見つけてみよう！①



箱階段 明治20年代

切れ目のないケヤキで作られています。滑り止めは板を削りだした作りです。キズ隠しに鯉の滝登りが埋め込まれています。また、職人が仕事をさせていただいたお礼の1つとして飾りをしたという話もあります。

みつけた★

発見したこと等をメモをしてもらいました。



劇場



劇場通り

今日のスケジュール

9:00~9:40

朝の例会
・朝礼
・朝会
・伝道者の○○について学ぶ
・伝道者の○○について学ぶ

10:00~11:30

・○○を拝見しよう！
・今朝さんと交遊会

11:50~12:30

みかん会
・朝礼、アンケート記入

今日の目標



福音伝道者の一生

1. 福音伝道者の一生 (福音伝道者の一生)
2. 福音伝道者の一生 (福音伝道者の一生)
3. 福音伝道者の一生 (福音伝道者の一生)
4. 福音伝道者の一生 (福音伝道者の一生)
5. 福音伝道者の一生 (福音伝道者の一生)
6. 福音伝道者の一生 (福音伝道者の一生)
7. 福音伝道者の一生 (福音伝道者の一生)
8. 福音伝道者の一生 (福音伝道者の一生)
9. 福音伝道者の一生 (福音伝道者の一生)
10. 福音伝道者の一生 (福音伝道者の一生)
11. 福音伝道者の一生 (福音伝道者の一生)
12. 福音伝道者の一生 (福音伝道者の一生)
13. 福音伝道者の一生 (福音伝道者の一生)
14. 福音伝道者の一生 (福音伝道者の一生)
15. 福音伝道者の一生 (福音伝道者の一生)
16. 福音伝道者の一生 (福音伝道者の一生)
17. 福音伝道者の一生 (福音伝道者の一生)
18. 福音伝道者の一生 (福音伝道者の一生)
19. 福音伝道者の一生 (福音伝道者の一生)
20. 福音伝道者の一生 (福音伝道者の一生)



製糸関連の建物

「須坂クラシック美術館」

(須坂市指定有形文化財) (経済産業省認定 近代化産業遺産)



「蘇のまち観光交流センター（観光案内所）」



「ふれあい館まゆぐら」

(国登録有形文化財) (経済産業省認定 近代化産業遺産)



「旧盛家住宅」

(国登録有形文化財)



「ふれあい館しろふじ」

(国登録有形文化財)



写真やイラストを
入れてわかりやす
く

当日の様子



A班

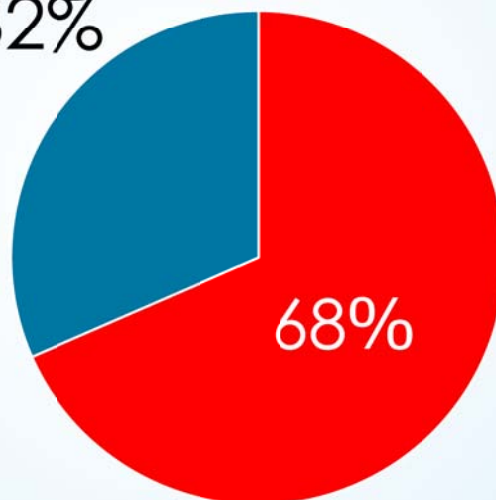


3、アンケート結果（57人）

質問内容	1. とてもそう思う	2.	3. 普通	4.	5. 全く そう思わない
この活動を通して、 須坂をより 好きになりましたか？	23	16	18	0	0
この活動を通して、 須坂は 素敵な町だと改めて 思いましたか？	24	19	11	1	2
須坂のことをもっと 知りたいと 思いましたか？	24	14	16	4	0
今日の活動は面白 かったですか？	35	11	19	1	0

須坂のことをより好きになった

32%



■ とても

■ 変わらない

アンケートのコメント欄

- ・須坂のことがよく分かった。前より須坂が好きになった。
- ・とっても楽しかったしわかりやすかったです。須坂のことがもっと好きになりました。
- ・とても楽しかったです。勉強になりました。
- ・今日はとてもいい体験になった。とても楽しかった。できればまた投扇興をやりたいです。
- ・黒電話ってべんりだね！！
- ・クラシック美術館で楽しかったことは、知らないことが知れてよかったです。
- ・また来てください！！

振り返り

- ・須坂の歴史にふれ、古いもののの中に新しい魅力を発見できた。
- ・子供たちに郷土愛を育むことができた。
- ・大学生と小学生が交流し、お互いに学べた。
- ・この活動をこれからも続けてほしい。

ご清聴ありがとうございました。



蔵の町並み景観に配慮した 店舗併用住宅の設計

長野工業高等専門学校
環境都市工学科

設計概要

- ・ 須坂市の蔵の町並み景観を考慮すること。
- ・ グループ7~8名で蔵の町並みの商店街を表現する。
- ・ 外観に統一性を持たせるなど、グループ全員で一つの町並みを形成する事
- ・ 客だまり・賑わいを演出する。
- ・ 店舗部分と住宅部分の入り口は別とする。

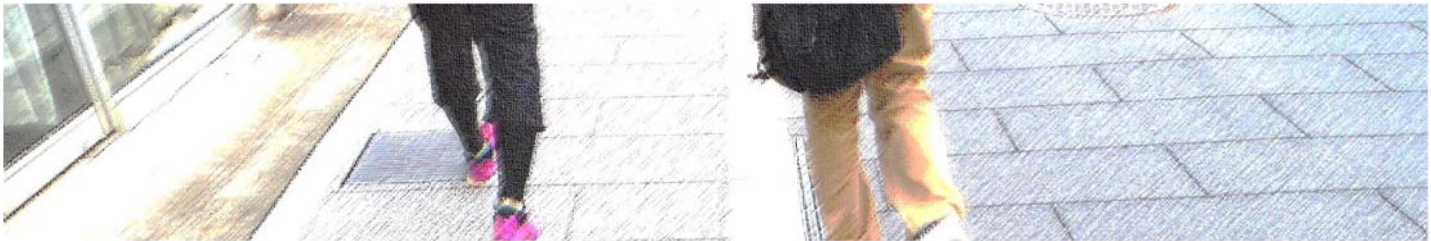
敷地条件



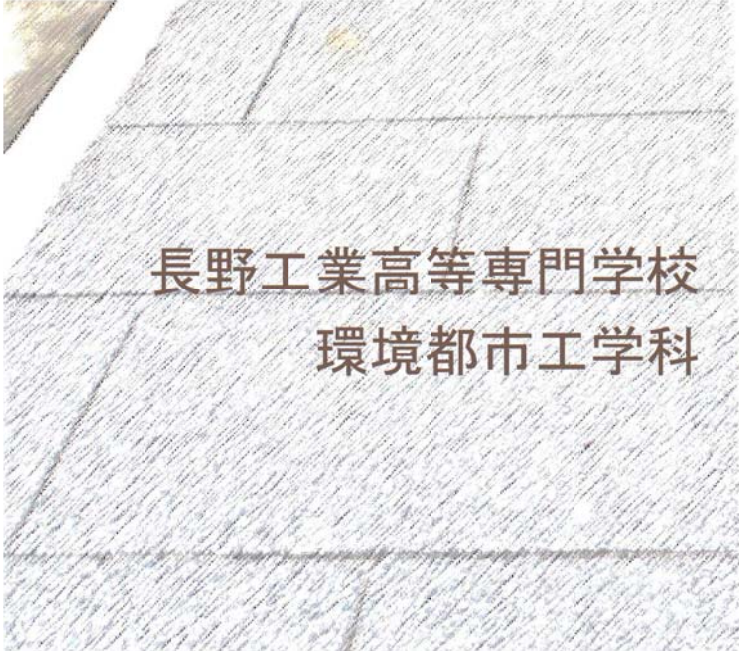
敷地は南北15m、東西20m
グループメンバーがN1～N4,S1～S4から選択する
道路幅は6m

本日の報告

- ❑ 蔵の町並みの調査報告(宇田川桜)
- ❑ 設計課題の報告
- ❑ 和菓子屋 楓(小林樹佳)
- ❑ 洋食屋 風雅(小平春輝)



須坂調査報告



長野工業高等専門学校
環境都市工学科

Nagano-National College of Technology



1



調査概要

- 日程:2014年4月28日
- 調査場所:須坂駅から旧上高井郡役所
- 調査方法:4グループに分かれて須坂蔵の町並みを調査
- 課題の参考になる「店舗」「人が集う空間」の写真を撮影

Nagano-National College of Technology



2

調査ルート



旧上高井郡役所

Nagano-National College of Technology



3

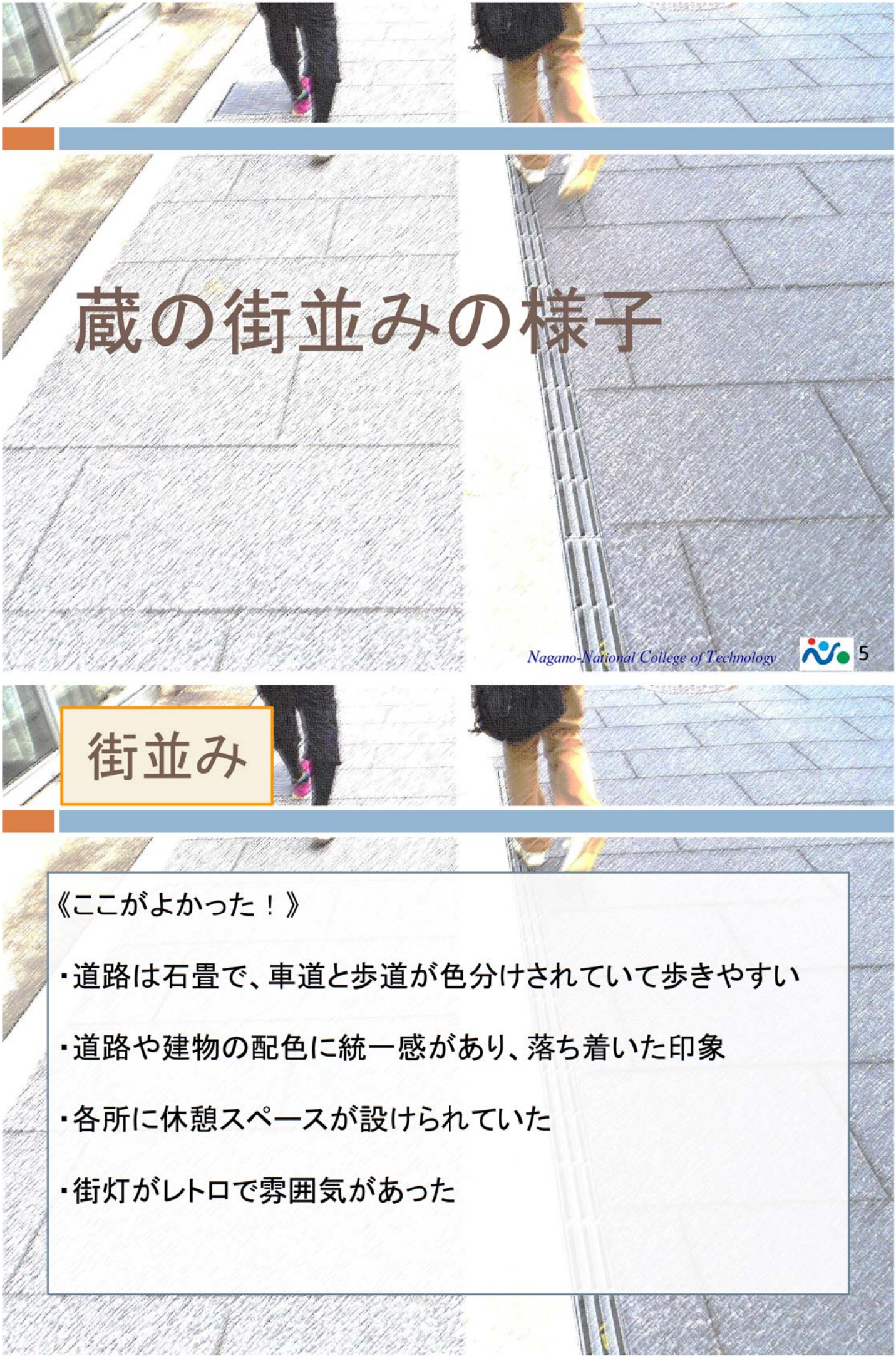
調査項目

1. 周辺の町並みについて
2. 蔵にはどのような特徴があったか
3. 周辺の商店の内容
4. 建築する場合に気をつけるべき点

Nagano-National College of Technology



4



蔵の街並みの様子

Nagano National College of Technology



5

街並み

《ここがよかった！》

- ・道路は石畳で、車道と歩道が色分けされていて歩きやすい
- ・道路や建物の配色に統一感があり、落ち着いた印象
- ・各所に休憩スペースが設けられていた
- ・街灯がレトロで雰囲気があった



街灯が
おしゃれ！

街並みの
統一感

石畳の道路

歩道と車道の
色分け



ちょうどいいところに
休憩スペース



街並み

《気になった点》

- ・電柱がむき出しで、蔵の街並みとちょっとミスマッチ？
- ・蔵らしい町並みが歩き進むにつれて薄れてしまった...
- ・駐車場があまりなく、車では来にくいかも...
- ・せっかくの休憩スペース、食べ歩きのできるものが売っていたらなあ...

電柱、電線
街並みに
あってる？

家？お店？
やってる？
やってない？

蔵の特徴

- ・屋根はほとんどが瓦葺き、壁は土壁や漆喰
- ・扉は引き戸が多い
- ・軒先があって、迎えてくれる感じがする
- ・窓のない面がある
- ・梁がむき出しで味がある



お店



お店

・蔵を改装、改築したお店や、蔵風に新築したお店も、上手に街並みに溶け込んでいた

・お菓子屋さん・服屋さん・酒屋さん・花屋さんetc...
→専門店が多い→ターゲットが地元の人??

・民家なのかお店なのか...少し入りづらい...
お店がやってるのかやってないのか...?
→シャッターの閉まっているお店も



建築する場合に気を付ける点

- 外見に統一感、協調性をもたせる
→ 街並みに自然になじむ建築
- 蔵らしさを持ちつつも、入りやすさと機能性を持った店舗
→ 蔵の特徴とどのように融合させるか
- どんな人に来てもらいたいのか？
→ ターゲットを明確に

蔵の街並みキャンパス成果発表

和菓子屋 楓

長野高専 五年
小林樹佳



須坂の蔵の街並み



歴史を感じる建物
落ち着いた雰囲気
くつろげる空間
須坂駅から近い
良いところがたくさん



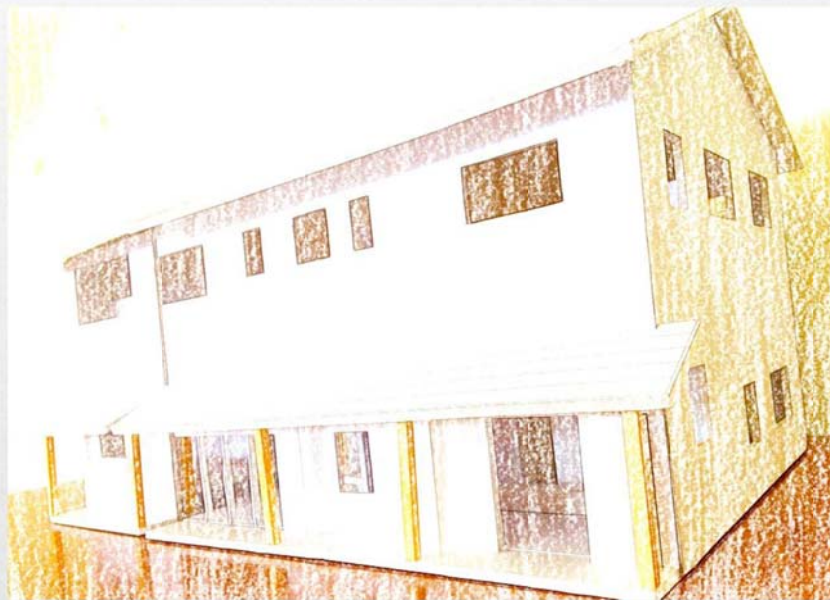
蔵を活かした街づくり

各地で都市化が進み、利便性が向上するなか
失われているのが**商店街**



商店街を活性化させるために**蔵の街並み**を形成

1. 作品紹介



2.コンセプト

和・・・日本の守るべき伝統
輪・・・人々の絆

“わ”を大事にする

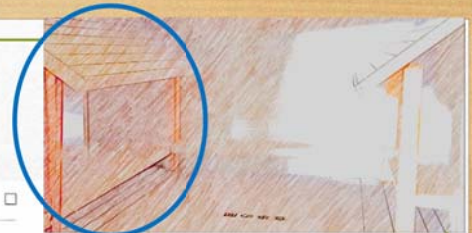


1F

蔵の特徴
分厚い防火扉

扉

縁側を体験



お茶会
民芸教室
勉強会・・・

食事スペース

茶室

茶室1
茶室2

厨房

郷土料理の
料理教室

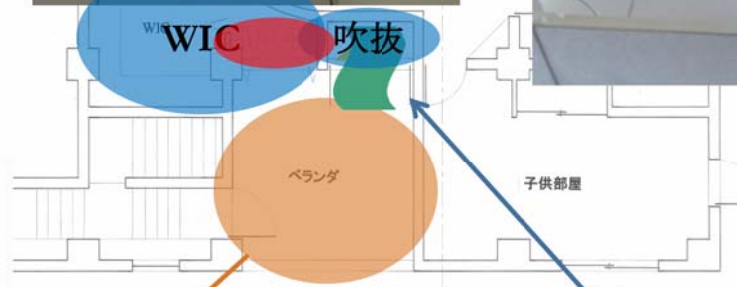
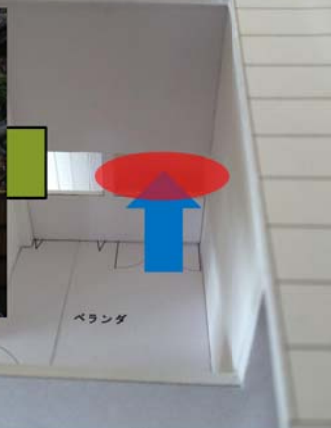
リビング



2F

洗濯物を干すことができる

街並みを見渡せる



日当たりがよい
食事
天体観測

食事の間に光や風

3. 須坂の蔵を知ってもらう



伝統を残していくために



若い世代に知ってもらう



電車に乗っているとき
誰かと待ち合わせをしているとき など
時間があれば**携帯**を使っている



利用

サービス

蔵の街並みやお店のことを

TwitterやFacebookなどSNSで紹介することで
割引き



多くの人が須坂の蔵の街並みについて
知る機会を得る



須坂の蔵の街並みを残す

「蔵の街並みキャンパス」に協力してくださった
須坂市職員のみなさま
ありがとうございました



ご清聴ありがとうございました

須坂 洋食屋 風雅



長野高専 小平 春輝



・石畳が整備されていて
歩くのが気持ち良い！！

・蔵の街並みを見れるだけでなく
実際に蔵の中に入
ることもできる！



多くの人に来てもらいたい！
特に同世代の10代、20代！！
この町の良さを知ってもらいたい！



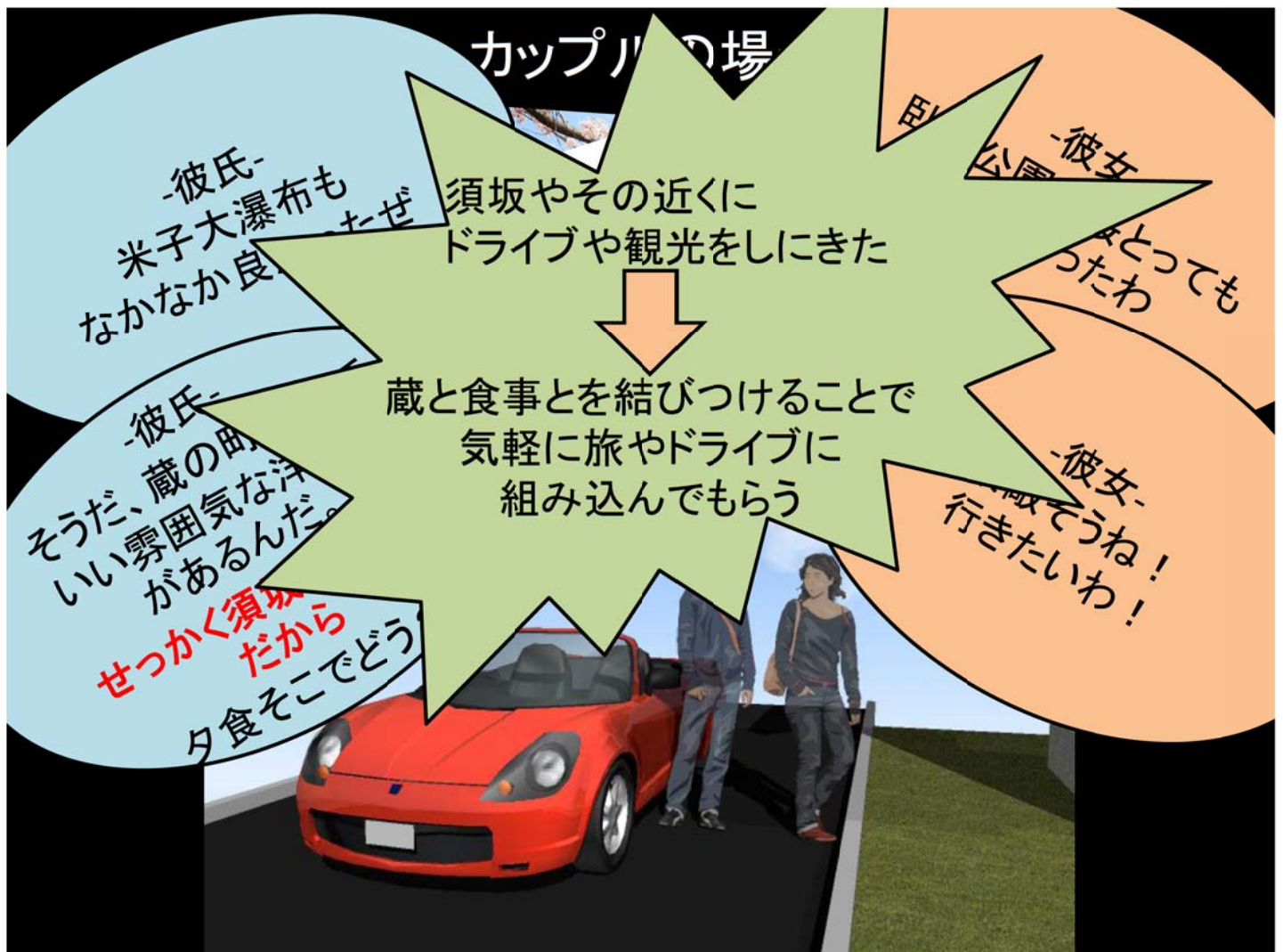
しかし、蔵だけを見にくる若い人もあまりいないのは確か、、、

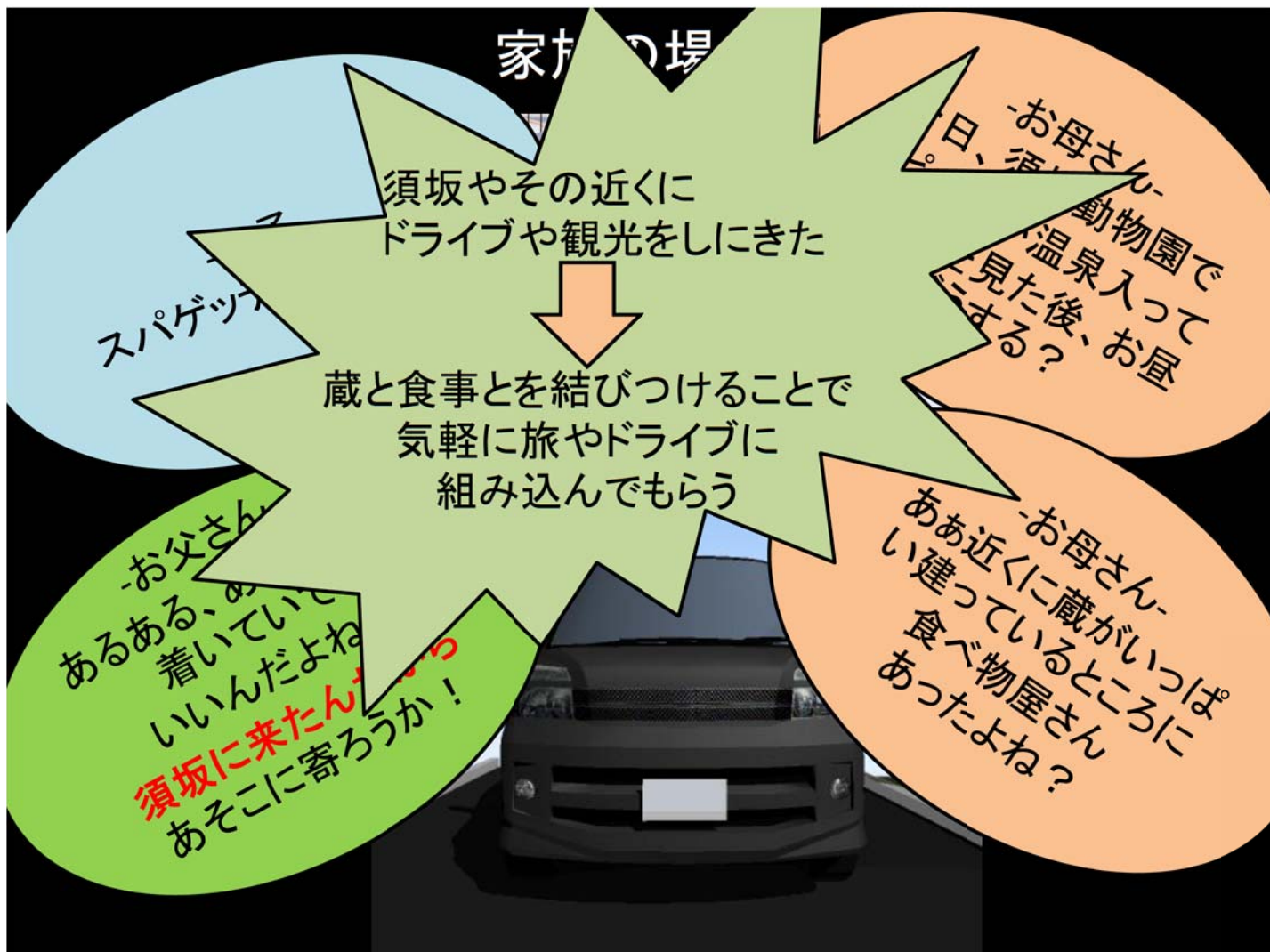


蔵と「何か、、、」があればいいのではないかな？



町には食べ物屋さんがいればなかった、、、
美味しいものがあれば人が来てくれるのでは？
美味しいものを食べに来てもらい、蔵の町並の良さを
知ってもらう！





洋食屋 風雅



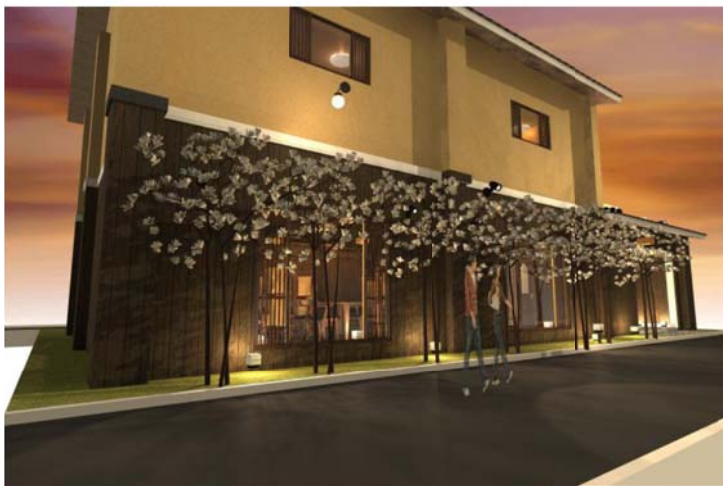


ターゲット

10代後半～30代程度のカップル

若い家族

長野市やその周辺の街からドライブには程よい距離の須坂
臥竜公園からの帰り道や米子大瀑布からの帰り道
デート時の食事や休憩地点にピッタリの場所を提供



安心して入りやすい入口

入りやすさへの課題

町を散策していてどんなお店なんだろう？
入っていいのだろうか？
と思うことがこの街には多々あった。

解決案

安心して入店できる且つ須坂の良い雰囲気を崩さないために
掘り込み型で店外と厨房を
対面にした。
また入口周りにライティングを設置
し須坂の夜を彩る。



外観



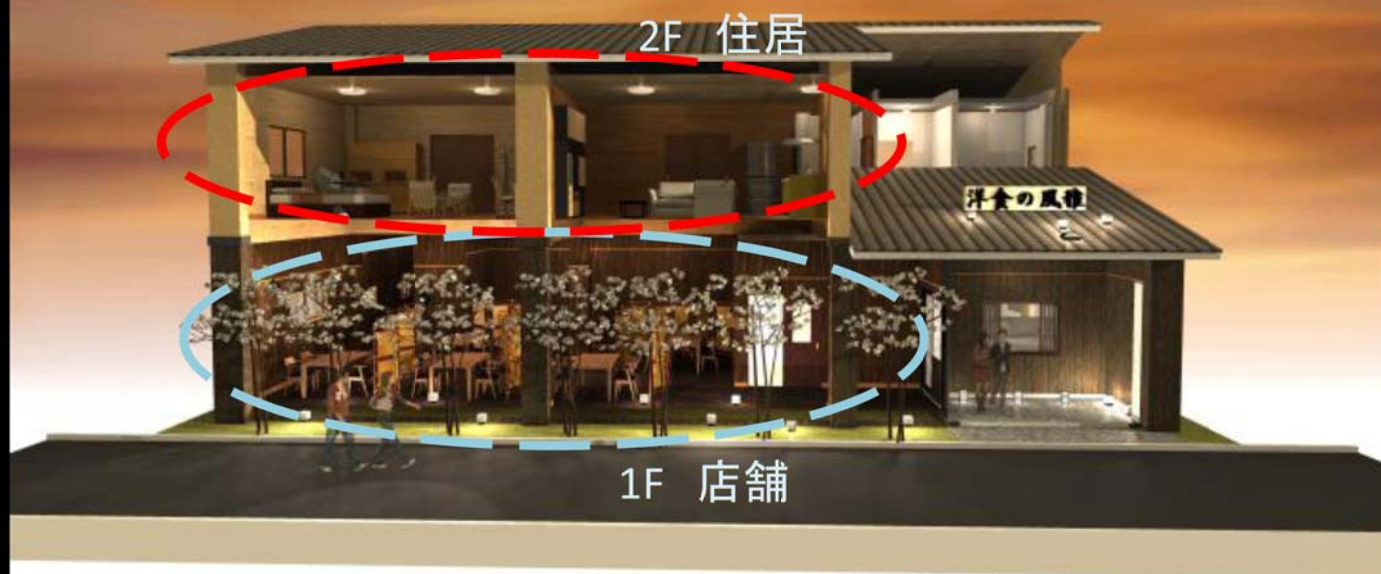
須坂の蔵の外観は白と黒の
二色塗装と茶系色と
黒色の二色塗装の
2パターンが
多かった。
今回の設計でも
二色塗装を採用した。

外観をほのかに
ライティングすること
によって
カップルのデートに
雰囲気を出す

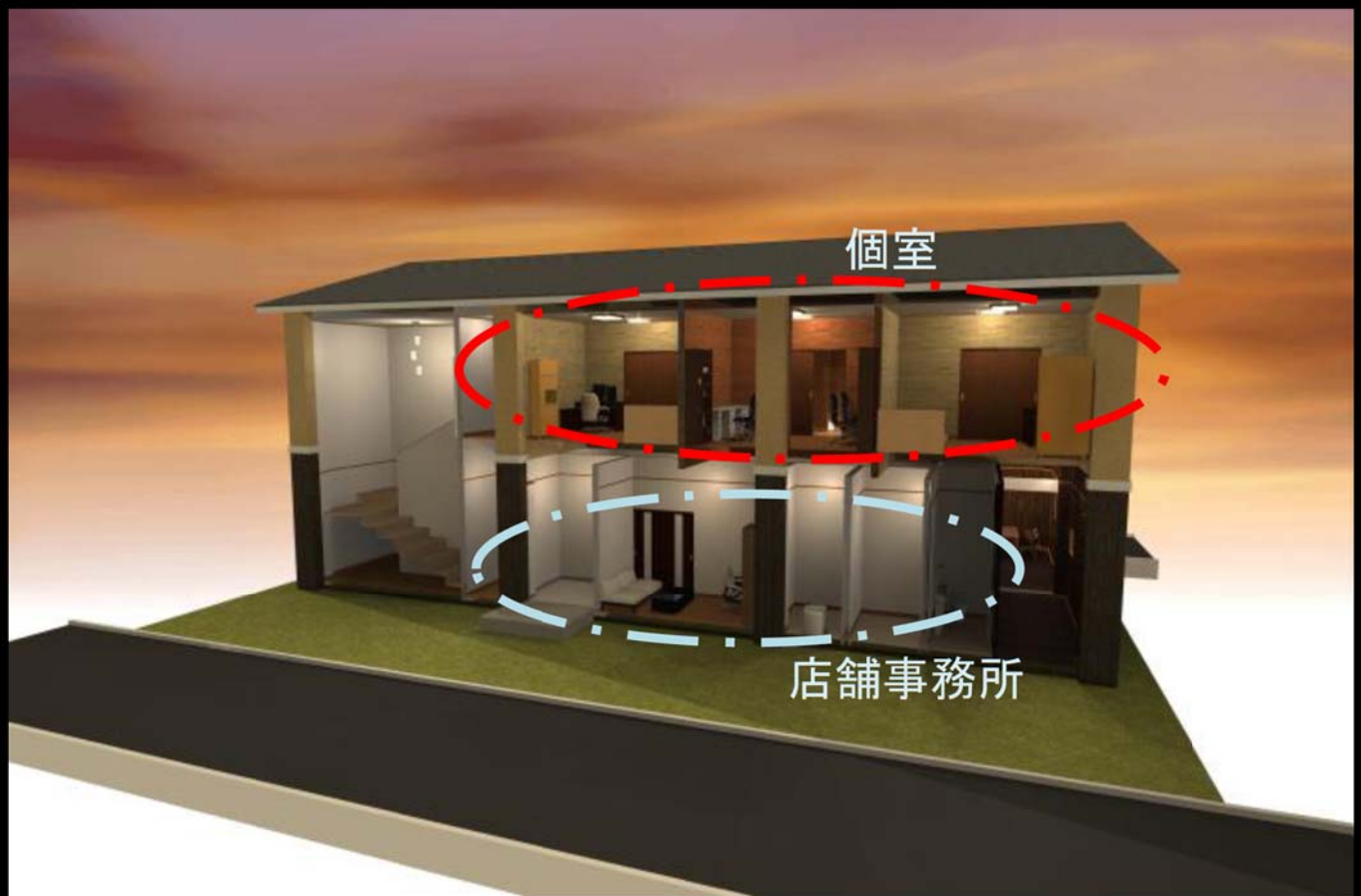


外観 正面

店舗兼住宅



外觀 後ろ



建物 横 (東)

建物 横 (西)

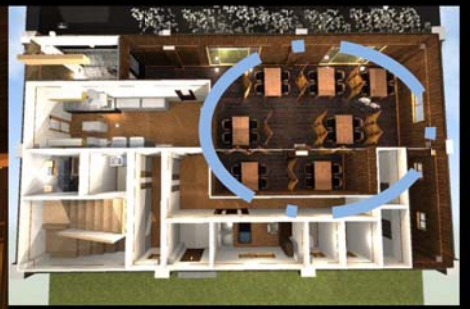


1F 間取り



2F 間取り





1F 店内

店内の設計は構造的壁を一切使わずに仕切りで客席を区切っている。
新たな客層を狙うことによつての貸切やあらゆるニーズに対応できるようにするためである



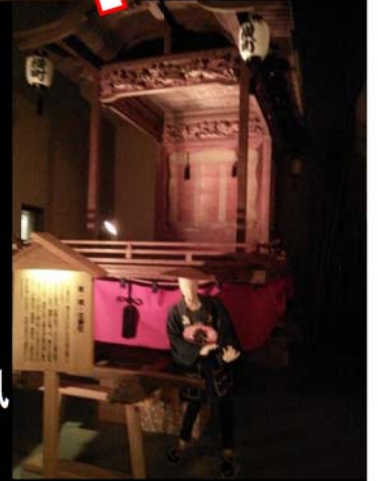
町には郷土の文化を展示している
笠鉾会館

蔵の中を体験できるクラシック館



文化が豊か！！

須坂の文化を楽しめるギャラリー風
の中廊下を設計に取り入れた。





ご清聴ありがとうございました。



蔵の町並みキャンパス成果発表会

長野県短期大学生活科学科健康栄養専攻 戸井田英子 杉山 英子

健康栄養専攻

蔵の町並みキャンパス—7年間を振り返って—

平成20年度

健康栄養専攻学外行事

学生は参加希望者のみ

事業概要 須坂市内の食品製造工場の見学を行い、須坂市における食品の生産と流通の実態について研修する。また、田中本家博物館を見学し、生活の中における食の歴史的・地域社会的な位置づけについて学習する。さらに田中本家で再現江戸料理を味わい、古今の食事のありかたの違いについて、学び、健康食としての和食・伝統食への理解を深める。

平成26年度

事業テーマ 須坂市の食の歴史と文化を学ぶ

調理学実習Ⅱの中に位置付けている

全員参加

事業概要 須坂市内の食に関する各施設の見学およびおやき作りの体験を通して、須坂市の食の歴史・文化・暮らしについて知見を広め、健康食としての伝統食への理解を深め、地域文化の展開と可能性について考える。

年	活 動 内 容
平成20年	須坂市学校給食センター 見学及び学校給食概要についての説明を聴く 旧上高井郡役所 伝統野菜の地産地消についての説明と伝統野菜料理試食 田中本家博物館 「季節のおごっつお」 試食と博物館見学 臥竜公園・動物園 カンガルーのハッチ 菊花展見学
平成21年 平成22年	おやき作り体験 「食彩工房よっと蔵い」 旧上高井郡役所 昼食および須坂市概要説明 須坂市ふれあい館まゆぐら 機織体験・ビデオ研修 世界の民俗人形博物館見学 臥竜公園・動物園
平成23年	おやき作り体験 「食彩工房よっと蔵い」 「そのさとホール」 旧上高井郡役所 笠鉾会館ドリームホール ふれあい館まゆぐら 須坂クラシック美術館
平成24年	おやき作り体験 「食彩工房よっと蔵い」 「そのさとホール」 塩屋醸造 説明と見学 味噌汁の試食 旧上高井郡役所 須坂クラシック美術館・自由散策
平成25年	おやき作り体験 「食彩工房よっと蔵い」 「そのさとホール」 塩屋醸造 説明と見学 旧上高井郡役所 遠藤酒造 須坂クラシック美術館・自由散策
平成26年	おやき作り体験 「須坂市人権交流センター」 塩屋醸造 説明と見学 旧上高井郡役所、遠藤酒造・自由散策

見学した場所



おやき作り体験

平成21年度～現在まで6年間実施

平成21年～22年度まで一会場 10人程度

平成23年～25年度まで二会場 各20人程度

平成26年度

場所： 須坂市人権交流センター

40人が一つの会場で調理実習を行う

みんなで一緒におやきを
作って、食べる

おやきの具



切干大根 村山早生ごぼう入



玉ねぎと青じそ



丸なす



野菜ミックス



さつまいもとあんこ

具材を包む



誰かと一緒に何かをする
「共感体験」
「集団」と「おやき作り」
のみで実現可能

ついに実現しました 豊かな食卓が



共食（食事を通して人と人とがつながり、他者と共感する機会）が実現した

実現できたのは、須坂市役所まちづくり課 滝澤さん、鶴田さんのおかげです。本当にありがとうございました

塩屋醸造見学 信州みそ、発酵食品、日本の食文化を学ぶ



小林さんから味噌作り、発酵食品の良さについて説明を聴く



味噌蔵

扉が開く味噌の香りがしてきた
壁の黒色は麹菌など
長年、蔵に引き継がれてきた
微生物が味噌を作り出す

学生の感想より

説明して下さった方は、歴史にも詳しくて、話を聴いているのがとても楽しかった。一つの食材から、栄養の話、その食材のルーツ、町の歴史、地域の人とのつながりを知ることができたことに、とても感動しました。私もあんな風に語れるくらい、栄養のこと、食品のことを勉強したい。

郷土食の継承 おやき作り

健康栄養専攻25年度生における調査結果

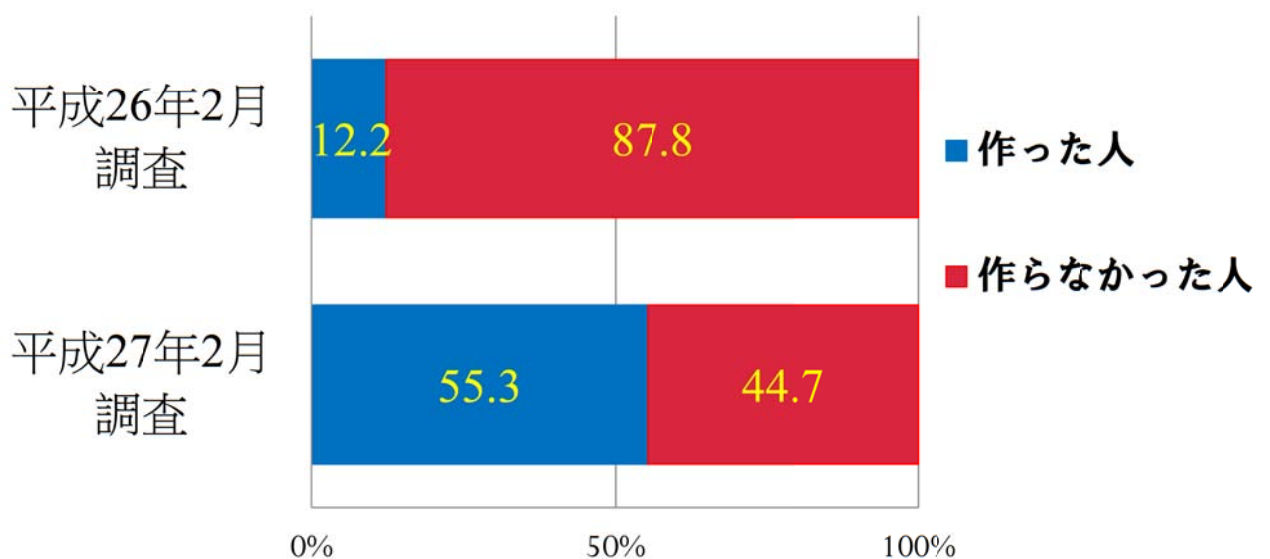
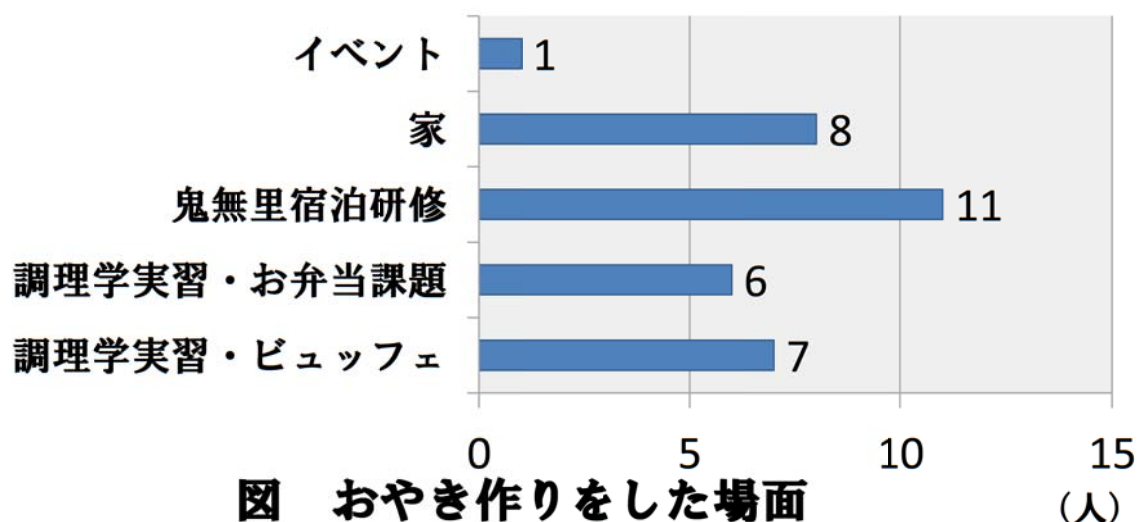


図 おやき作り体験（平成25年9月）後、おやきを作った人

郷土食の継承



授業の中で作った学生が多い

家で作った人はお弁当課題のため家で作った学生を数名を加えている

家庭における継承は難しい

まとめ

7年間実施し、須坂市において食の歴史や文化を学んだ

- ・ 学校教育に郷土料理実習を導入することで、学生が体験的に学ぶことができ、授業の中で自主的におやき作りを実践する。また、少数ではあるが家庭でも実践する
- ・ 信州みそなど、発酵食品の製造や食文化について知見を深める
- ・ 卒業後、栄養士業務に就く学生は保育所、高齢者施設、病院、学校、事業者などで食事を提供する。共食を通してのコミュニケーションは学生の食や社会への関心が深まり、次世代に向けた食育への発展が期待できる

蔵の町並みキャンパスでの 見学地の情景

長野県短期大学
日本語日本文化専攻
日本語・古典文学・中国文学ゼミ



平成26年度の蔵の町並みキャンパス

- 実施：2014年10月30日（木）12:00～17:30
- 目的：見学・散策を通し、須坂市の情景を知る
- 訪問場所：須坂市博物館、臥龍公園、須坂市動物園、田中本家博物館、笠鉾ドリームホール
- 参加者：25名（学生22名、教員3名）



平成26年度の蔵の町並みキャンパス

日本語日本文化専攻



専攻の特色を活かせる企画



自分たちで撮影した
写真を使用

使用した作品



ポストカード作成

古典文学ゼミ

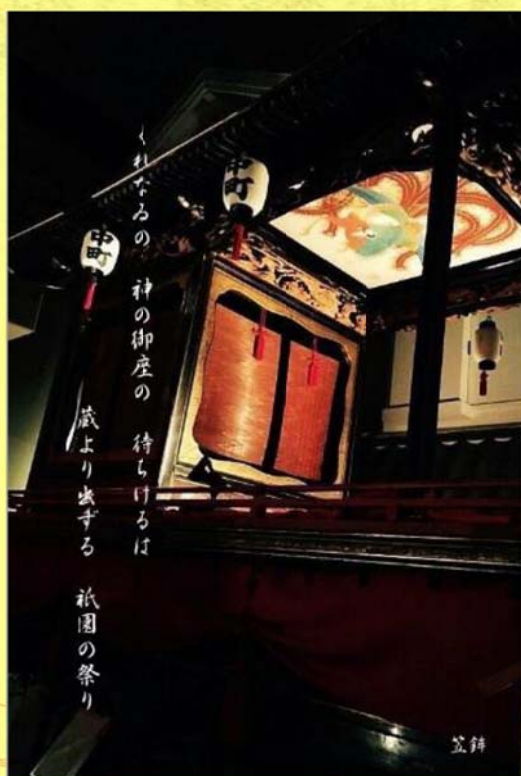
古典文学ゼミ

● コンセプト :

須坂の魅力を
和歌で表現したい！！

くれなゐの 神の御座の 待ちけるは
蔵より出づる 祇園の祭り

かみのみくらの
まちけるは



撮影者：竹井未来
撮影場所：
笠鉾ドリームホール

ちはやふる 神の社は 竜の臥す
紅葉照り映ゆ 秋の夕暮れ



撮影者：塚田友美 撮影場所：臥竜公園

本歌取り

- 本歌

「ちはやふる 神代も聞かず 竜田川
からくれなゐに 水くくるとは」
(在原業平)

- 「本歌取り」とは…

本歌の一部を取り入れる方法。

中国文学ゼミ

中国文学ゼミのポストカード

- 菅沼祐子
- 「秋風薫る田中本家庭園」
- 田中本家庭園の秋の景色を切り取りました。



撮影場所：田中本家

秋風薫る田中本家庭園

- 清水千里
- 「江戸から昭和 当時の暮らし伝える豪商の館」
- 夕暮れ時の田中本家に趣きを感じました。

撮影場所：田中本家



江戸から昭和 当時の暮らし伝える豪商の館



その1歩を、蔵の町へ

- 大川友里恵
- 「その1歩を、蔵の町へ」
- 閑静な小径に風情を感じました。

撮影場所：田中本家



- 中村涼子
- 「時間がとまる、光がとまる町」
- 板塀に映る影と紅葉のコントラストをお楽しみください。

撮影場所：田中本家

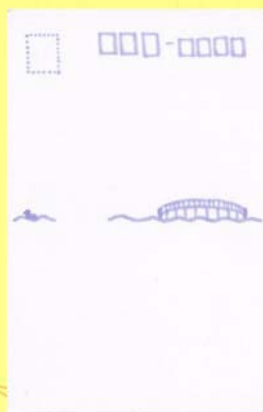
日本語学ゼミ

日本語ゼミのポストカード

- 「もみいづる 木々の色彩 溶かす木洩れ日」
- 田中本家博物館
- 撮影：湯本真由美 フレーズ：徳竹香織



- 「心のふとまる、この景色。」
- 臥竜公園 竜ヶ池
- 撮影：徳竹香織 フレーズ：北澤千佳



- 「恋に落ちた、・・・かも」
- 臥竜公園
- 撮影：湯本真由美 フレーズ：北澤千佳



- 「背中が広く見えたら、愛。」
- 須坂市動物園
- 撮影：北澤千佳 フレーズ：徳竹香織



- 「こんなに鮮やかに、
想いを伝えられたら。」

- 臥竜公園
信州須坂大菊花展
- 撮影・フレーズ
：湯本真由美



- 「花が美しく見えたとき、
あなたのことを想っていました。」

- 臥竜公園
信州須坂大菊花展
- 撮影：湯本真由美
フレーズ：
徳竹香織



まとめ

専攻に沿った企画を提案することができ
学生目線に取り組むことができた

この景色をより多くの人に知って
もらうため、活動を現一年生に
引き継いでいきたい

ご静聴ありがとうございました

ホール外に実物が展示されていますので、
ぜひご覧ください。

街区の再生

2015.02.07

信州大学工学部建築学科

■課題内容

須坂市の歴史的市街区を対象として、都市組織の個別的再生を通じて、街区全体を段階的に再生する。

その全体プログラムを組みたてるとともに、個別的再生を個々に設計する。

■課題の範囲（別添図参照）

①対象街区＋②対象街区の周りに通っている道＋③その道に面する敷地



対象敷地

街区再生 -新町地区再生計画-



対象街区(東側)

街区再生 -新町地区再生計画-



対象街区 (北側)

街区再生 -新町地区再生計画-



対象街区 (西側)

街区再生 -新町地区再生計画-



対象街区(南側)

街区再生 -新町地区再生計画-

路地と憩いの場



信州大学建築学科三年 蒲谷 久美

須坂

須坂は明治から昭和初期にかけて製糸業で栄えていた。街を歩くと栄えていた当時の美しい蔵の街並みが残っている。しかし、製糸業の衰退とともににぎわいが失われていた。そこで今回、路地と憩いの場を複数設けることにより当時のにぎわいを取り戻す。



美しい蔵の街並み

街区内の建物



対象街区

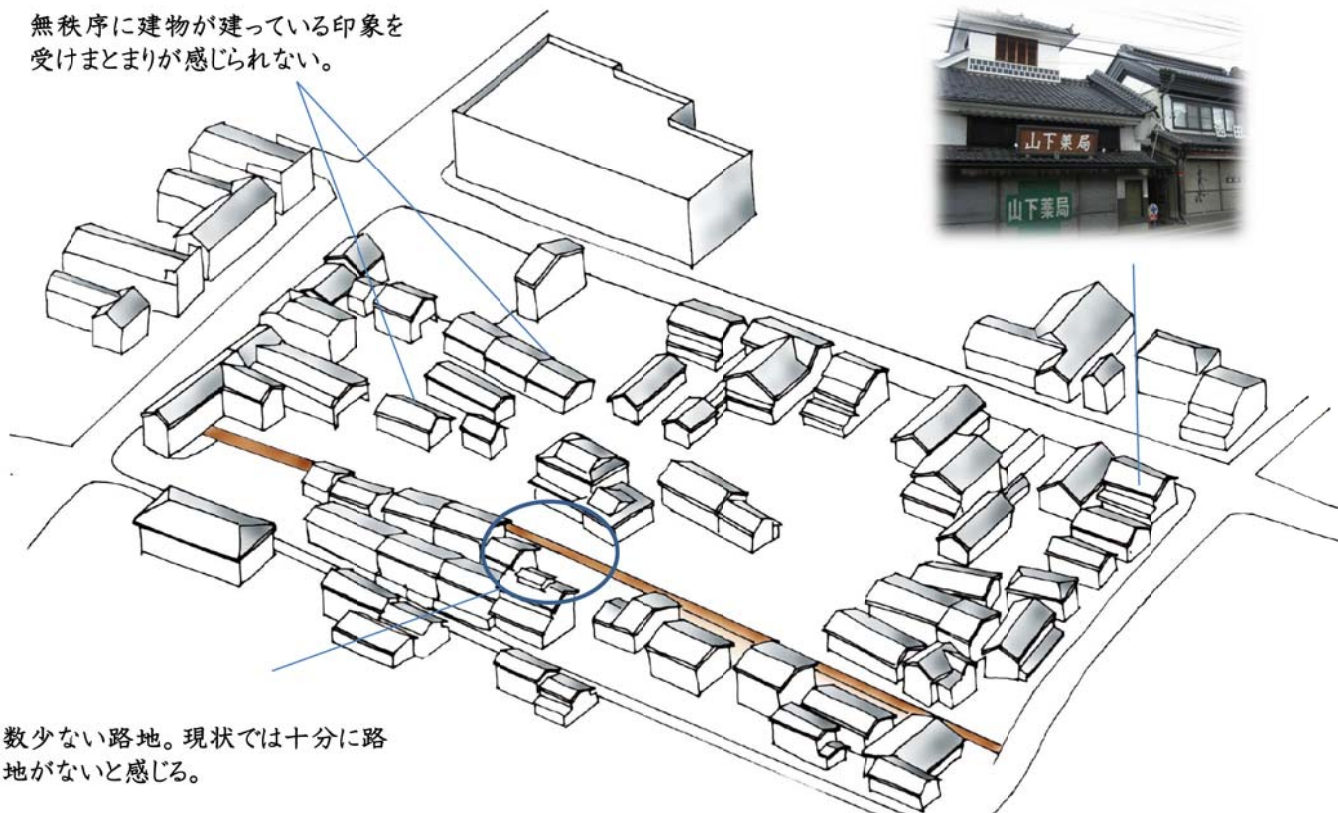


街区の向いには82銀行やコンビニなどの人が行き交うである建物がある。
周辺には図書館、幼稚園、小学校、中学校、高校、病院、公民館がありこの敷地のにぎわいは重要なものとなる。

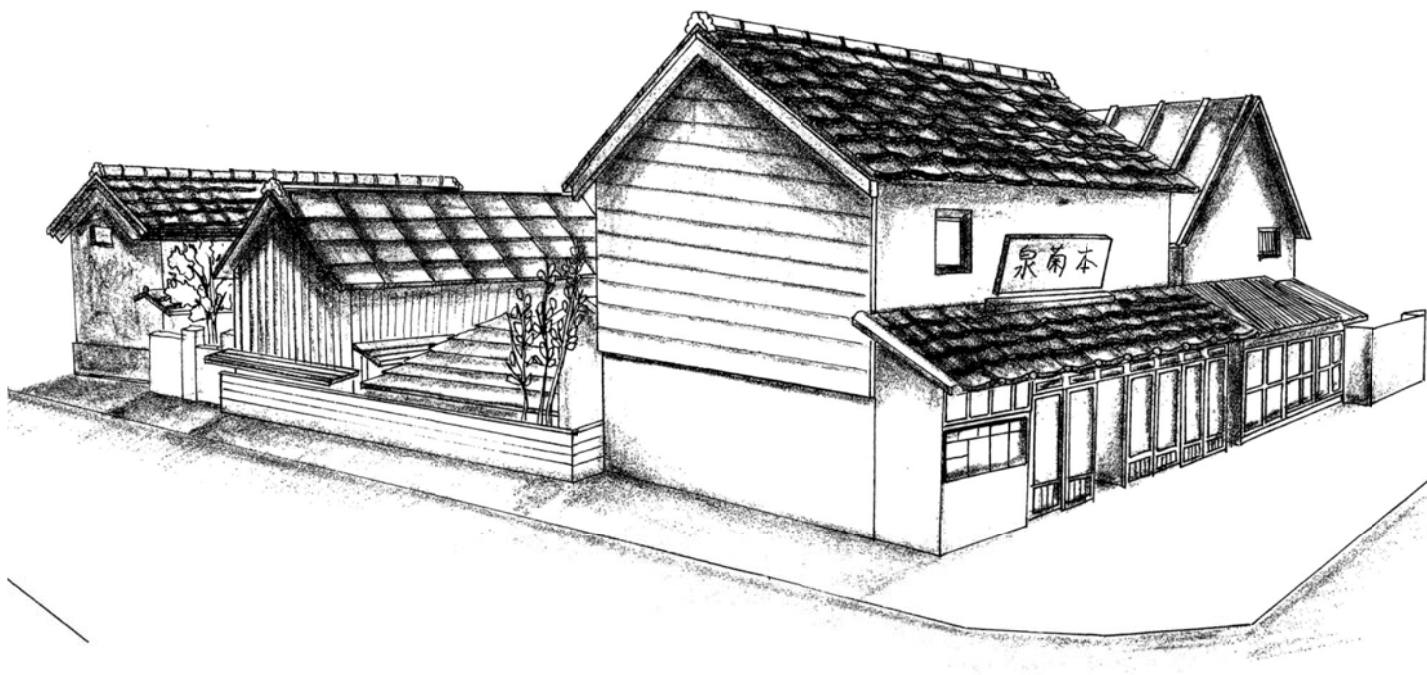
現状

現状の街区は無秩序に建物が散らばりまとまりがない。街区に入る道も十分でないため、閉鎖されている印象を受ける。

無秩序に建物が建っている印象を受けまとまりが感じられない。



数少ない路地。現状では十分に路地がないと感じる。



蔵の須坂らしい雰囲気がしっかり残っている。

Concept

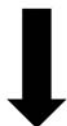
路地



憩いの場

街区内へアクセスしやすくなることで多くの人を取り込む

疲れたらひと休みできる場を設けることで街区内へ人を取り込む

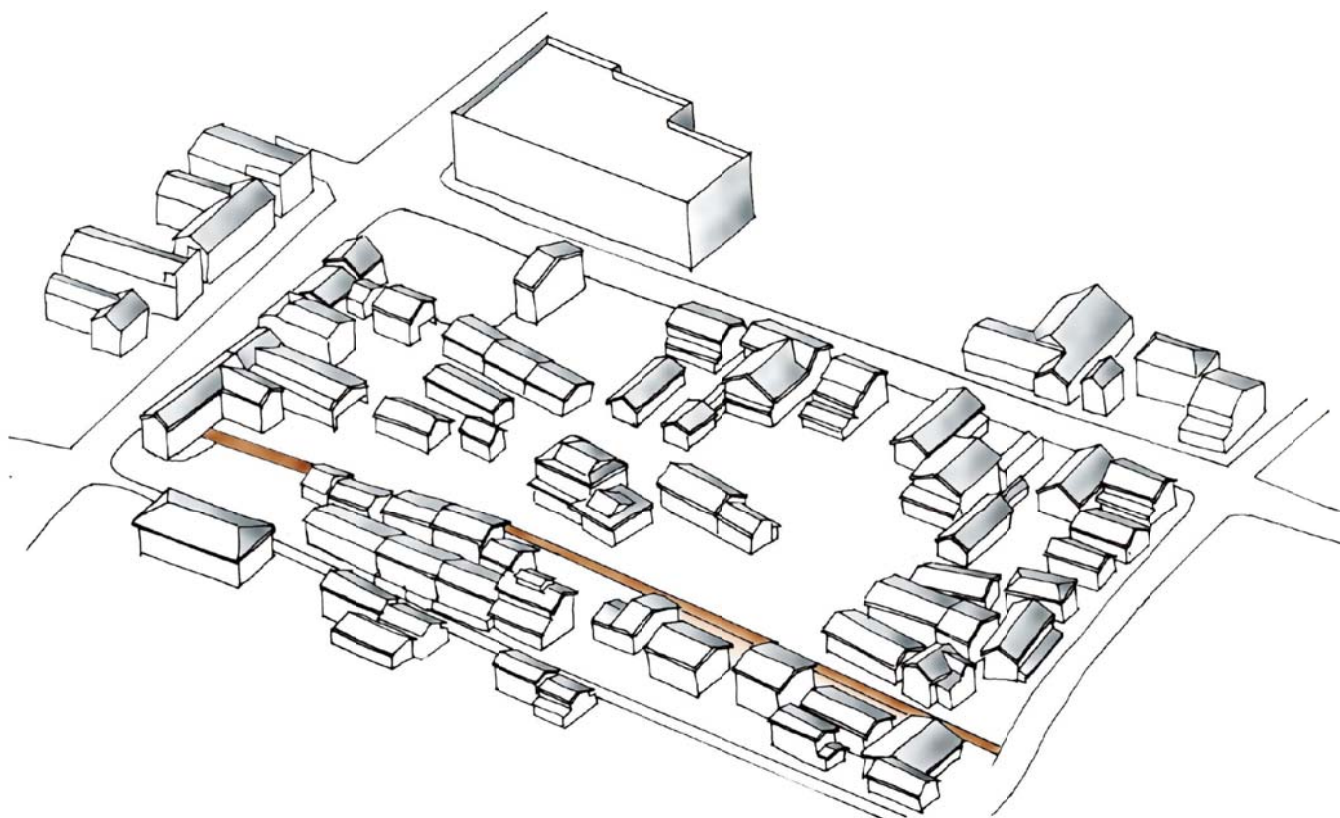


多くの人を取り込み街区内の活性化を目指す

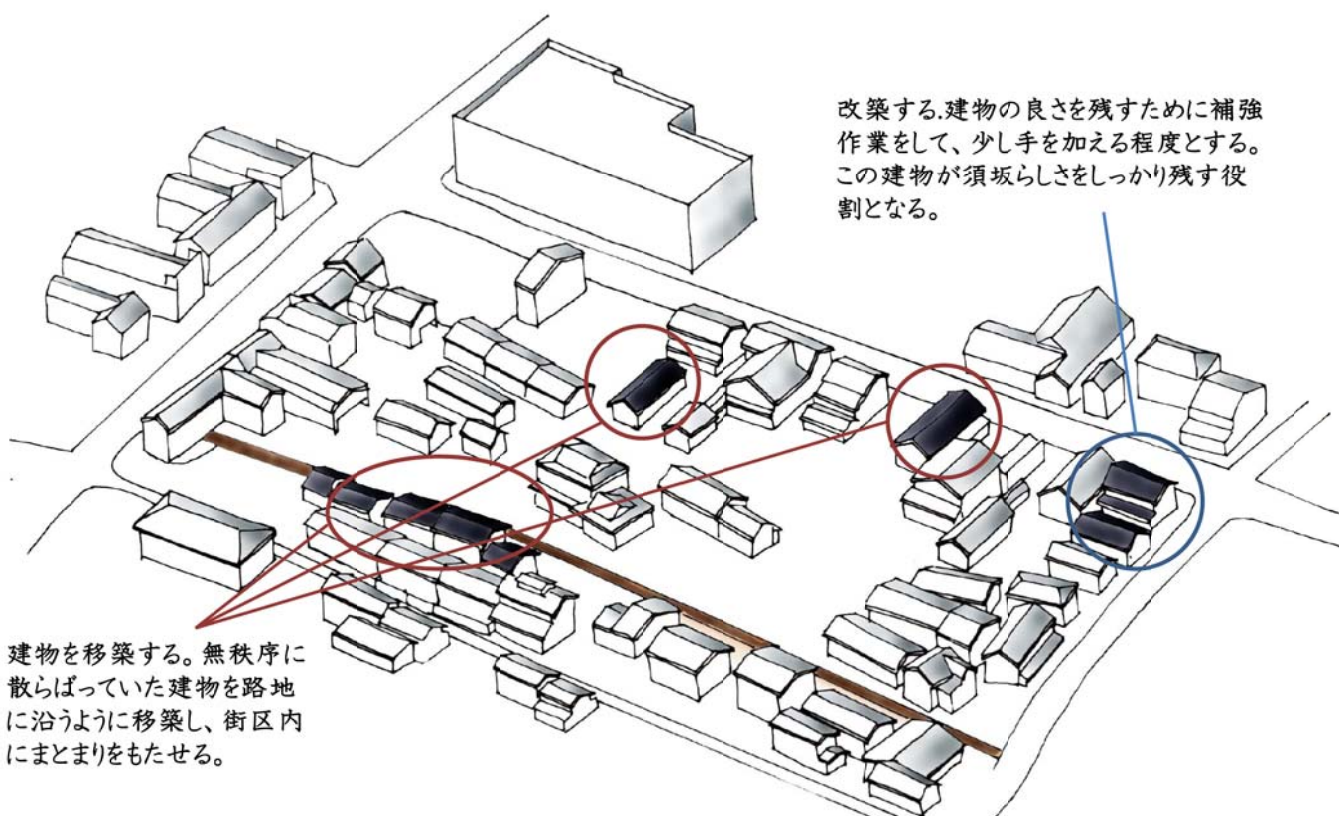


須坂の活性化

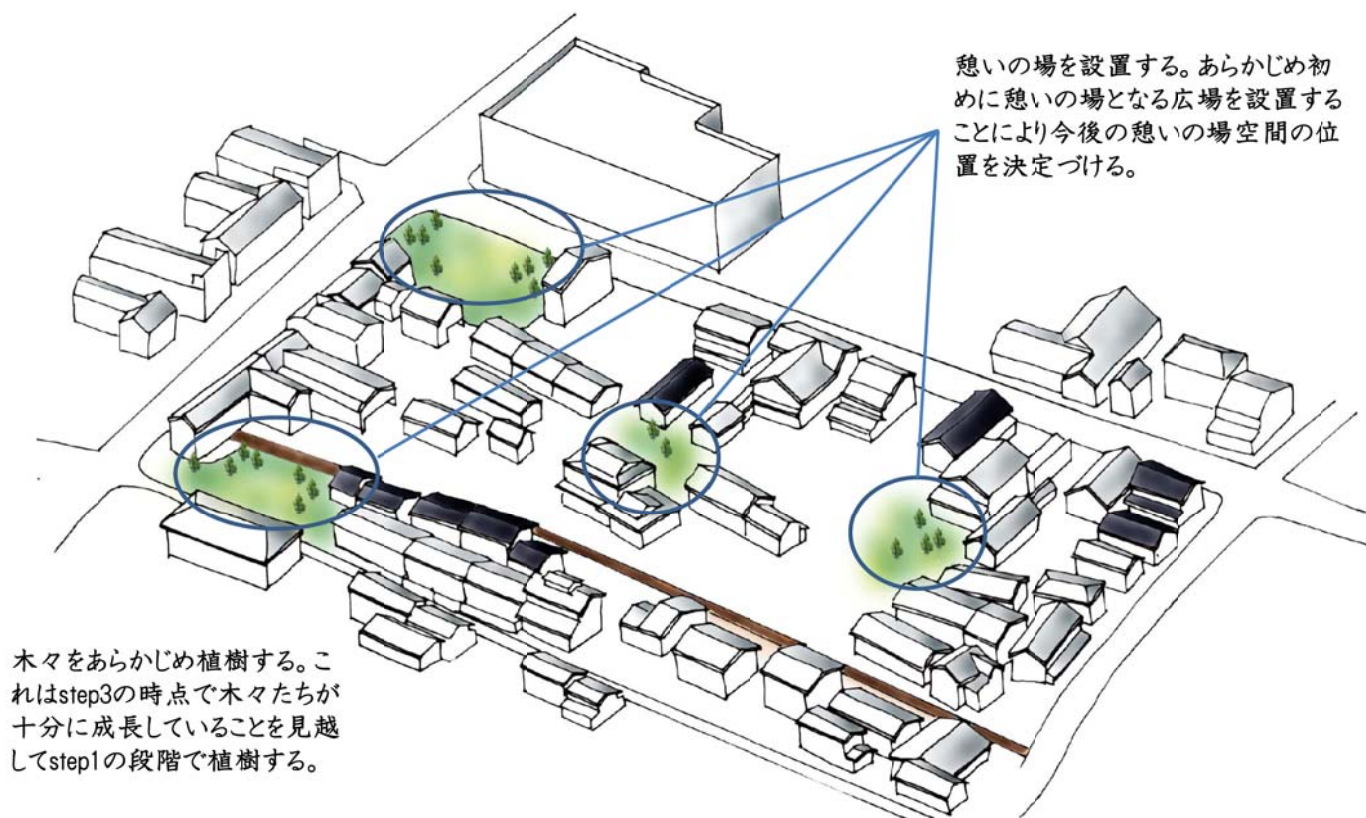
Step1 街区内の建物整理＋憩いの場の設置



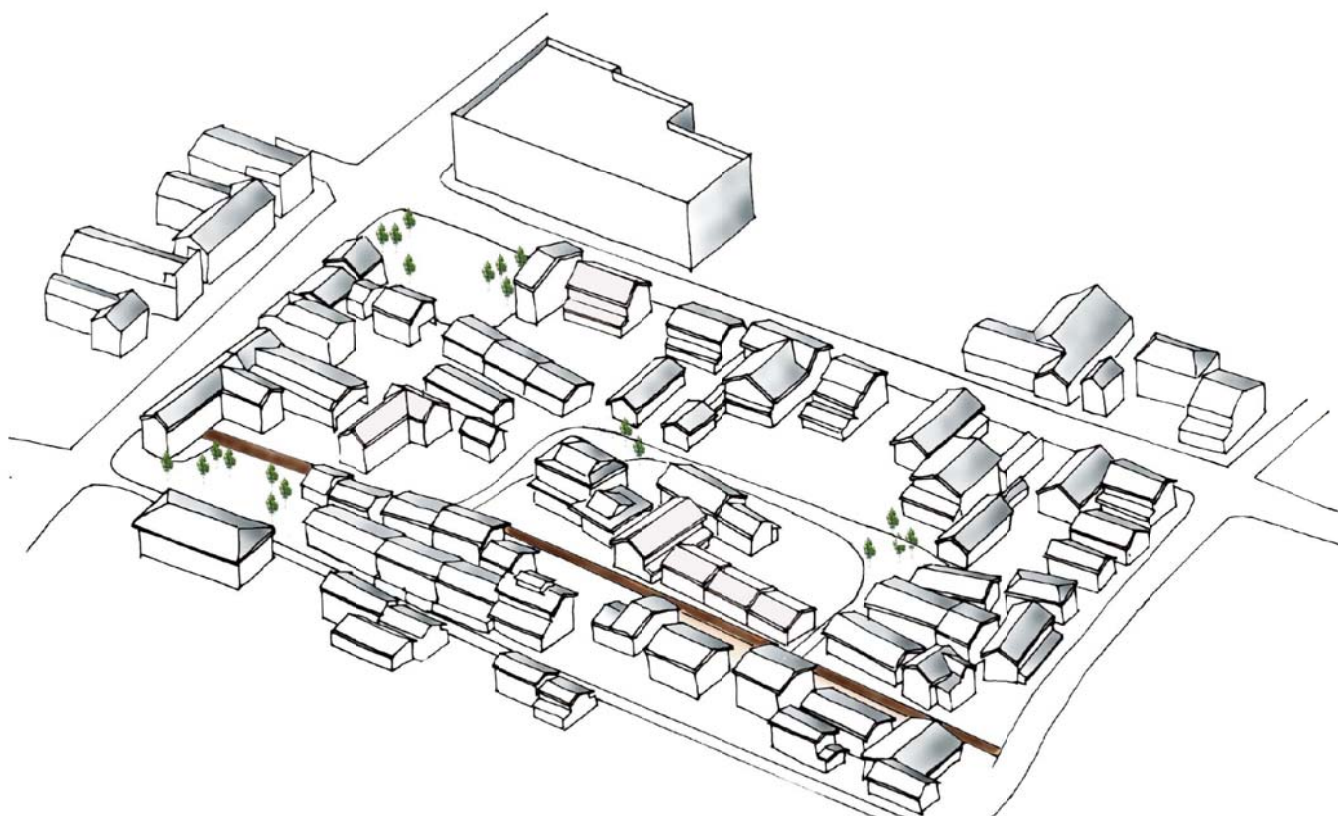
Step1 街区内の建物整理＋憩いの場の設置



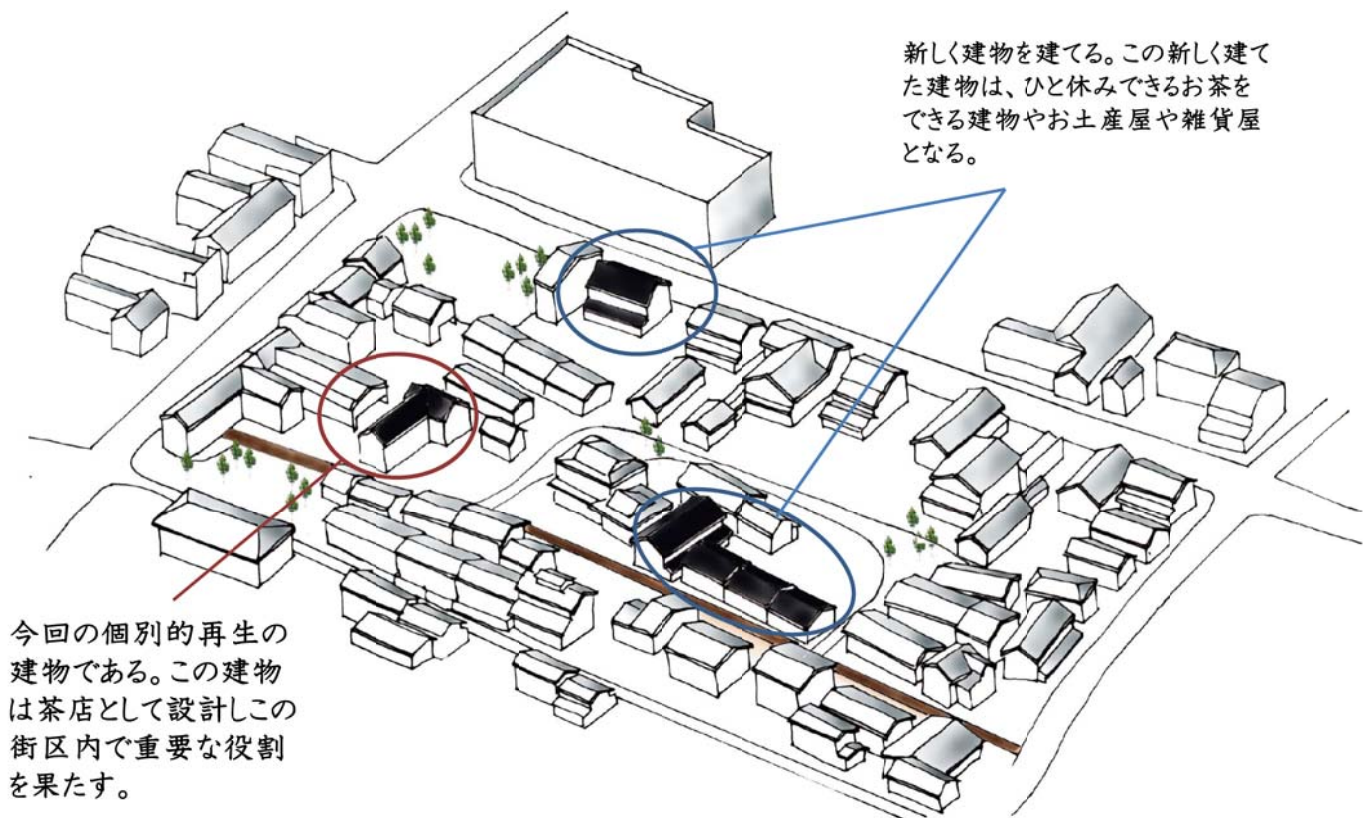
Step1 街区内の建物整理＋憩いの場の設置



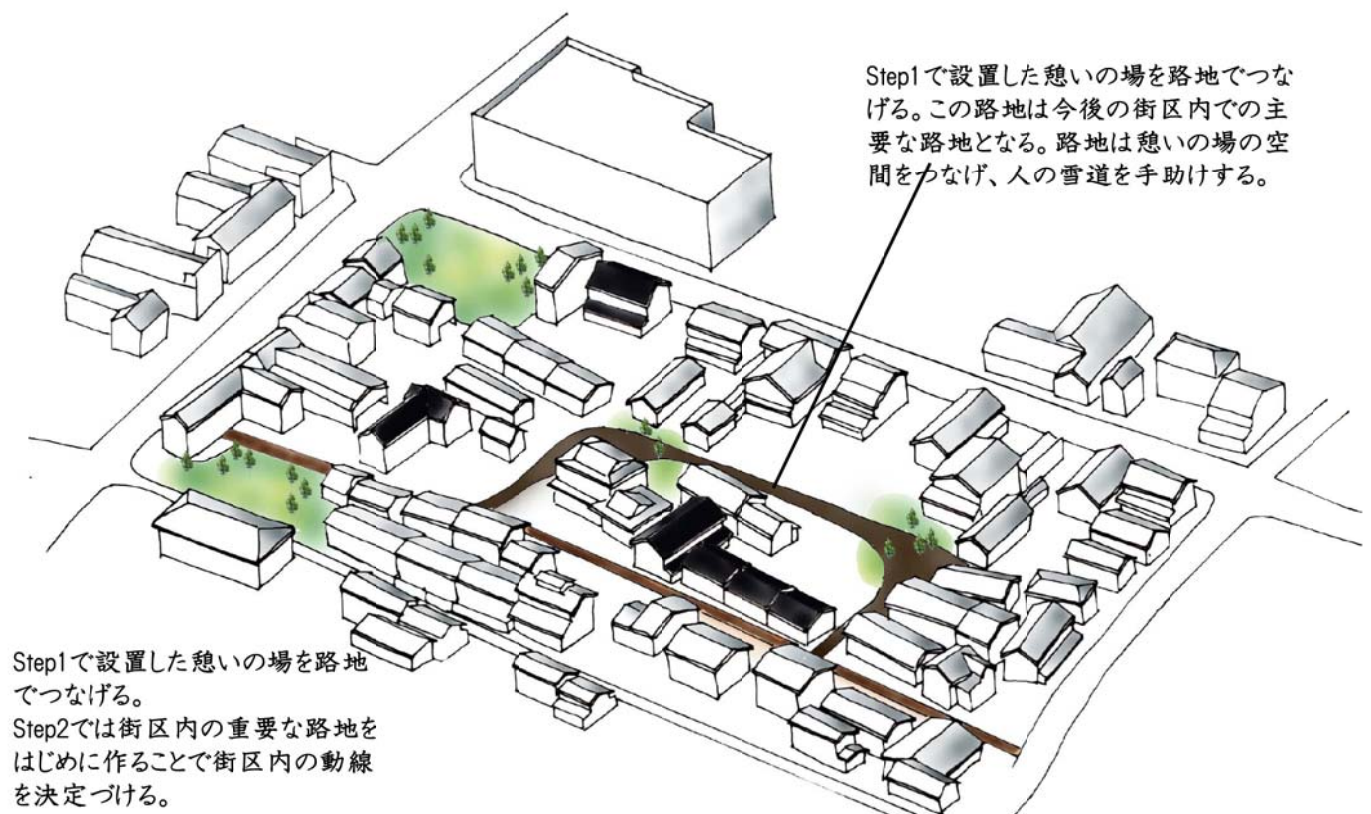
Step2 店舗の建設＋路地をつなげる



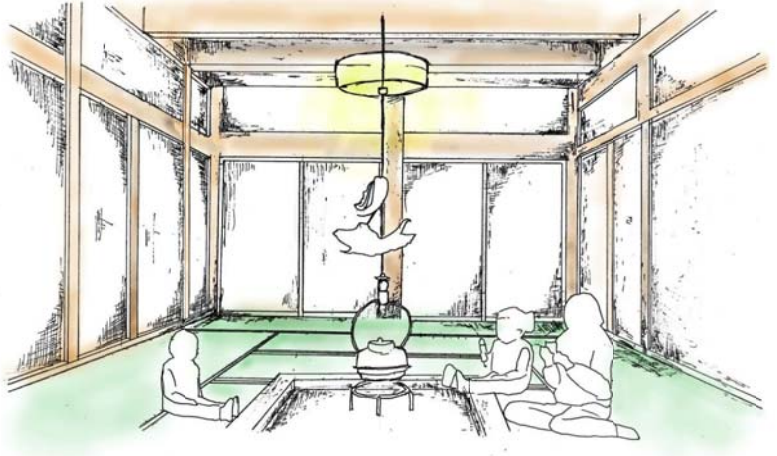
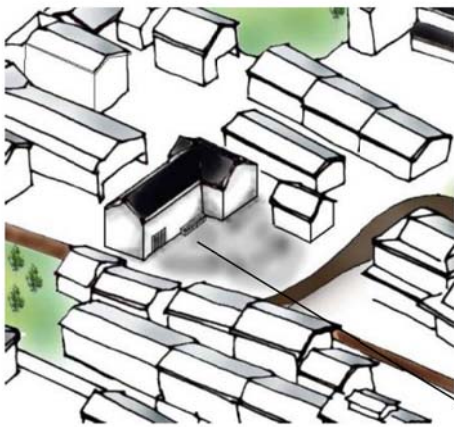
Step2 店舗の建設＋路地をつなげる



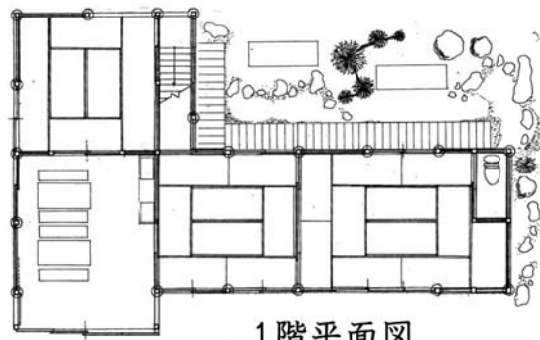
Step2 店舗の建設＋路地をつなげる



個別的再生 ～茶店～

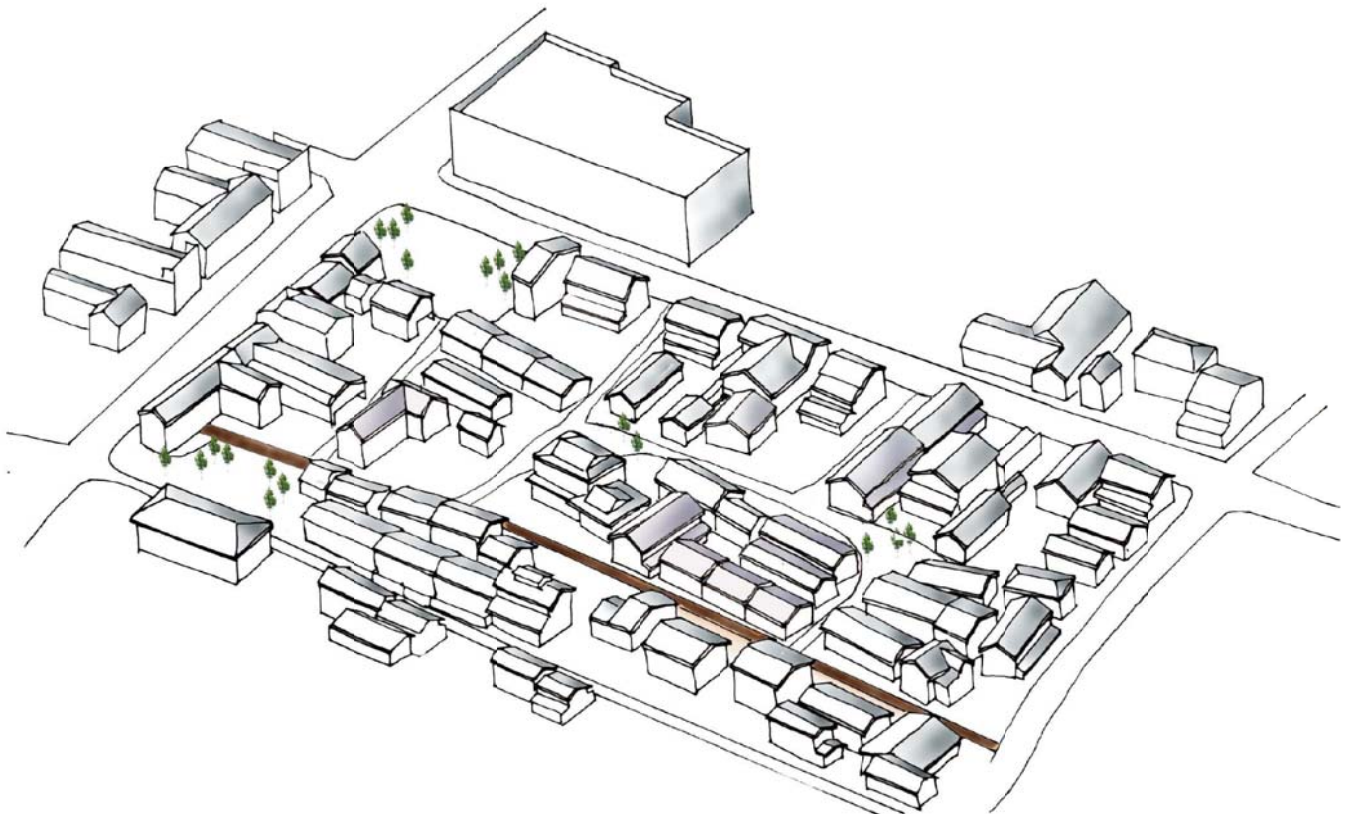


今回の大きなテーマの一つであるひと休みできる空間となる茶店を設計する。
4つの部屋だけでなく庭でもくつろげる空間をつくり、前にある路地から気軽に入れる設計にする。
この茶店では、疲れたらひと休みできる空間を設けることで人々の街区内のアクセスをする要因となることを期待する。

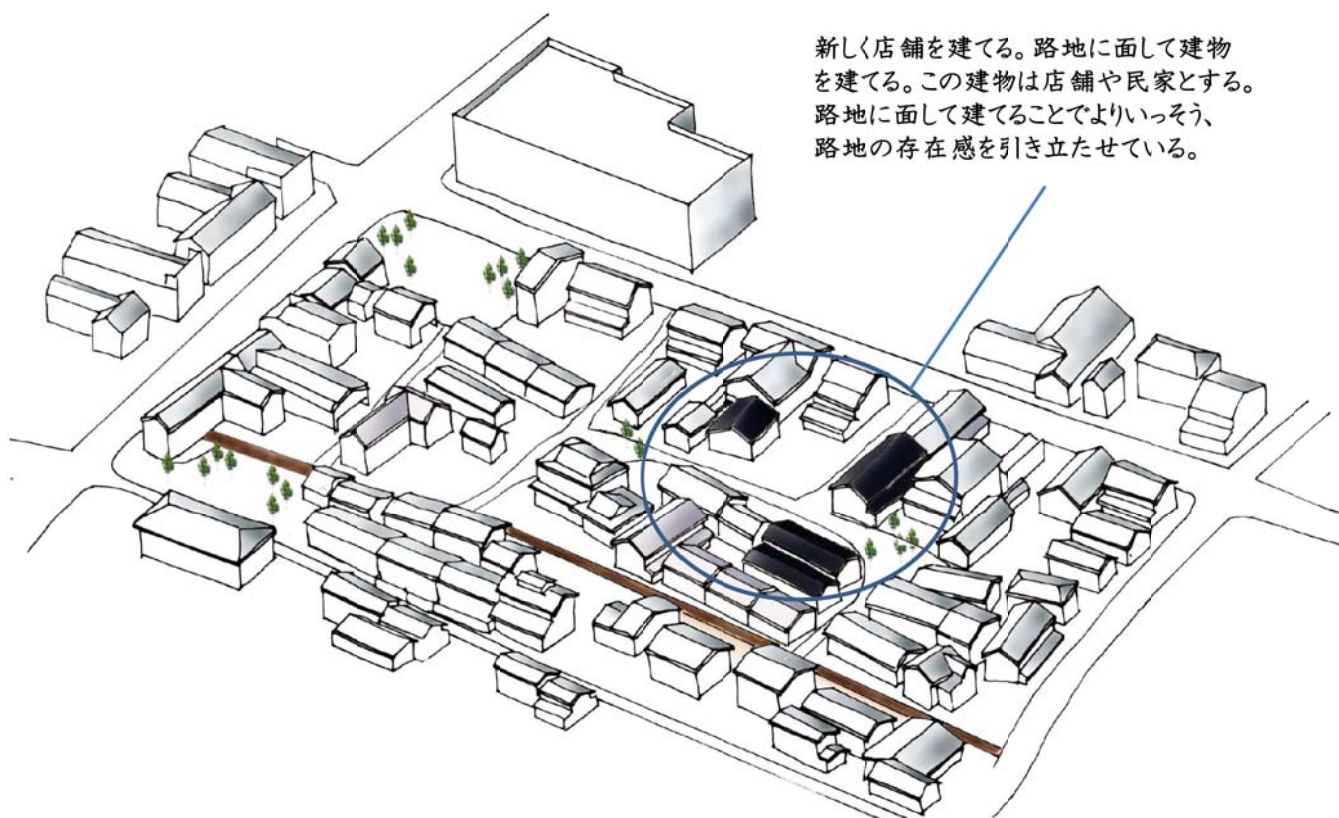


1階平面図

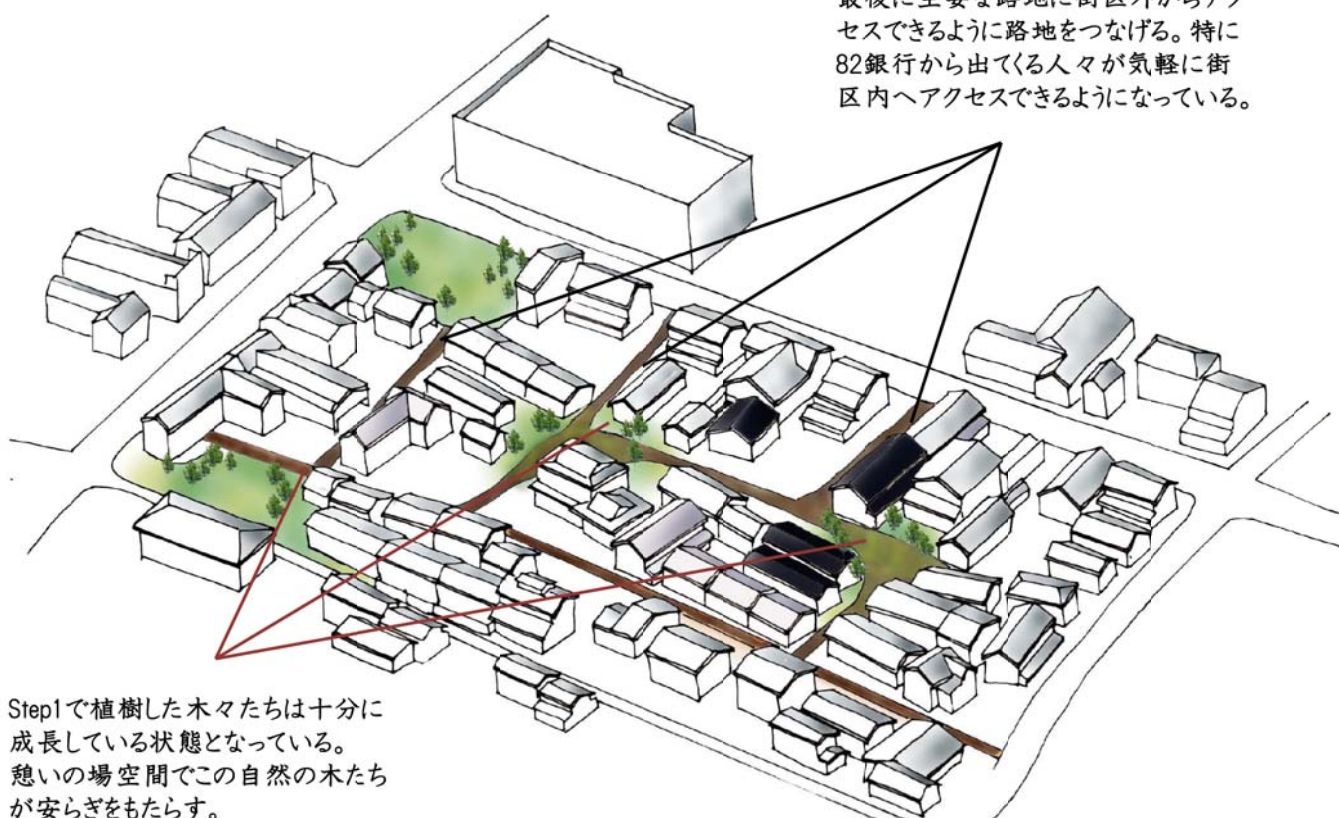
Step3 街区外から街区内へ



Step3 街区外から街区内へ



Step3 街区外から街区内へ





路地に面した茶店では気軽にお茶を飲みくつろげる

路地から見える家や店たち



ご清聴ありがとうございました

須坂やどり路

須坂に住む。須坂に泊まる。人のやどる路。



岩間 夏希

須坂らしさの やどる路 を提案します。

街区を探る（魅力）



須坂ならではの
格式高い古民家が残った町並み



中へ入る小路と広場
古民家も空き家として残る

街区を探る（課題）



歩道は狭く、車との距離が近い
立ち話をしている人が多く、気軽に座れる場所がすくない

やどり路

宿る：(やど - る)

壺、一時的にそこに住む（宿泊） → 観光客

式、その場に留まる（居住） → 須坂市民



須坂に宿り（居住する）、宿る（宿泊する）人のための路

市民のあたたかさ、格式高い古民家、特産物の豊富さ という
須坂らしさが宿る路

提案



既存の街区



小路によって分割
商店がならぶ

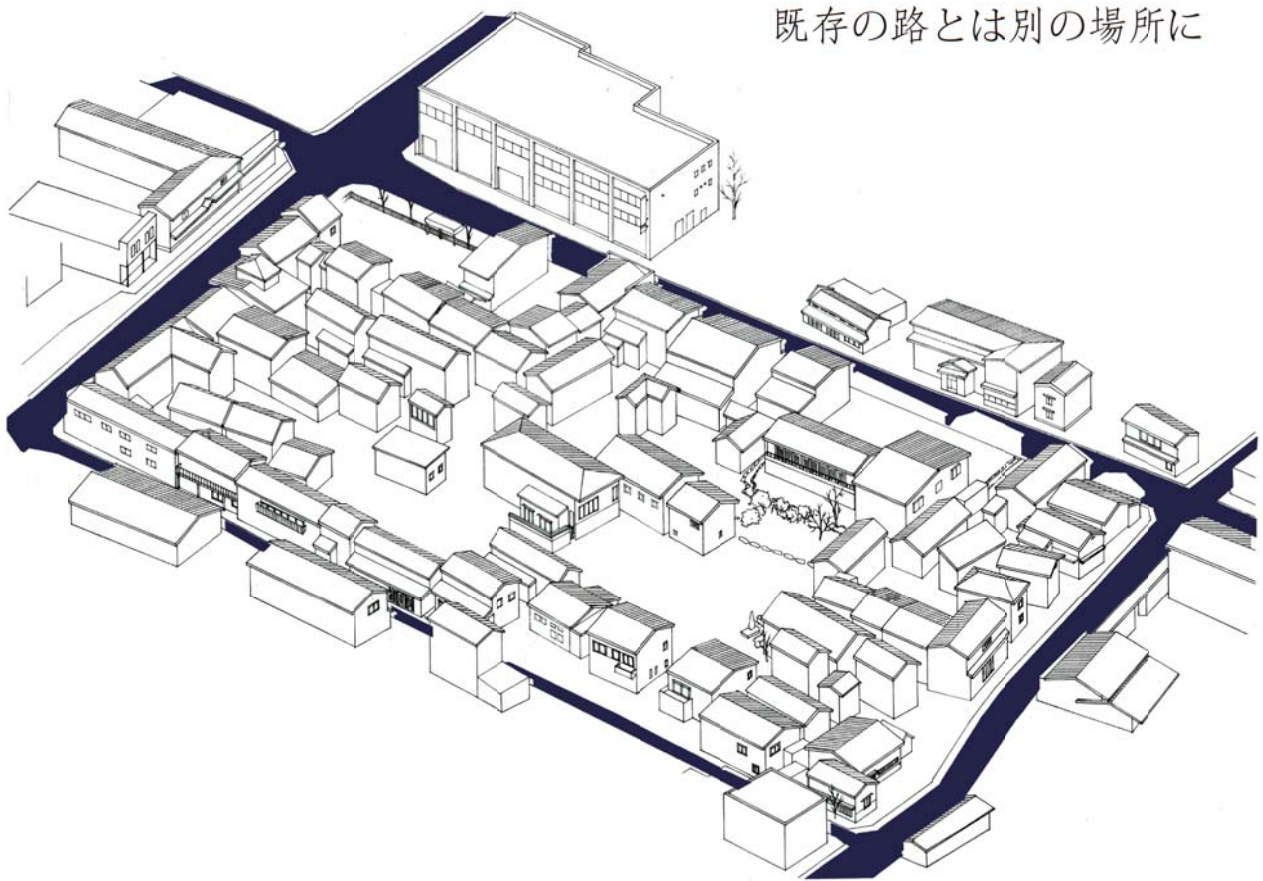


交差路に旅館を設ける
観光客も路をつかう

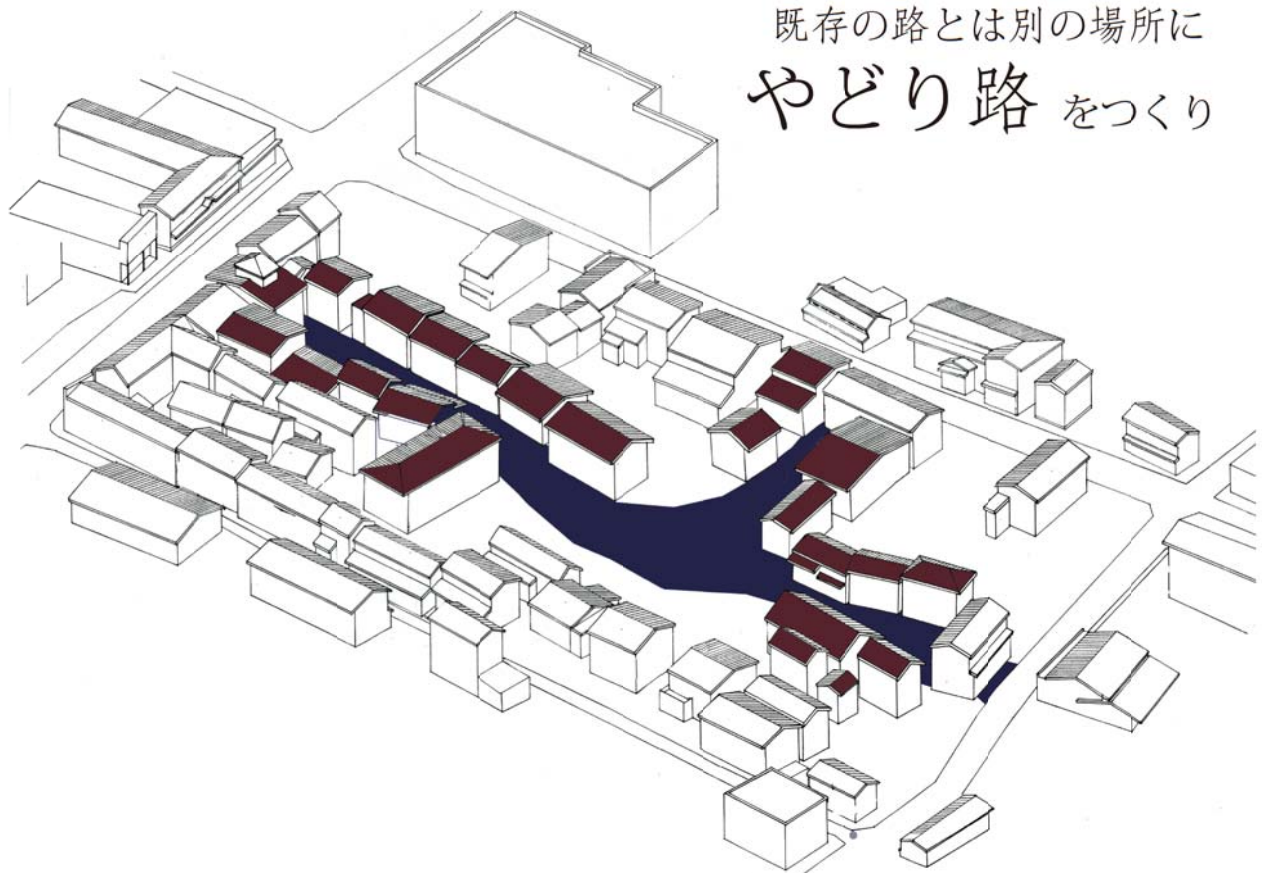


生活の拠点となり
家は増える

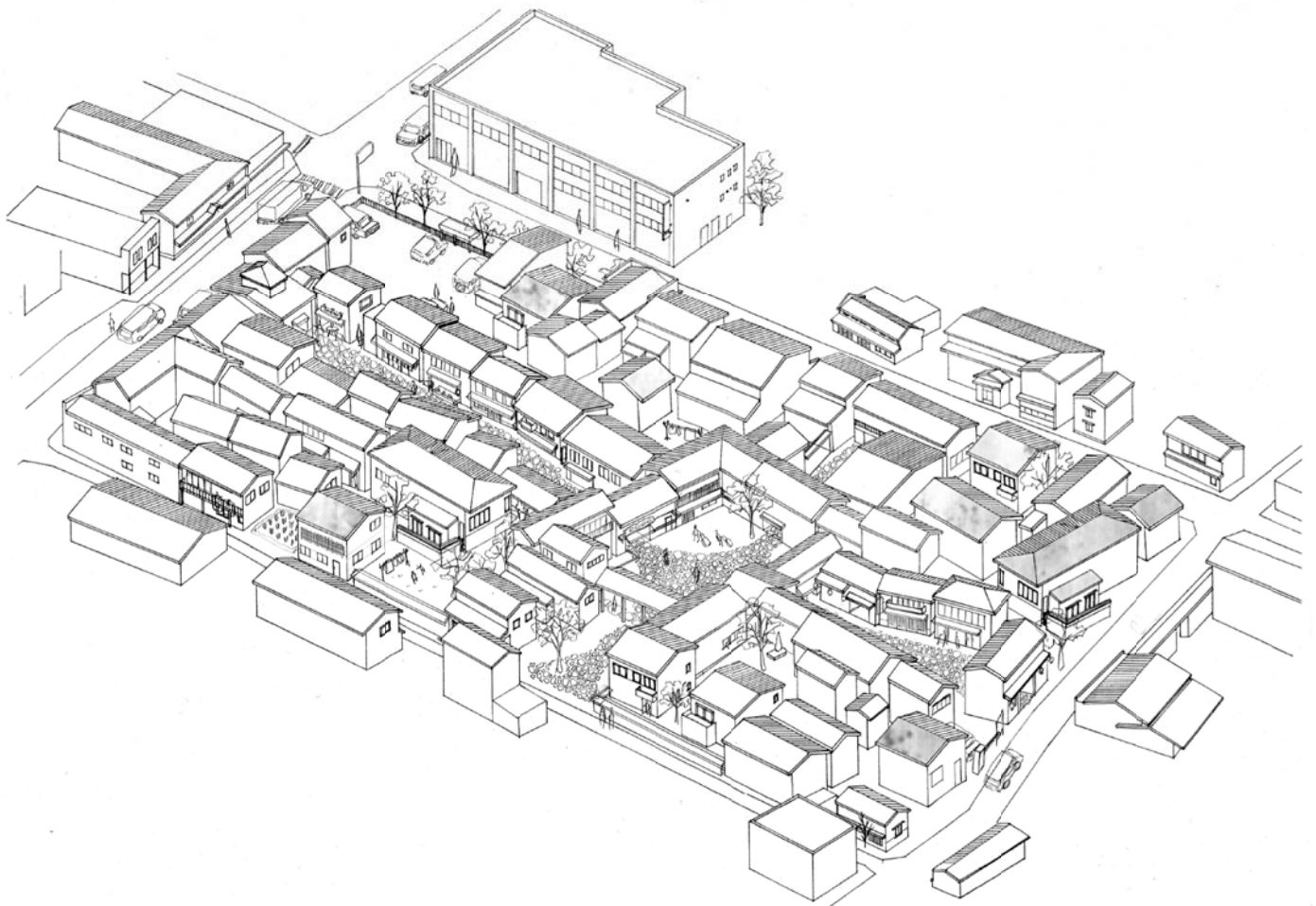
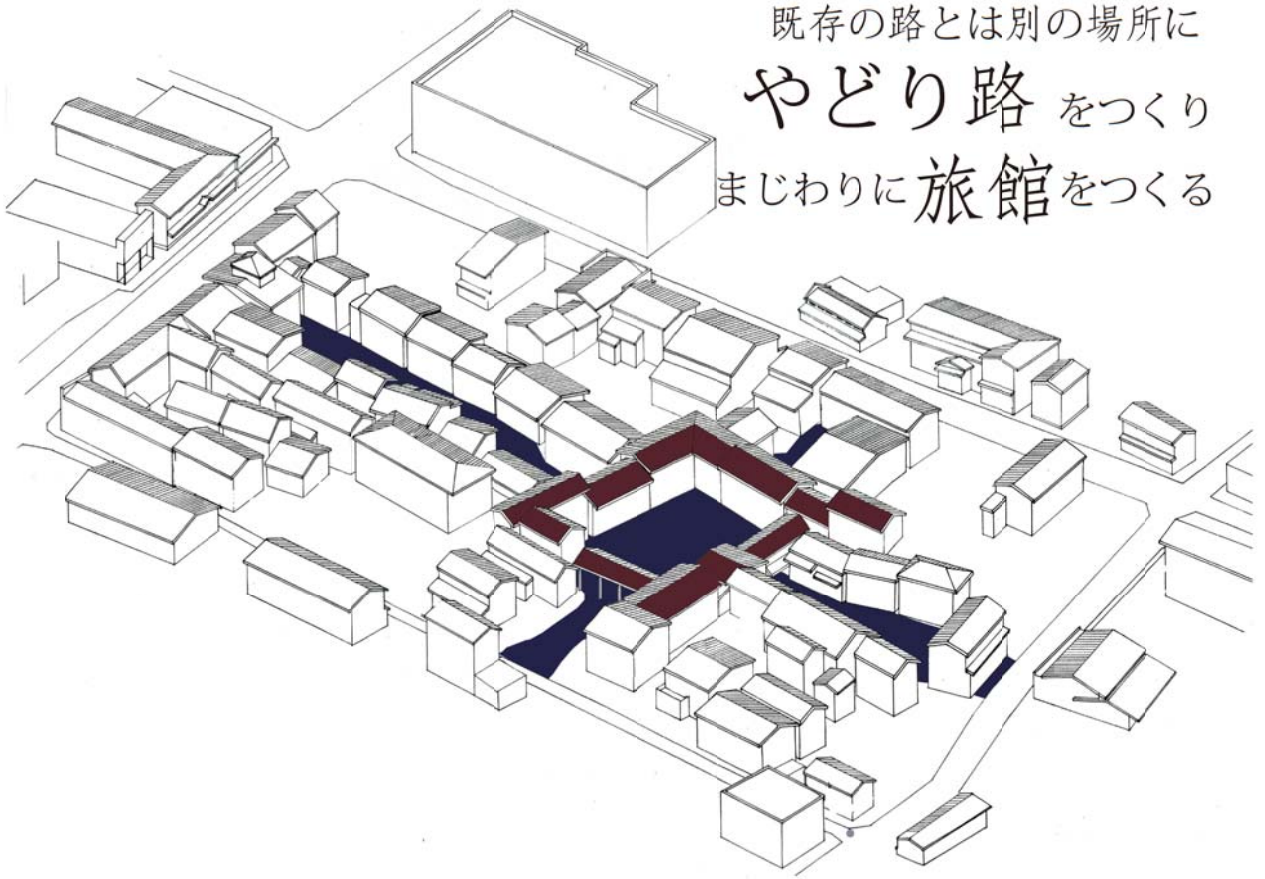
既存の路とは別の場所に



既存の路とは別の場所に
やどり路をつくり



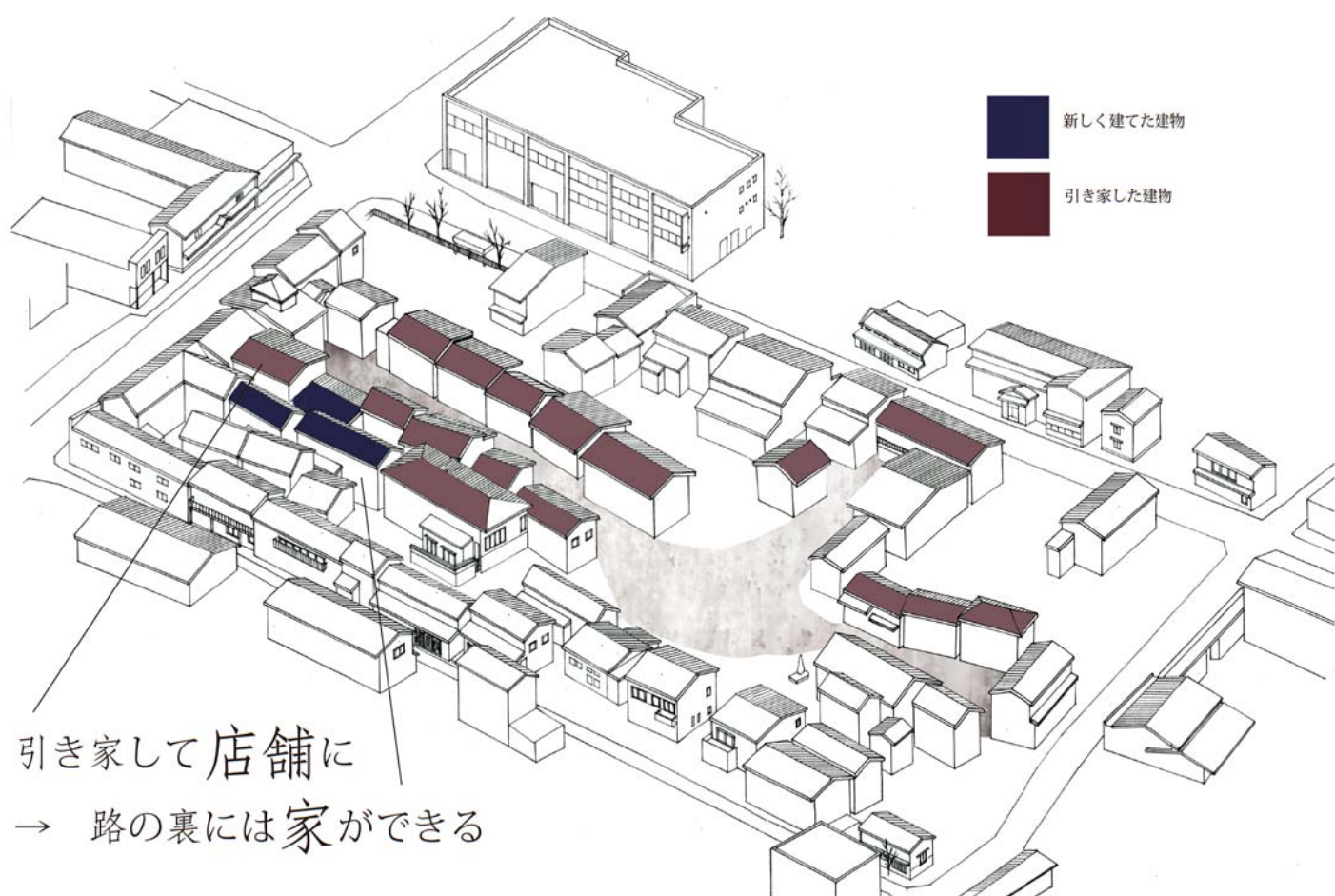
既存の路とは別の場所に
やどり路をつくり
まじわりに旅館をつくる





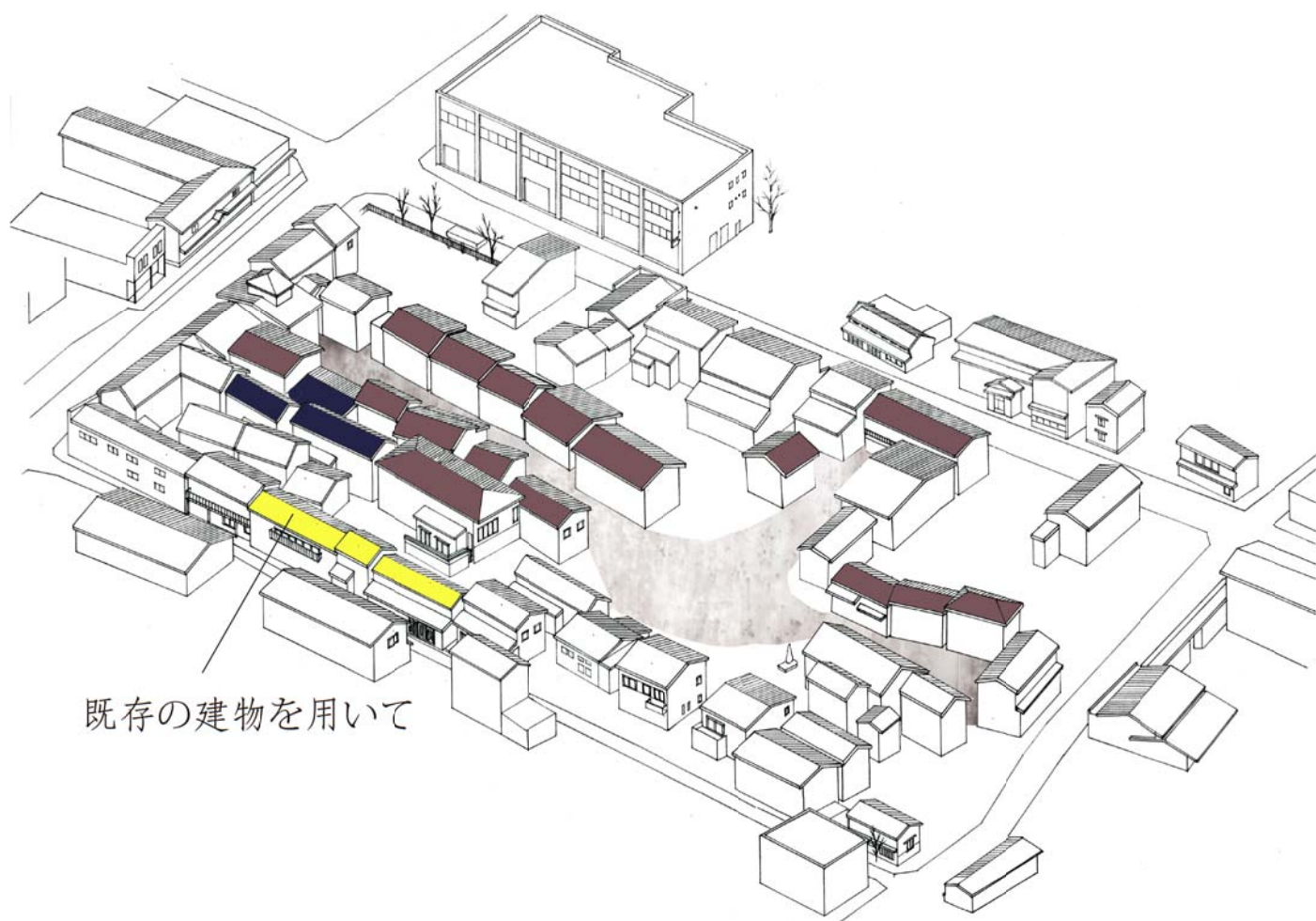
壱

路をつくる

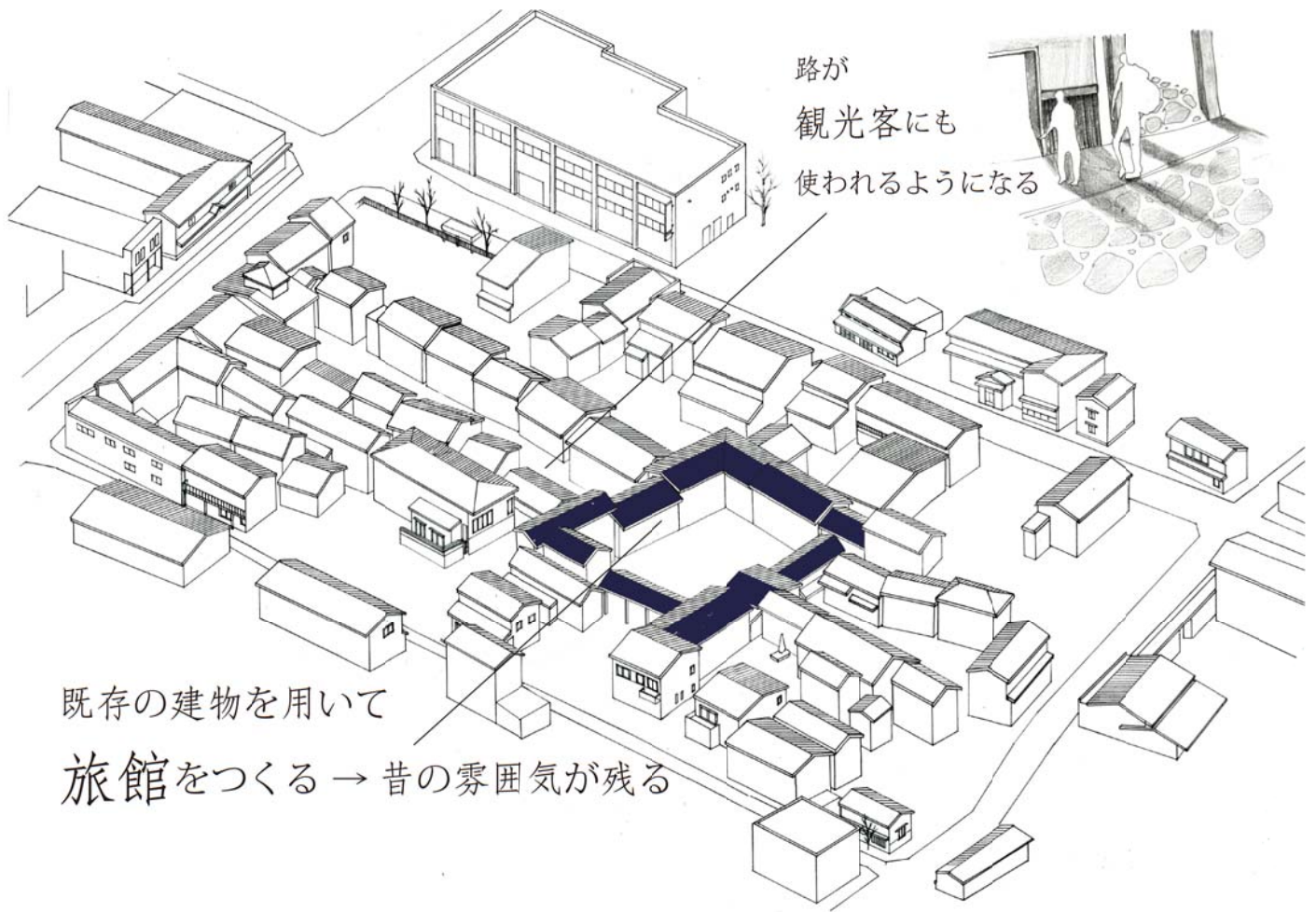


式

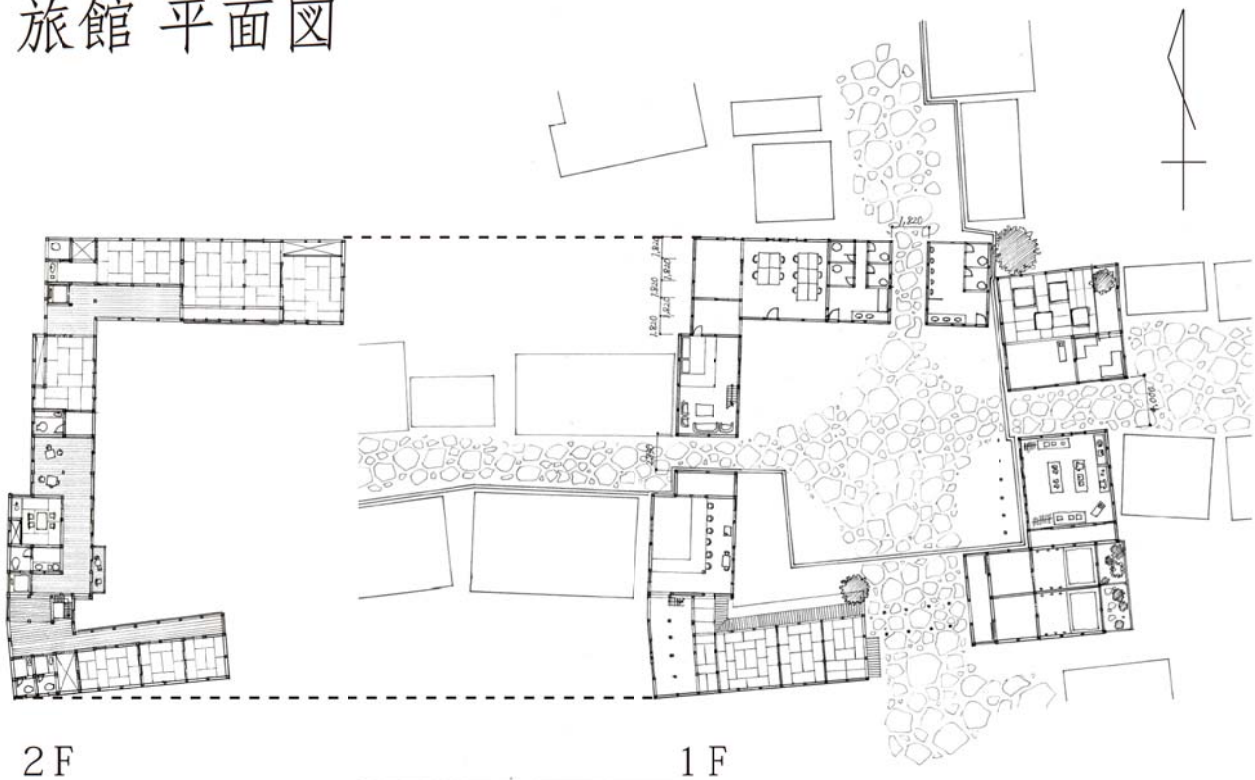
旅館 でつなぐ



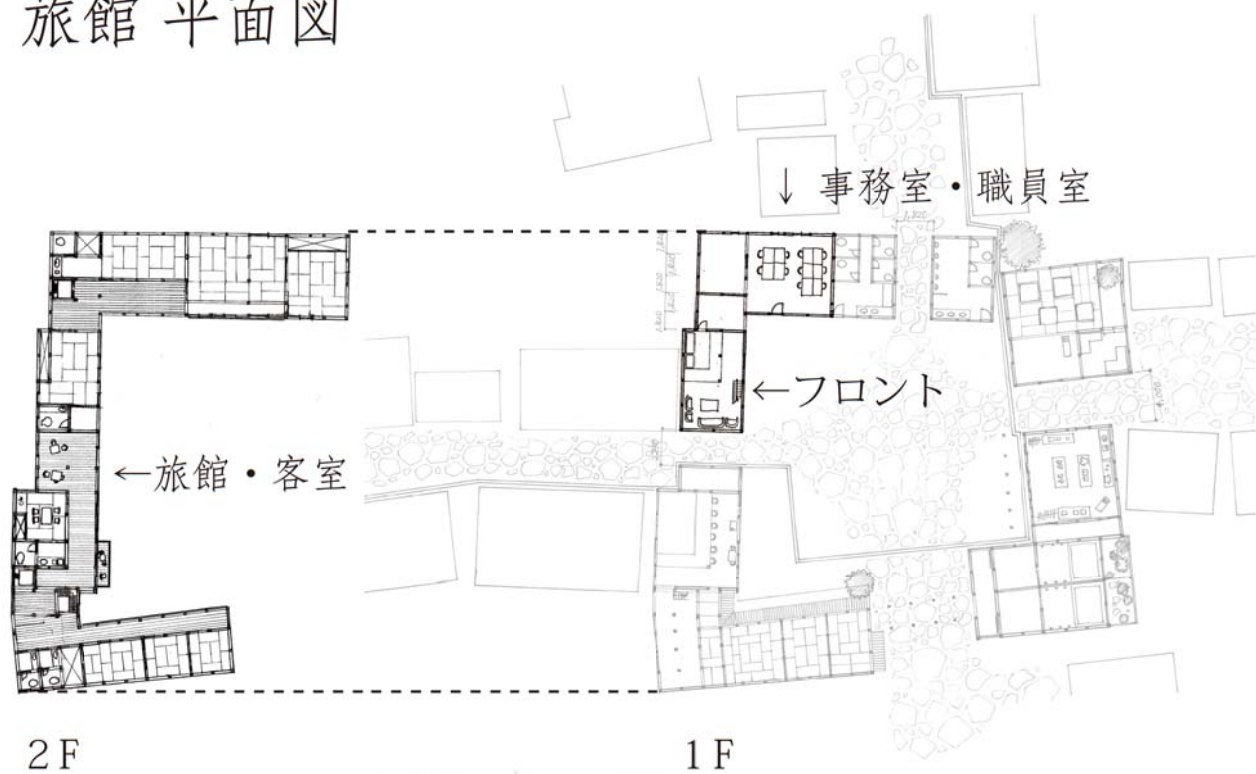
既存の建物を用いて



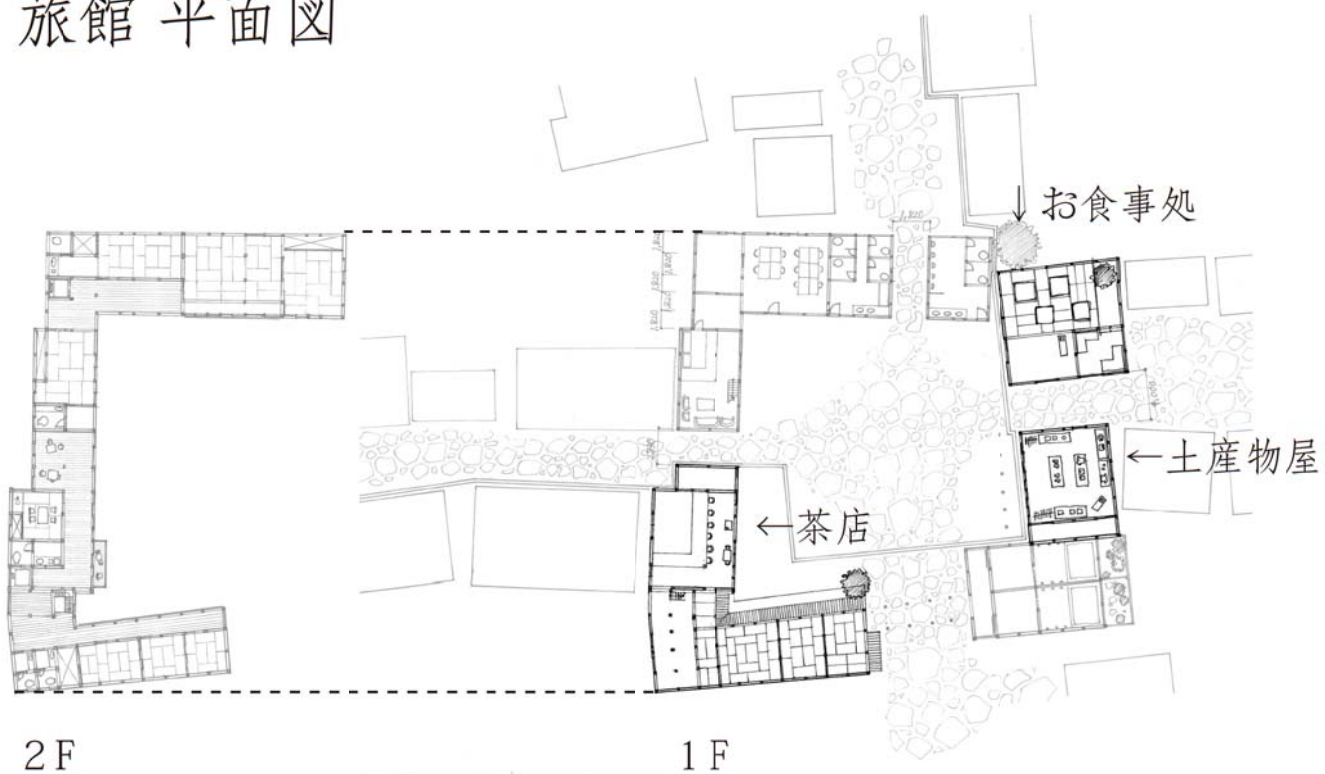
旅館 平面図



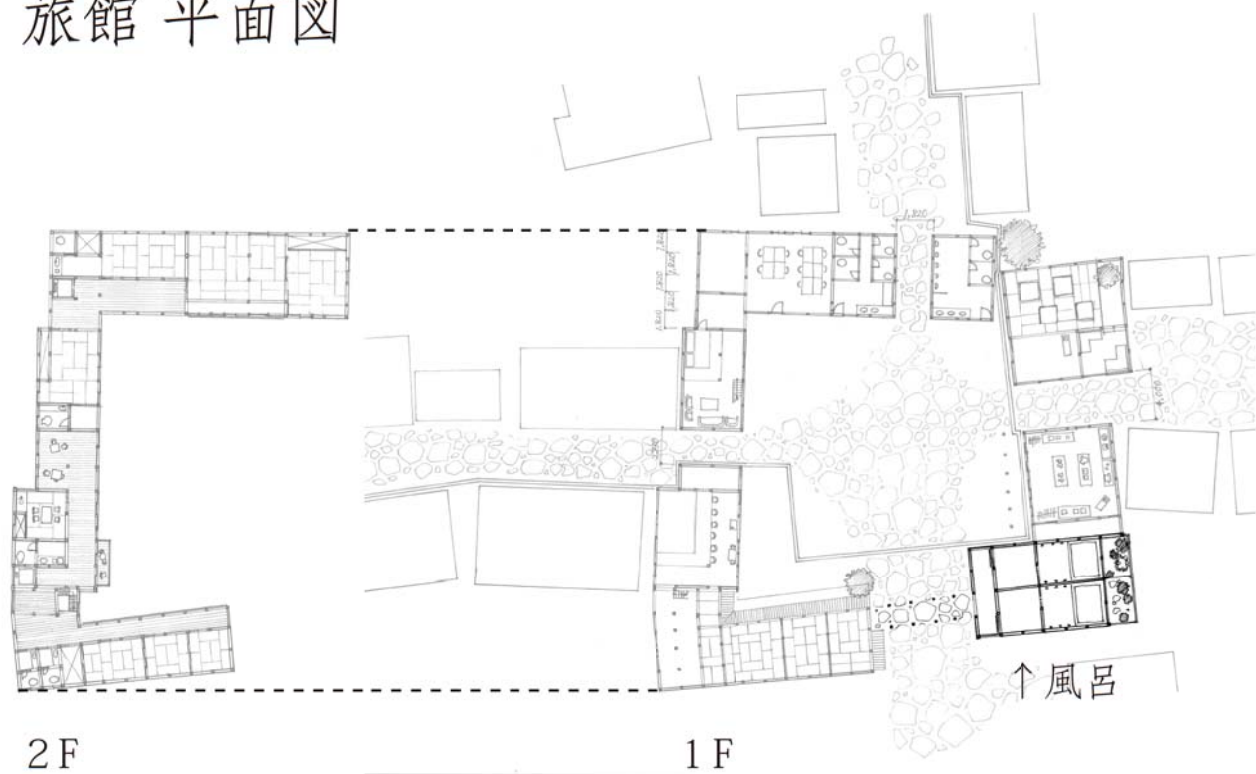
旅館 平面図



旅館 平面図

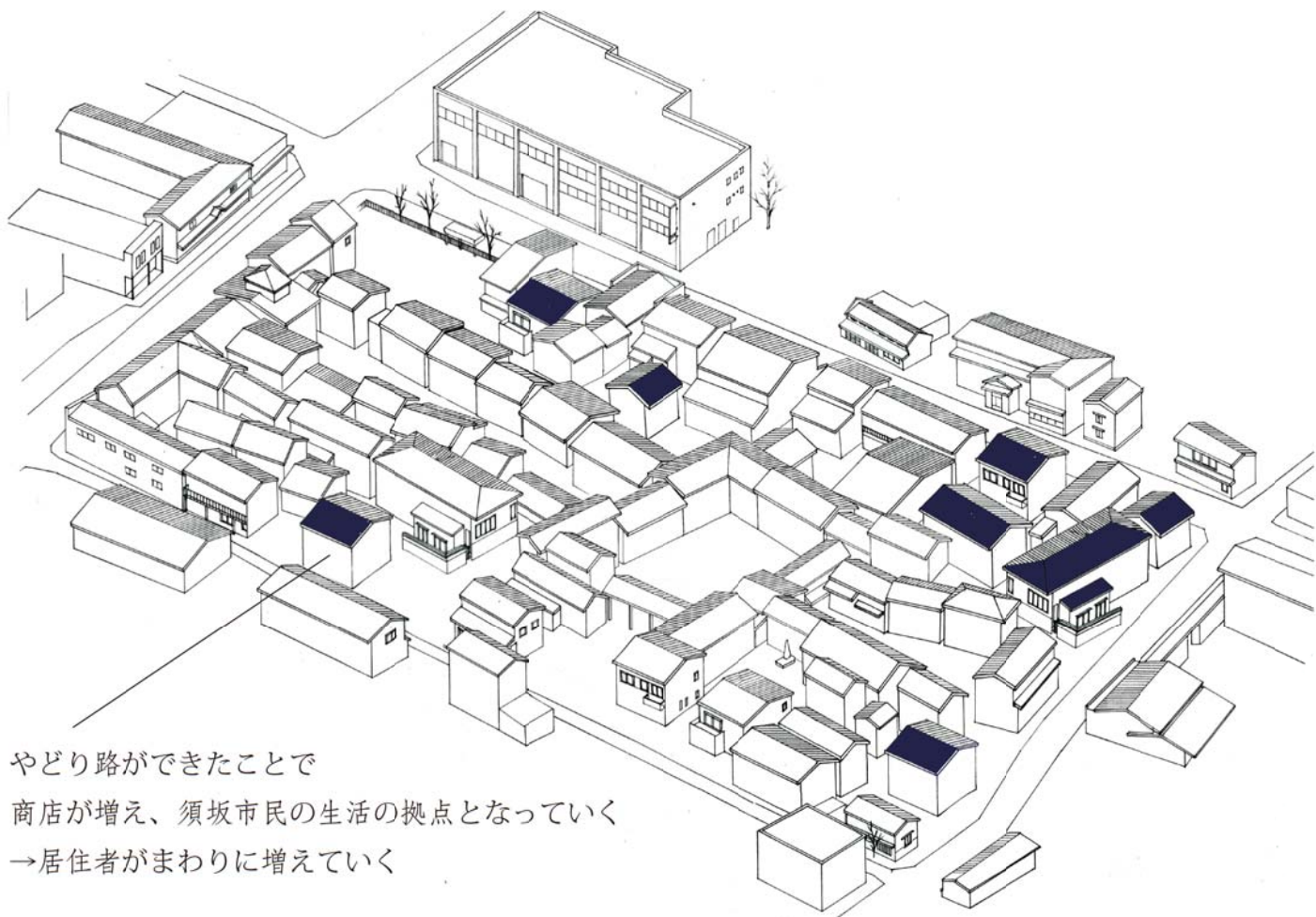


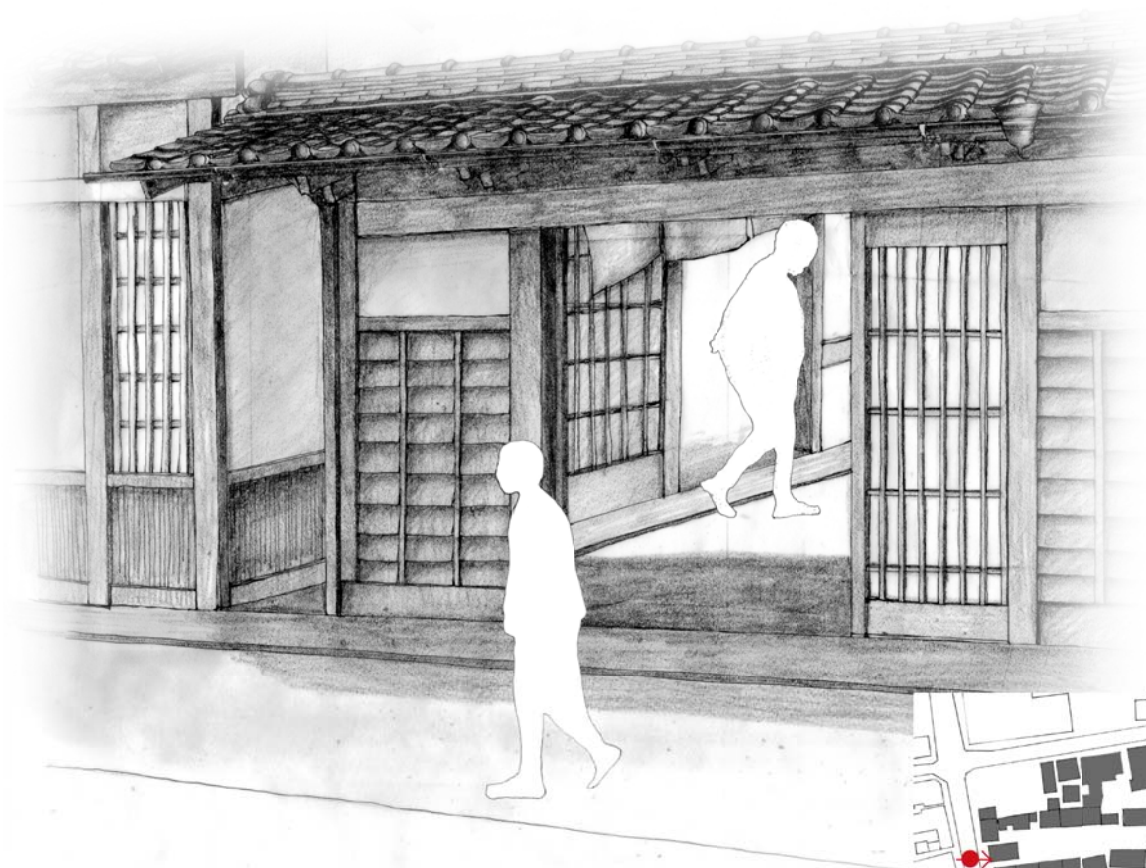
旅館 平面図



参

家がふえる







ご静聴ありがとうございました。



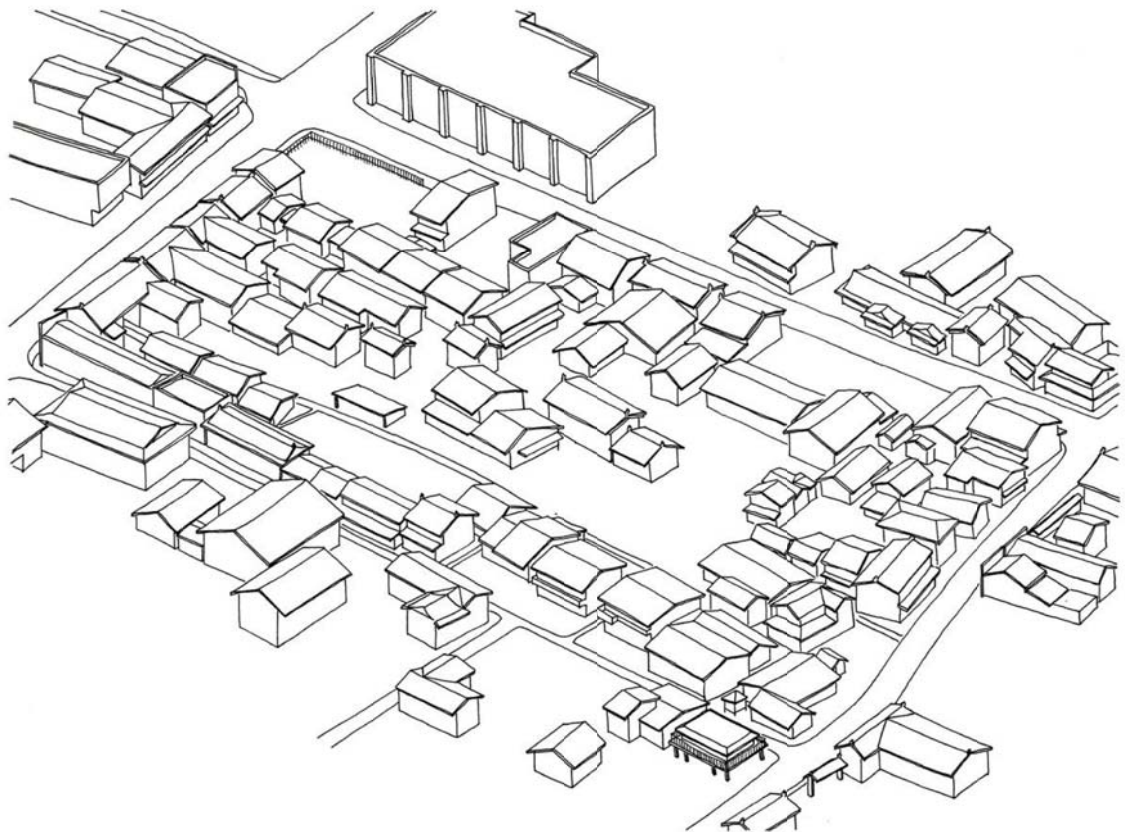
縁側が結ぶ 人とまち

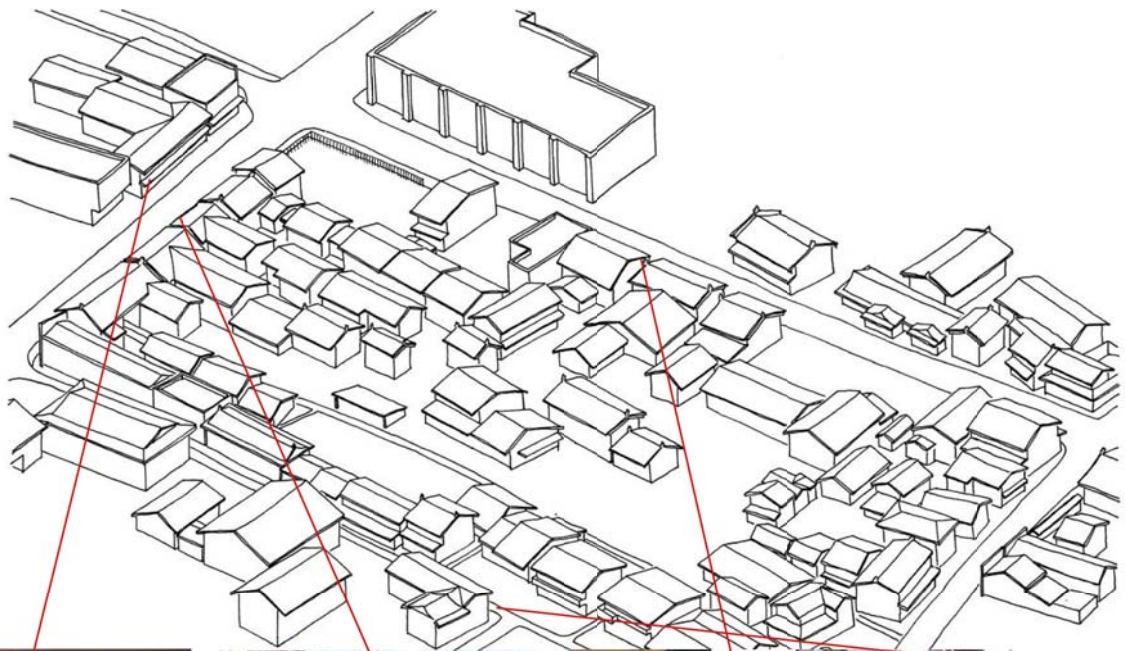


信州大学工学部建築学科 3 年 杉浦友裕

Step 0

現状





門と庭



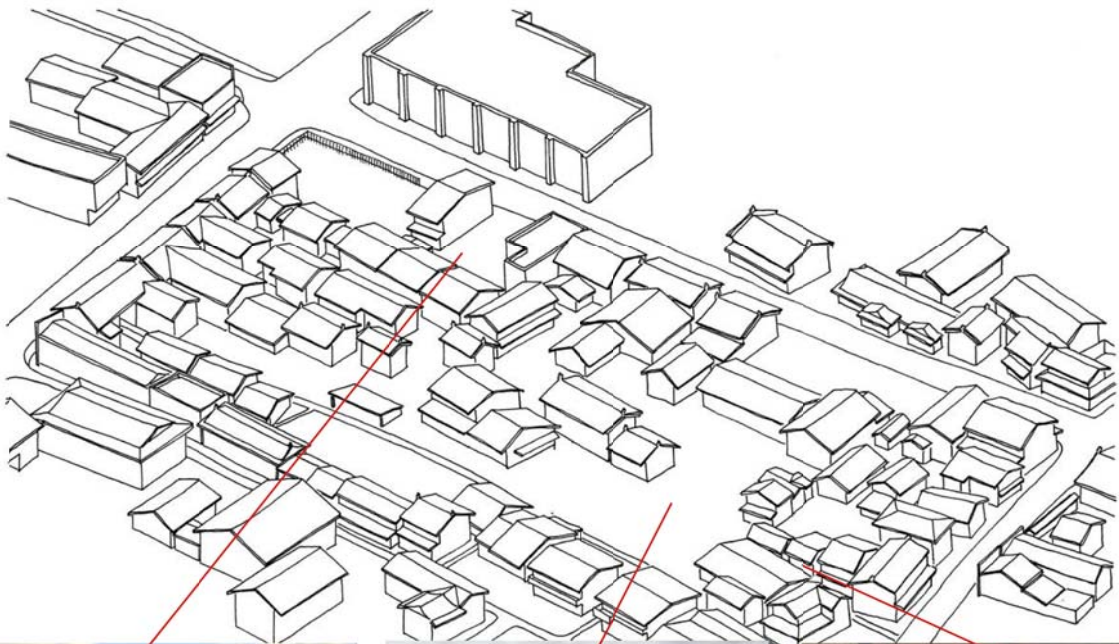
蔵の町並み



小路



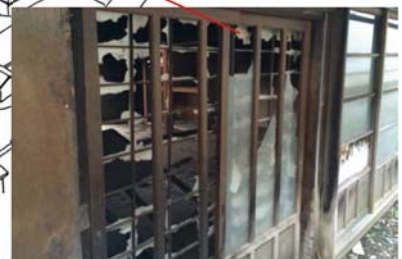
路地



増改築の痕



空き地



空き家

Concept

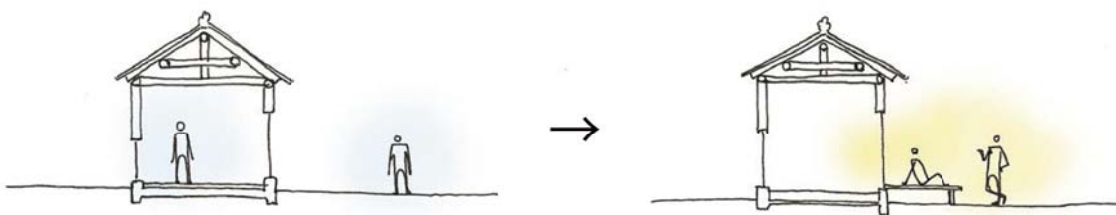
プライベート空間の確保を考慮しすぎた結果、街区は個人の私有地の集合体となりつつある。

道路に面する建物の正面はきれいに整備されているのに対して、一步街区に入ると増改築の継ぎ接ぎの痕や空地・空家が目立つ。

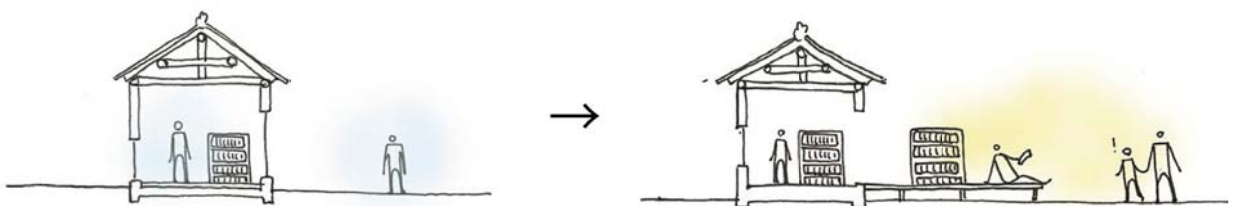


“**街区の縁側**”を設け、人と人のつながり、室内と室外のつながり、街区内部と街区外とのつながりという3つのスケールのつながりを作り、街区に一体感を持たせることを目指す。

Point



壁によって区切られてしまう室内と室外は、縁側を設けることで緩やかに結ばれる。縁側に腰をかけて談笑したりなど、人と人のコミュニケーションの場にもなる。



縁側の幅を広げてウッドデッキにし、室内の機能を引っ張り出すことで、本来建物の中に納まっている機能を外にいる人も利用できるようになる。

Step 0

Step 1

Step 2

Step 3



Step 0

Step 1

Step 2

Step 3



Program

Step1 中央広場の形成

街区内住民のためのカフェ広場

Step2 地域に開けた機能

周辺の児童・学生のための児童館・図書館

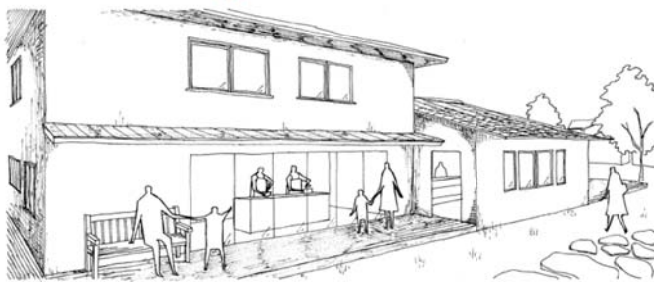
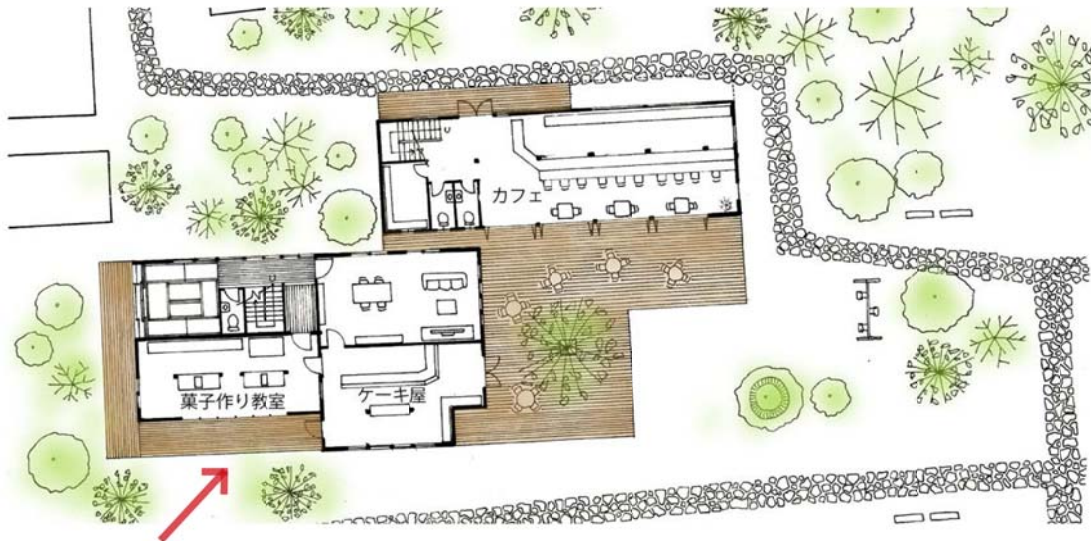
Step3 街区内への誘致と広がり

空家のリノベーションによる店舗

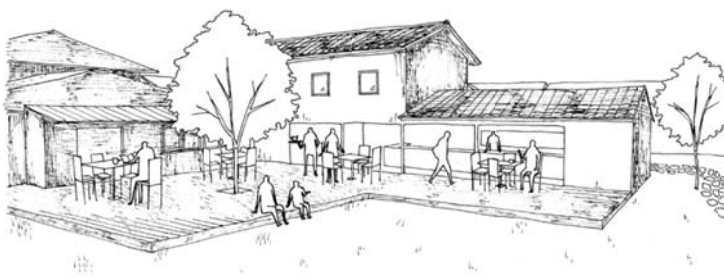
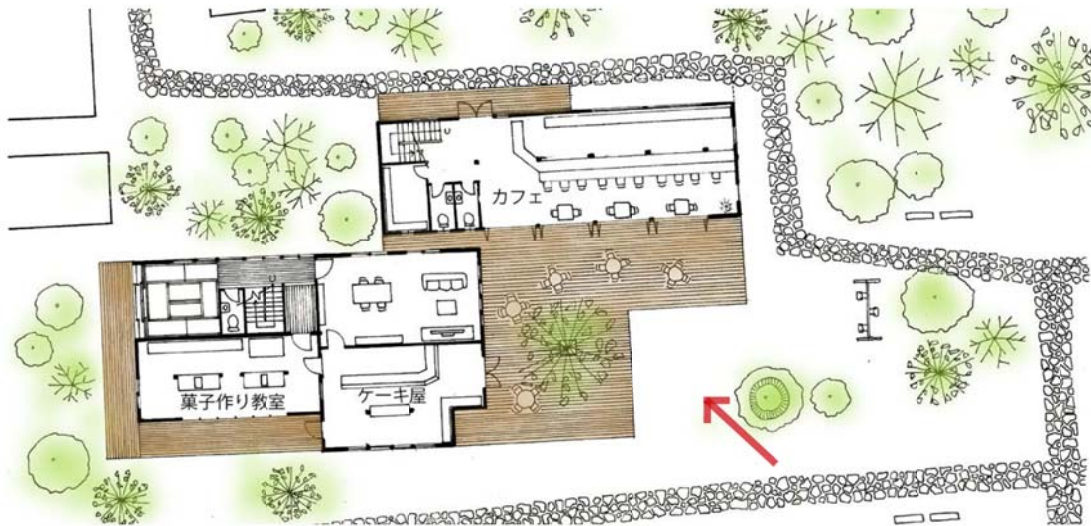
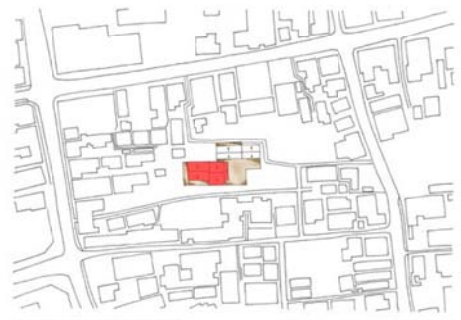
Step 1

中央広場の形成

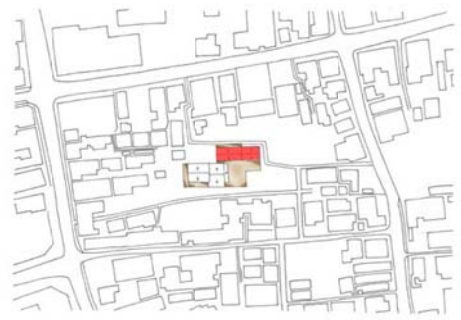




菓子作り教室



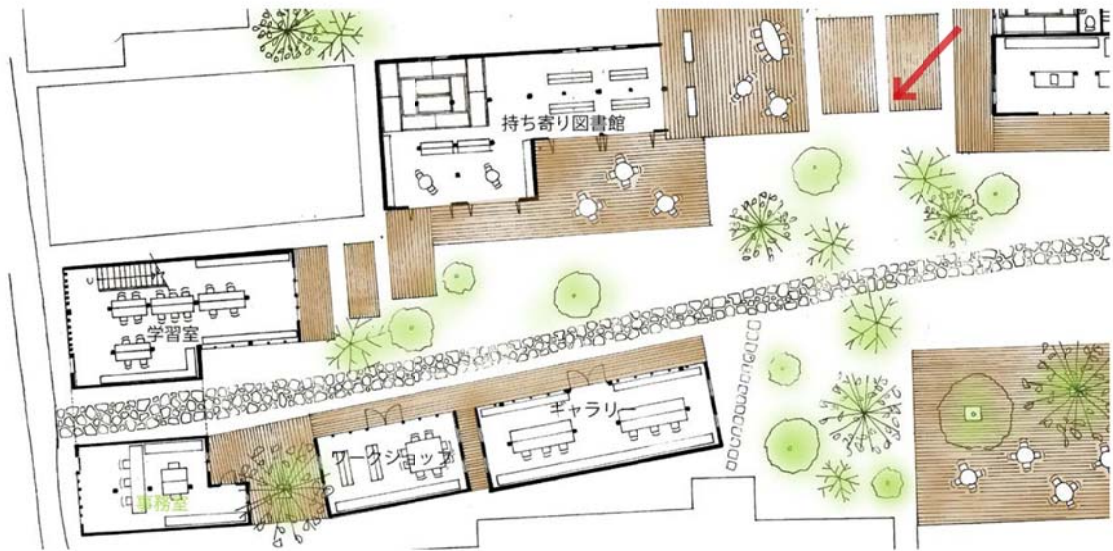
カフェ広場



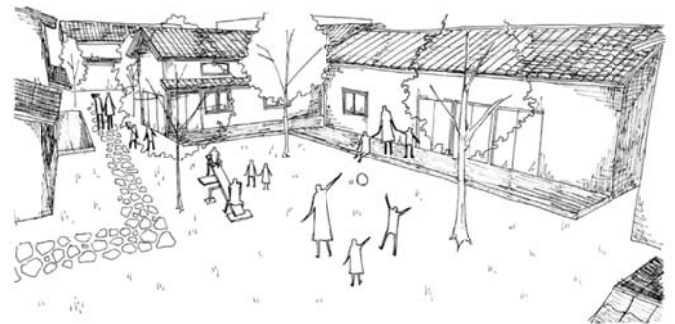
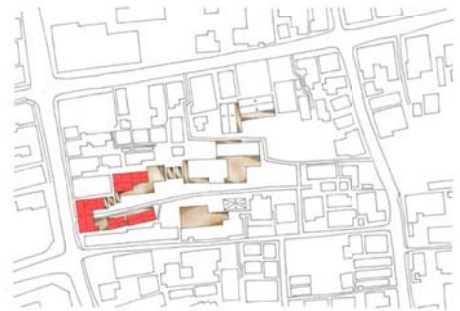
Step 2

地域に開けた機能

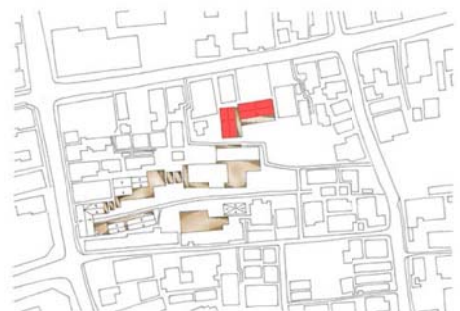




図書館



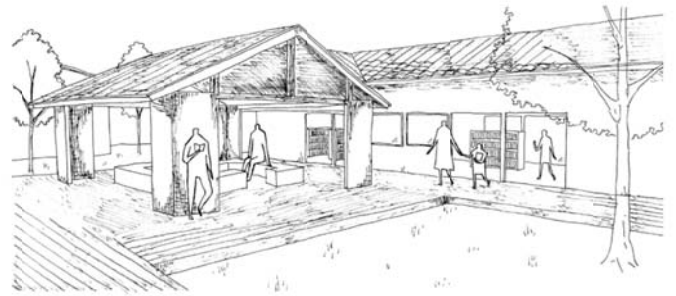
児童館



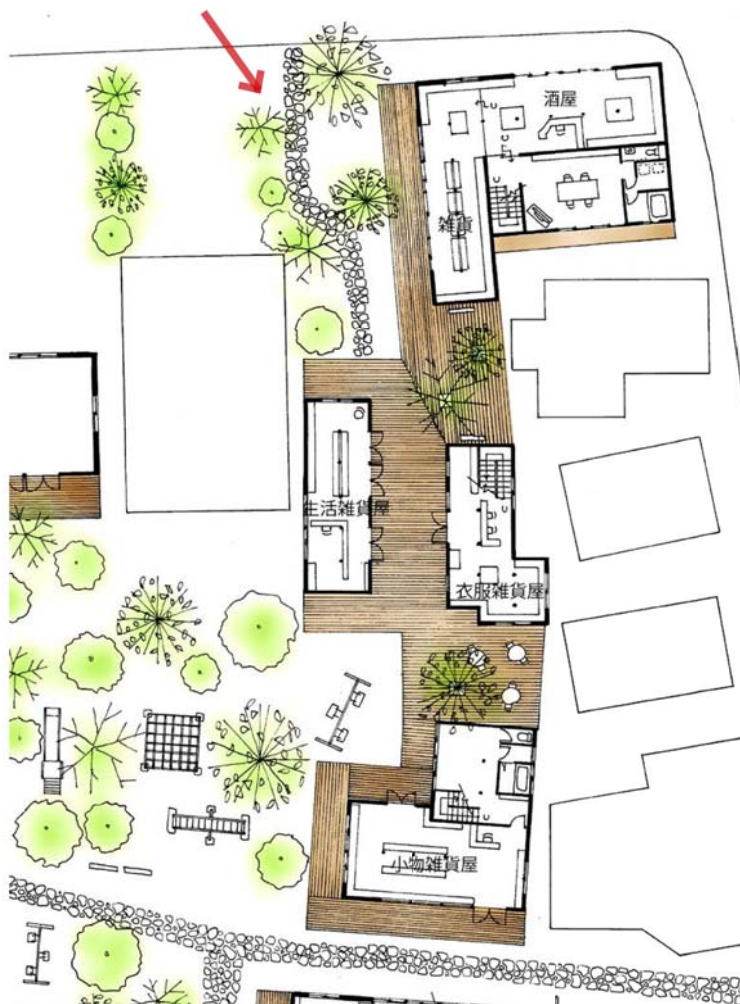
Step 3

街区内への誘致と街区外への広がり





東屋と書店



店舗群





ご清聴ありがとうございました

民家の再生

2015.02.07

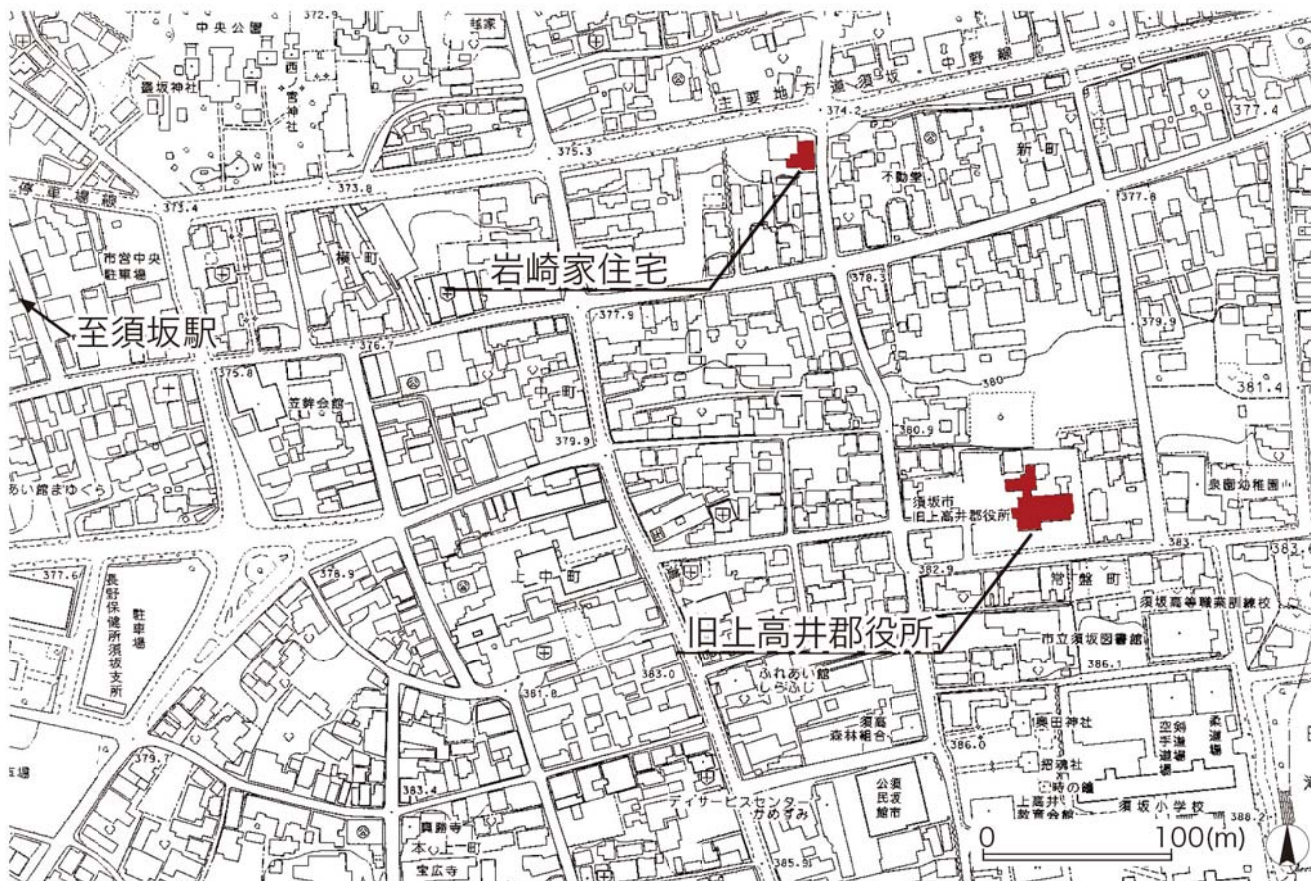
信州大学 工学部 建築学科

■課題内容

須坂の町家を再生せよ

■再生条件

- ・ 多世代の家族が住まうことのできる集合住宅であること。
ただし、家族構成は自由、店舗や公共施設を含めても良い。
- ・ なるべく既存を活かし、大規模な増築はしないこと。
ただし、古いものにこだわりすぎないこと。



対象民家の位置

民家再生 -岩崎家住宅再生計画-



建物外観

民家再生 -岩崎家住宅再生計画-



建物外観

民家再生 -岩崎家住宅再生計画-



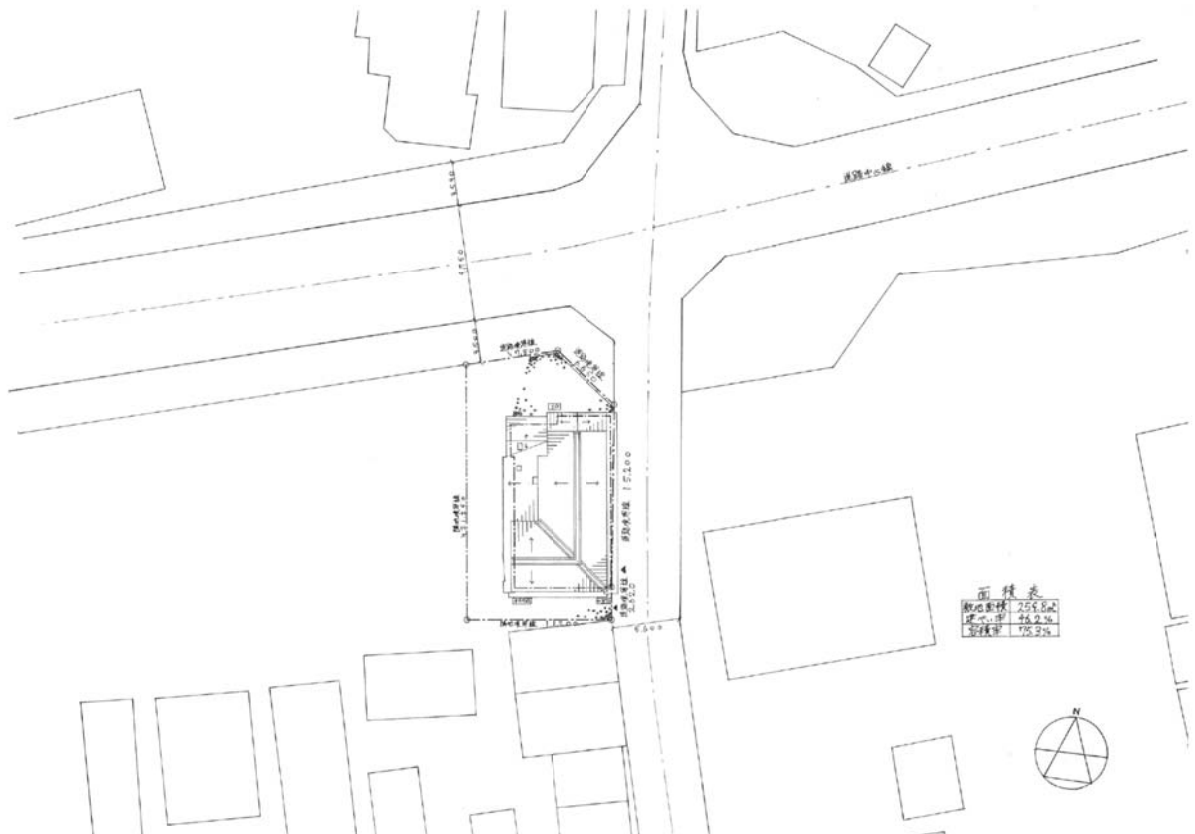
実測風景

民家再生 -岩崎家住宅再生計画-



実測風景

民家再生 -岩崎家住宅再生計画-



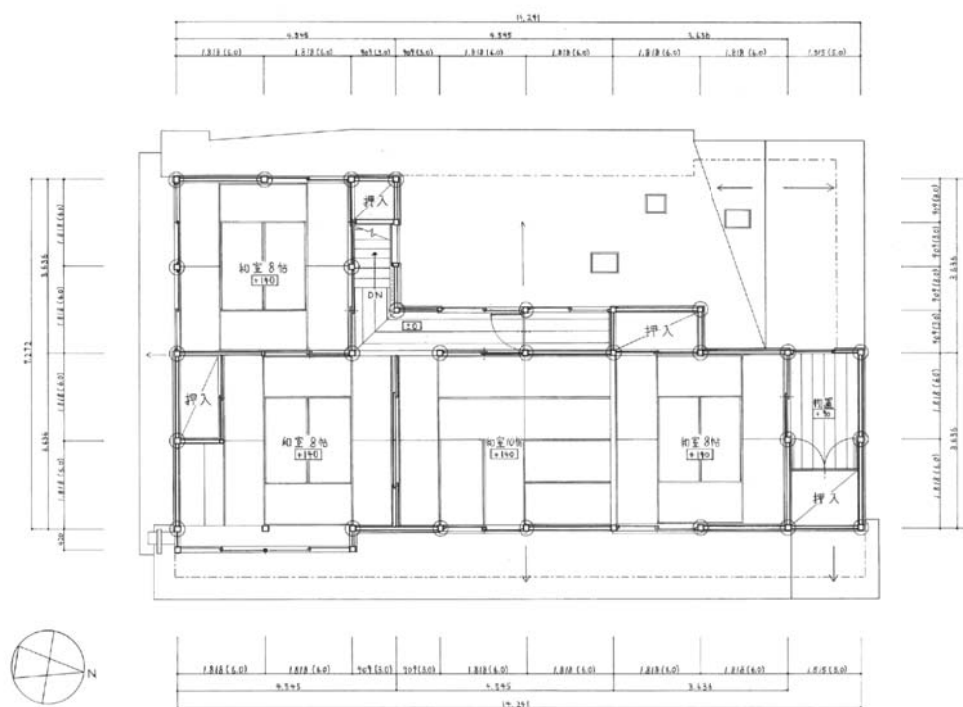
周辺配置図

民家再生 -岩崎家住宅再生計画-



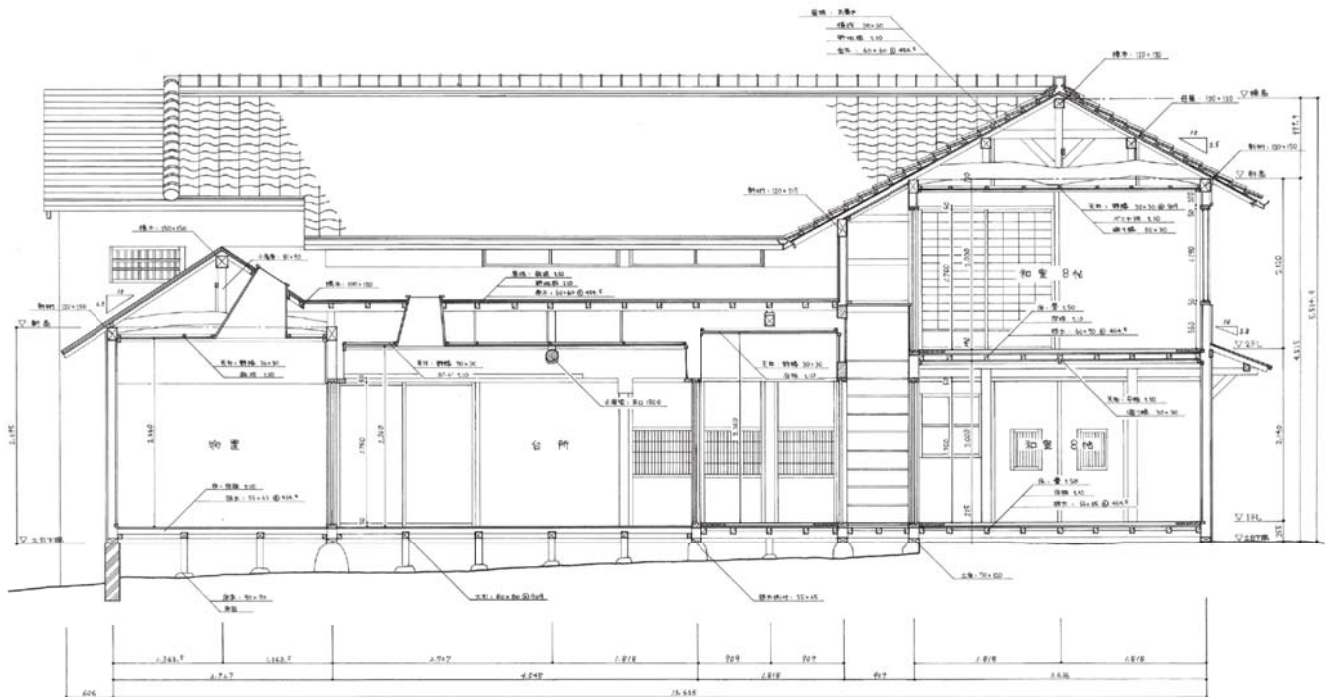
1 階平面図

民家再生 -岩崎家住宅再生計画-



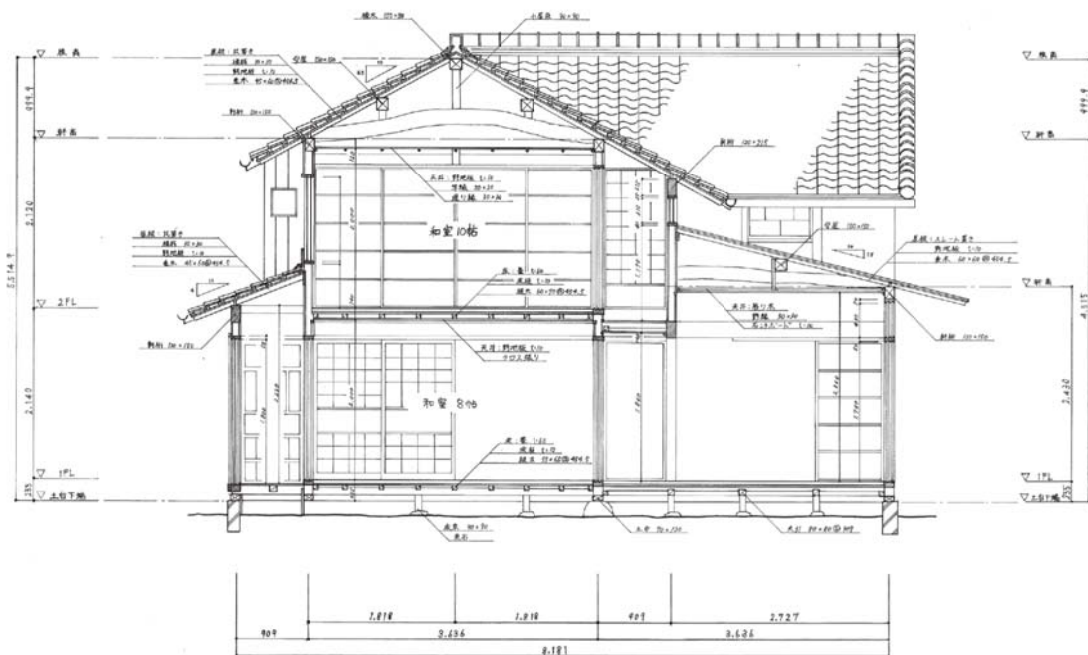
2 階平面図

民家再生 -岩崎家住宅再生計画-



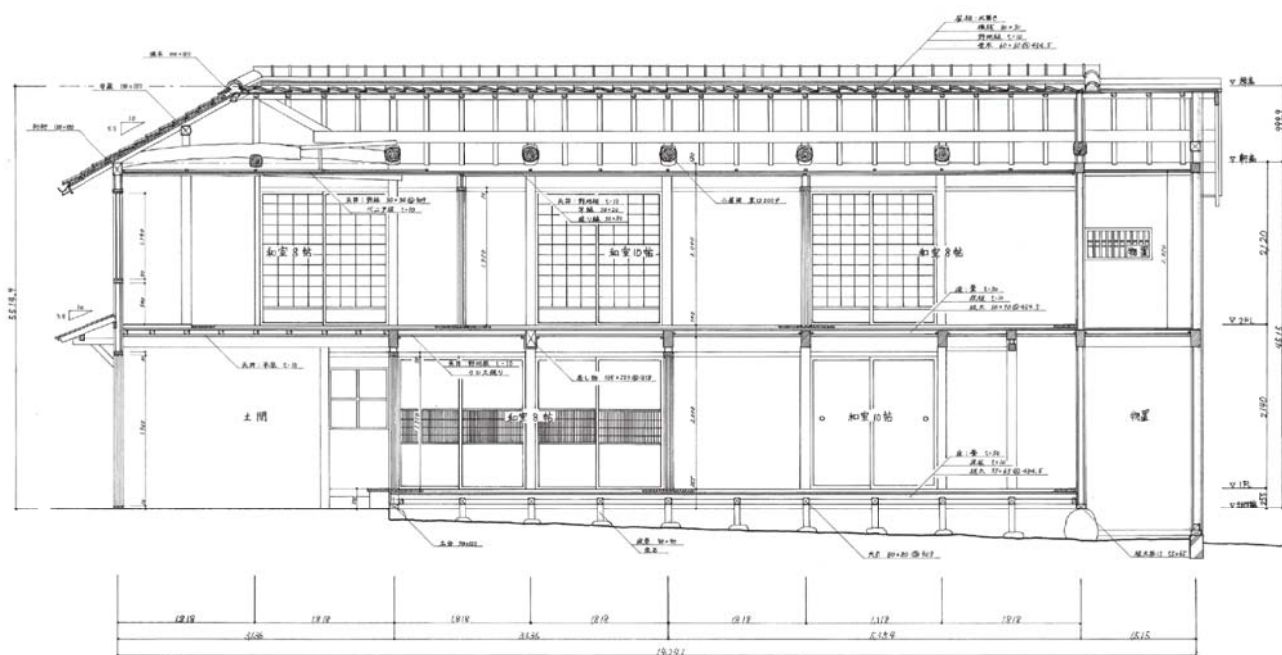
矩計図 (梁間)

民家再生 -岩崎家住宅再生計画-



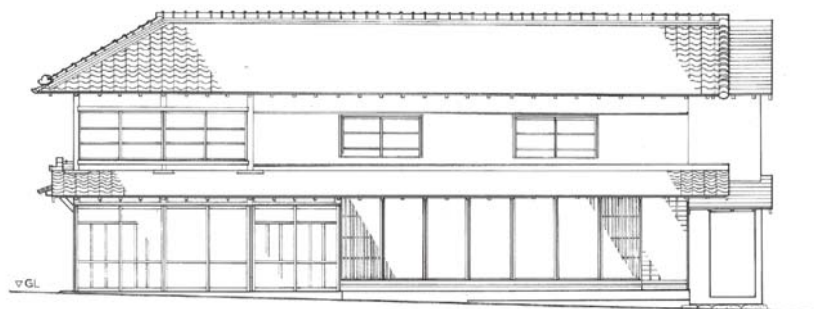
矩計図 (梁間)

民家再生 -岩崎家住宅再生計画-

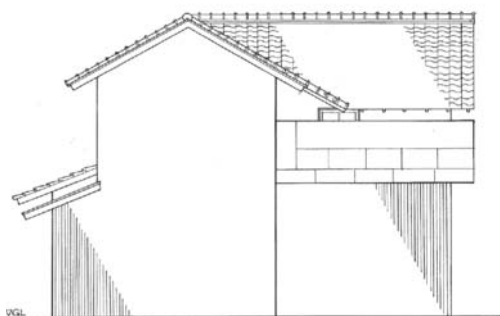


矩計図 (桁行き)

民家再生 -岩崎家住宅再生計画-



東立面図



北立面図



南立面図

立面図

民家再生 -岩崎家住宅再生計画-



ちょっくら直売所

信州大学3年 近藤岳弘

テーマ/プログラム

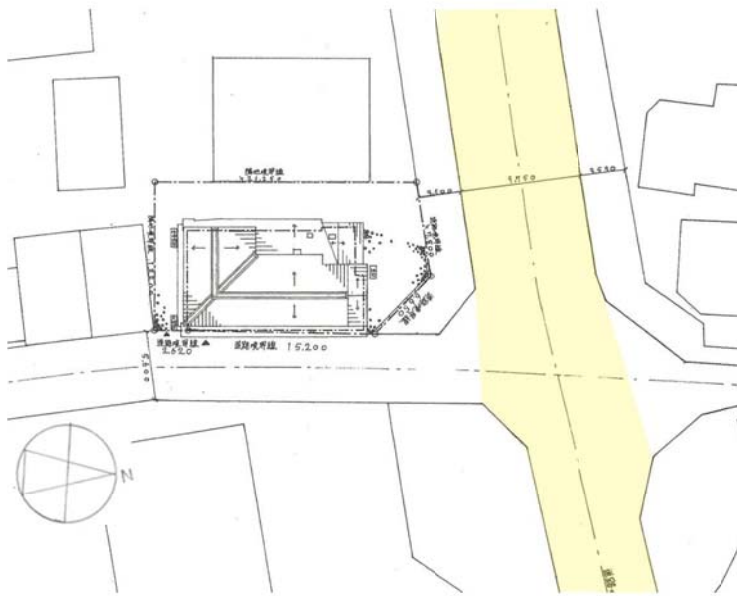


「集合住宅に直売所と料理教室」



- ・須坂市は立地の良さから果物の王国と称される
- ・高齢化や若者の減少から離農者が増え、産業が衰退しつつある
- ・産業の活性化を目標に地産地消を促す拠点として「直売所」を設けたい
- ・購入してすぐ帰るのではなく、「地産地消の料理教室」を併設することにより、農家直伝の調理法を教えたり、地域の人が立ち寄って談笑できる環境を目指し地域ににぎわいを出したい。

配置



対象敷地

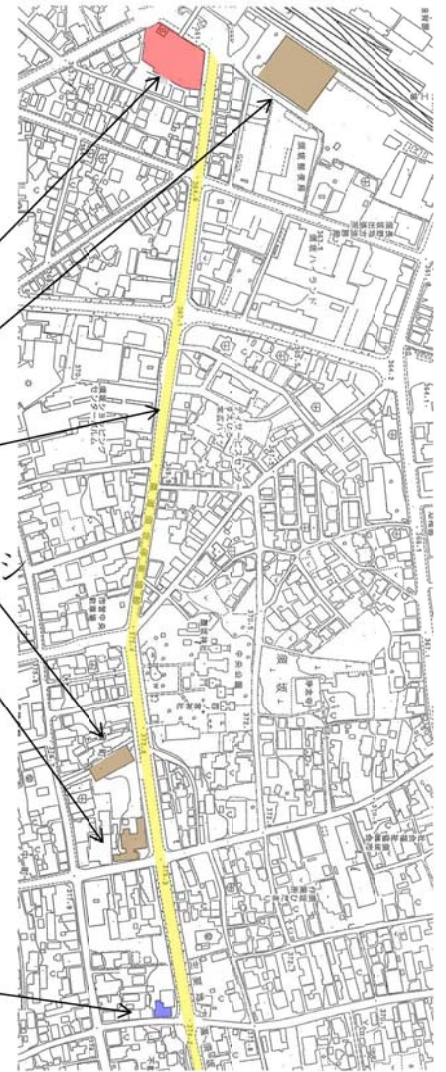
現在地

イオン

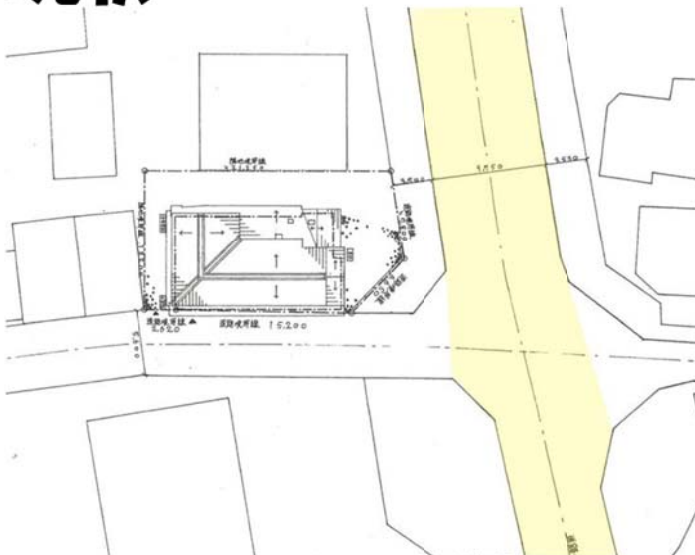
駅前通り

マツモトキヨシ

旧小田切家
住宅



現状



- ・駅前通りと細道に面し、その分人通りが多い
- ・集合住宅にする際、
建物の広さが少し足りない？
- ・他2面は建物に近接し、増築する際、
明かりの確保が難しい？
- ・南北に向かい低くなる傾斜

方針

古いものを尊重せず、
ただ広さを確保しただけの増築



新築とあまり変わらない



古い部分を尊重し、広さを確保するため、
生活の一部を外部にあふれ出させて増築する
あふれ出し部分を地域の人との交流につなげる

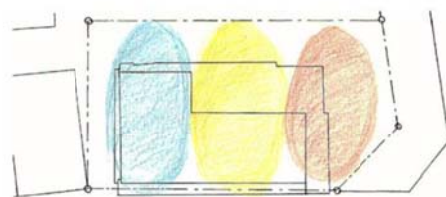


無理のない増築から見える、古いものと新しいものの融合

できるまでの流れ (ダイアグラム)

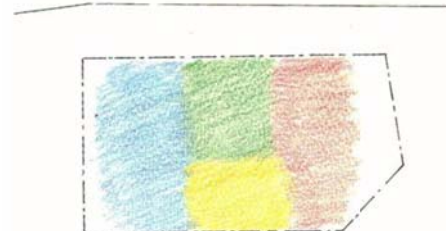
1.「分析」

地域に開けている空間(パブリック)
住む人のための空間(プライベート)
2つが混ざる空間(中間領域)



2.「光庭」

2つが混ざる空間(中間領域)に
光庭を設け通風、採光の確保



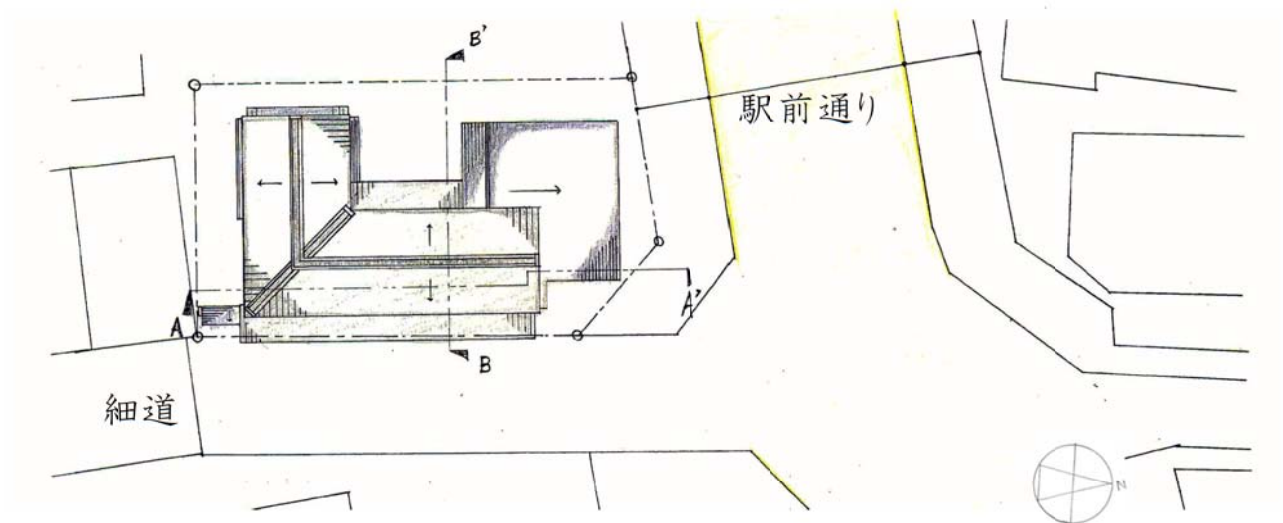
3.「つなげる」

庭に奥行をつけ、回遊性の向上。
3つの領域がつながり、傾斜の
吸収と生活の一部のあふれ出し
を行う



プライベート
中間領域
パブリック
庭

再生案の配置



プライベート
中間領域
パブリック
庭

集合住宅 + 直売所 + 料理教室

家族構成

農業を営む老夫婦 2名

農業を営む若夫婦 2名

料理教室を営む夫婦 2名

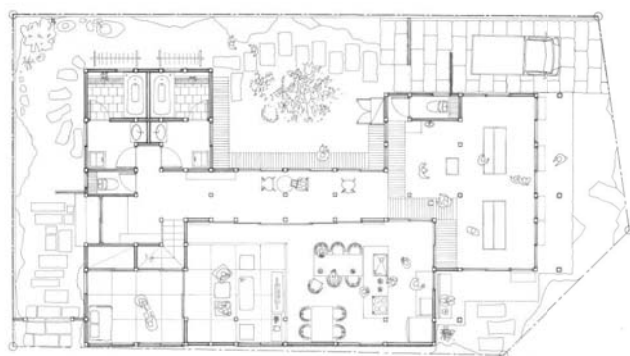
子供 2名 × 2

計10名

再生後1階/2階の概要説明

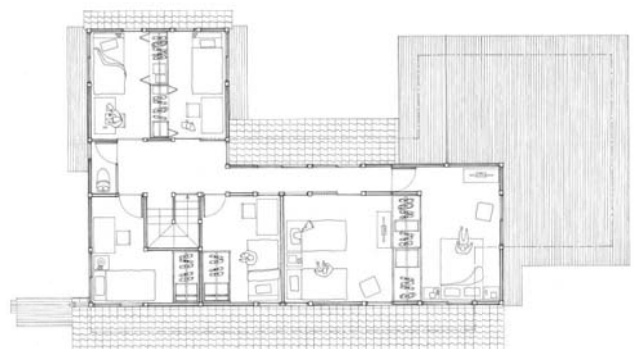
1階

- ・ 地域の人々が来ることができて、談笑、交流のスペース
- ・ 住む人が集まれる生活の場



2階

- ・ 住む人が主に寝るために使う場



1階平面 再生案

- ・既存のL字型は残す
- ・以前増築された部分を改築

残す
改築



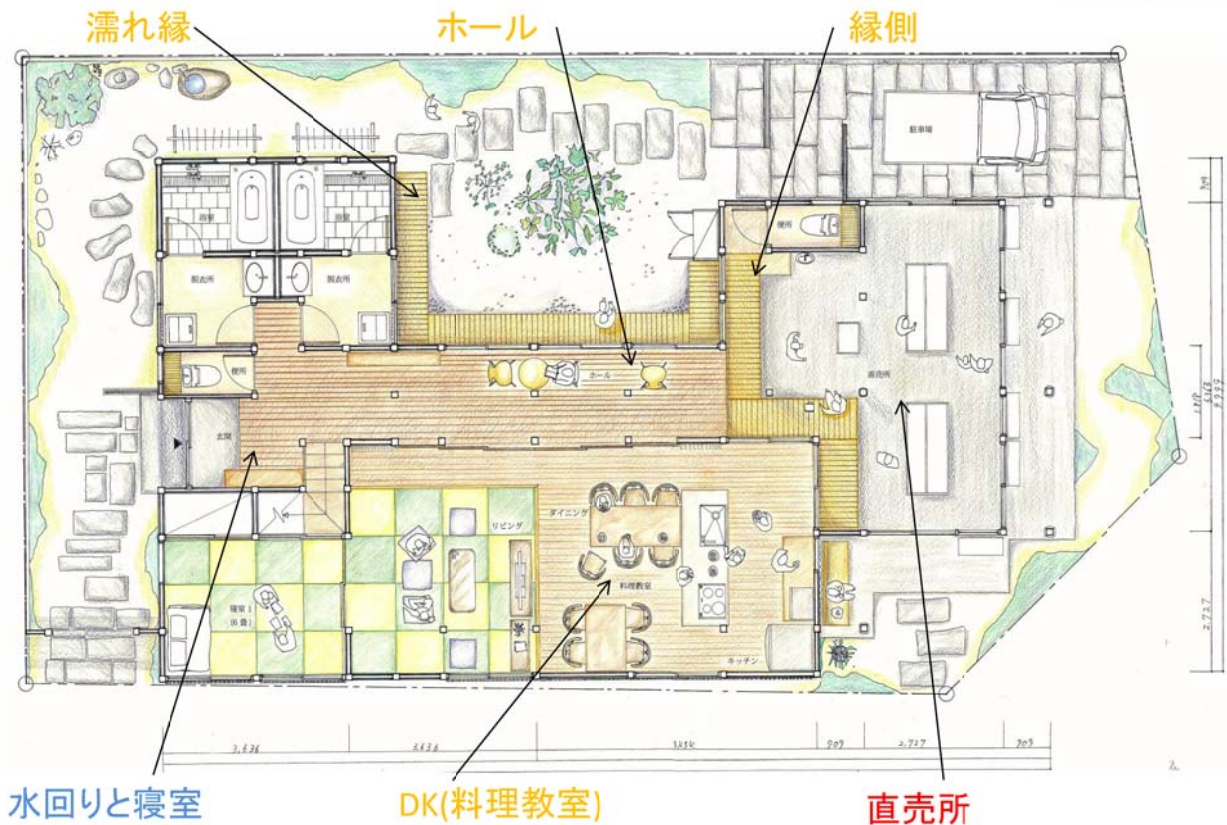
既存

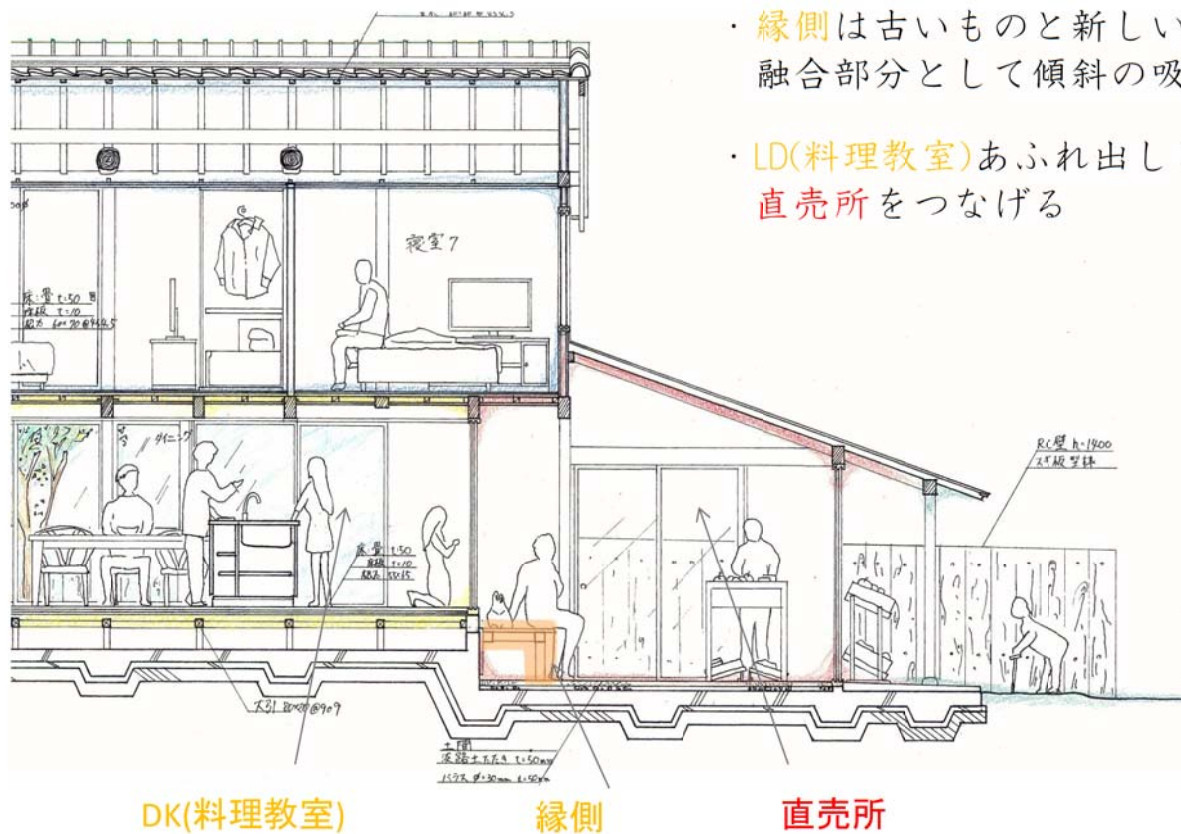


再生

1階平面 再生案

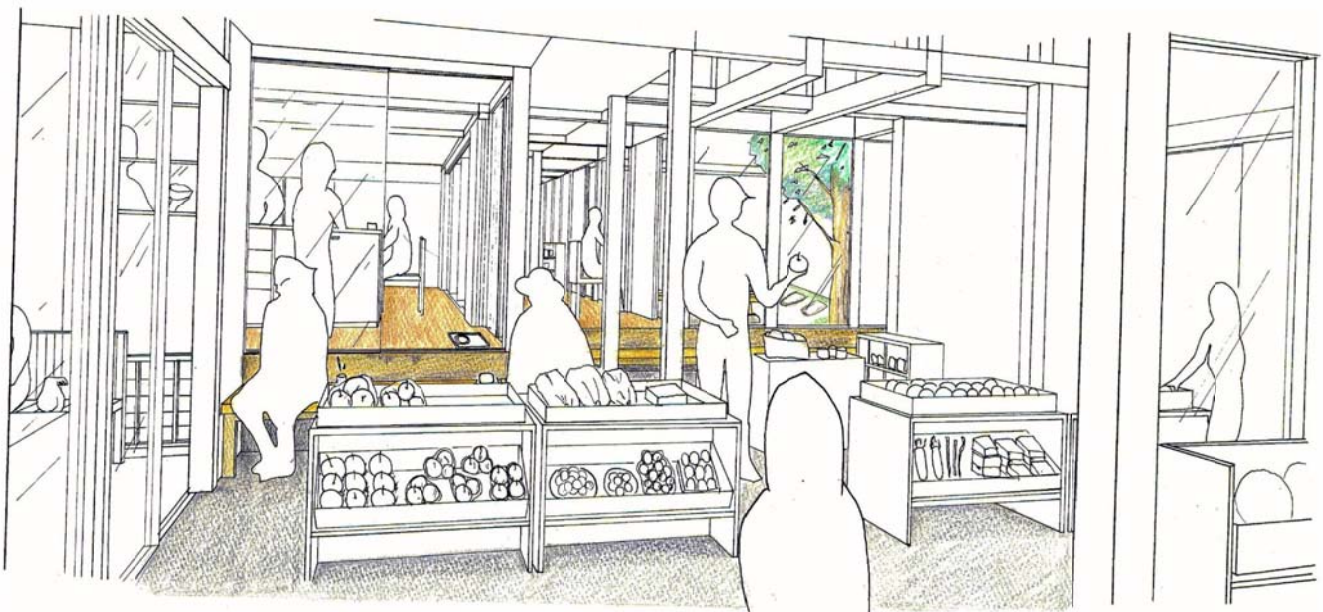
プライベート
中間領域
パブリック
庭





- ・ 縁側は古いものと新しいものの融合部分として傾斜の吸収を行う
- ・ LD(料理教室)あふれ出しと直売所をつなげる

1階平面 再生案

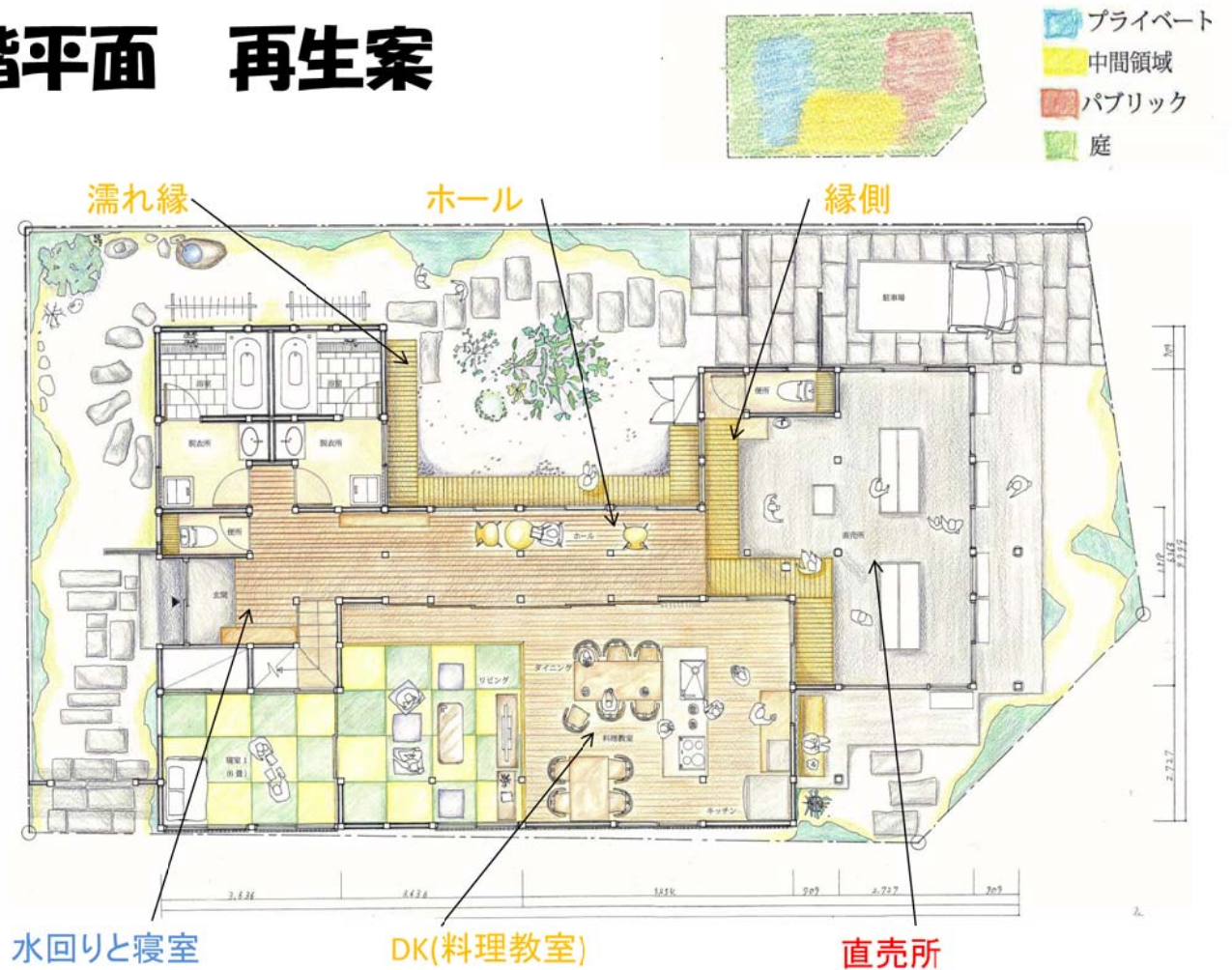


直売所の風景

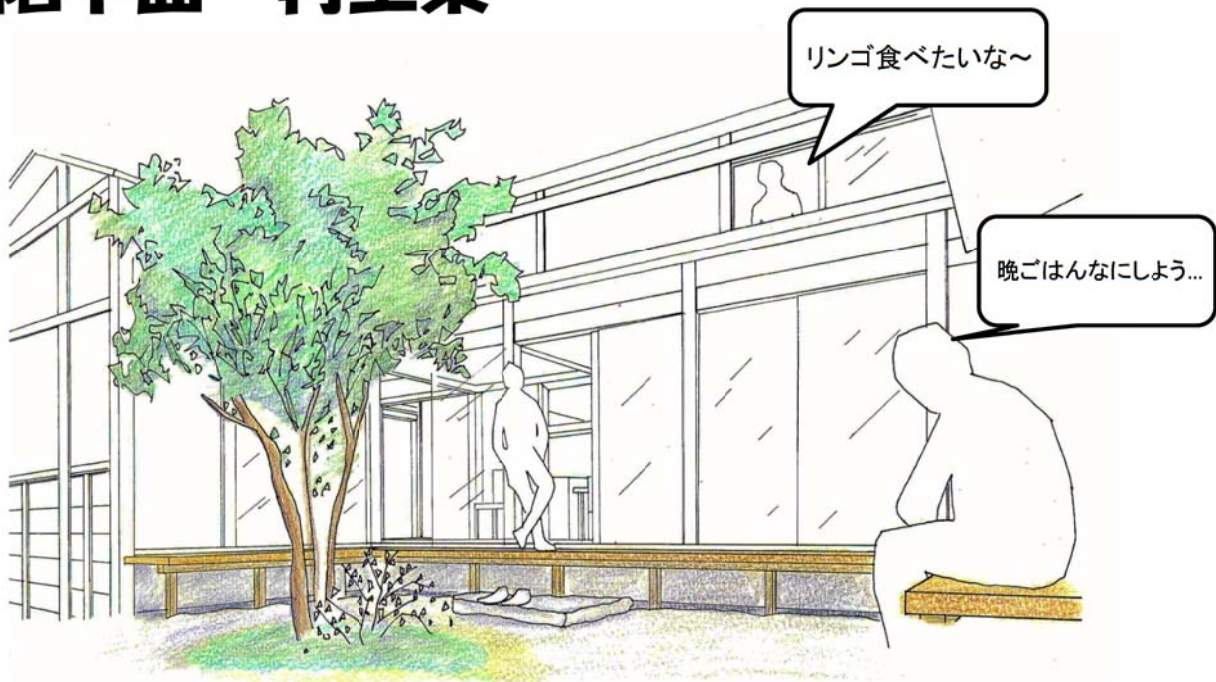
- ・ 直売所から料理教室/ホール/庭を眺める



1階平面 再生案



1階平面 再生案



庭の風景

・居住者と庭



2階平面 再生案

- ・既存のL字部分は残す
- ・最低限の増築

残す
改築

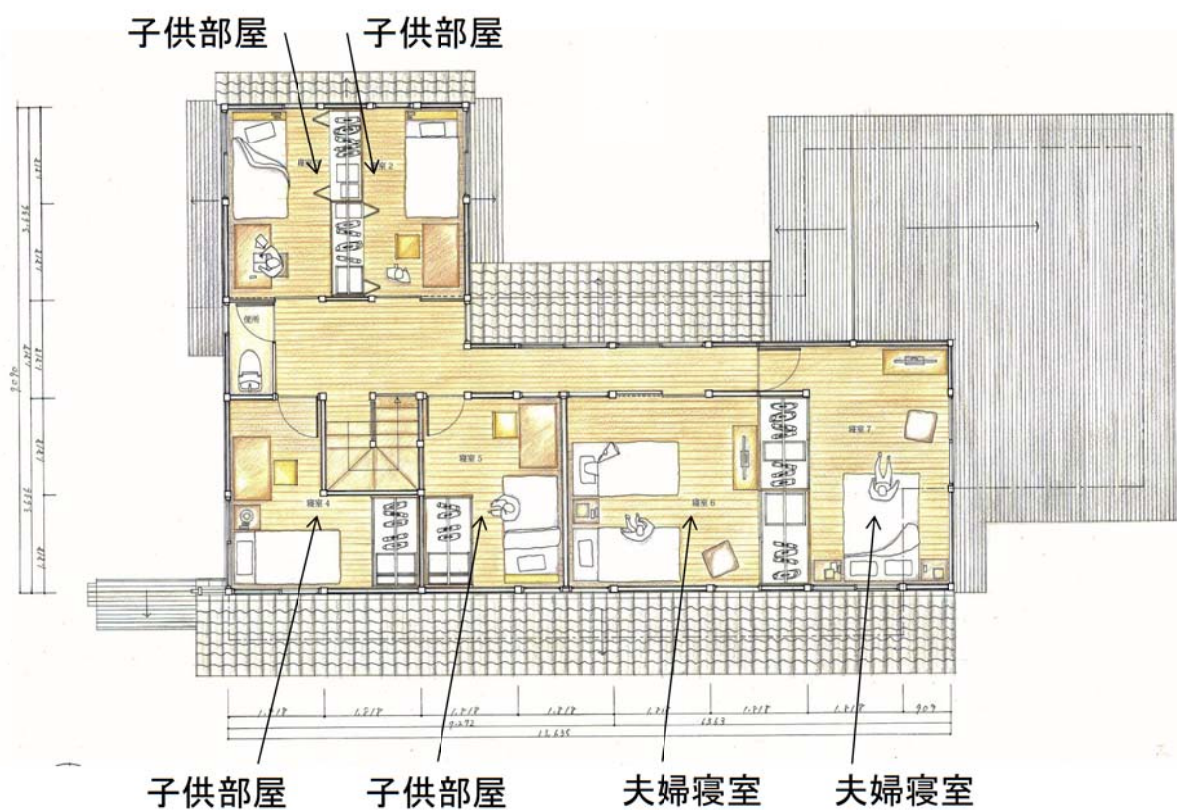


既存



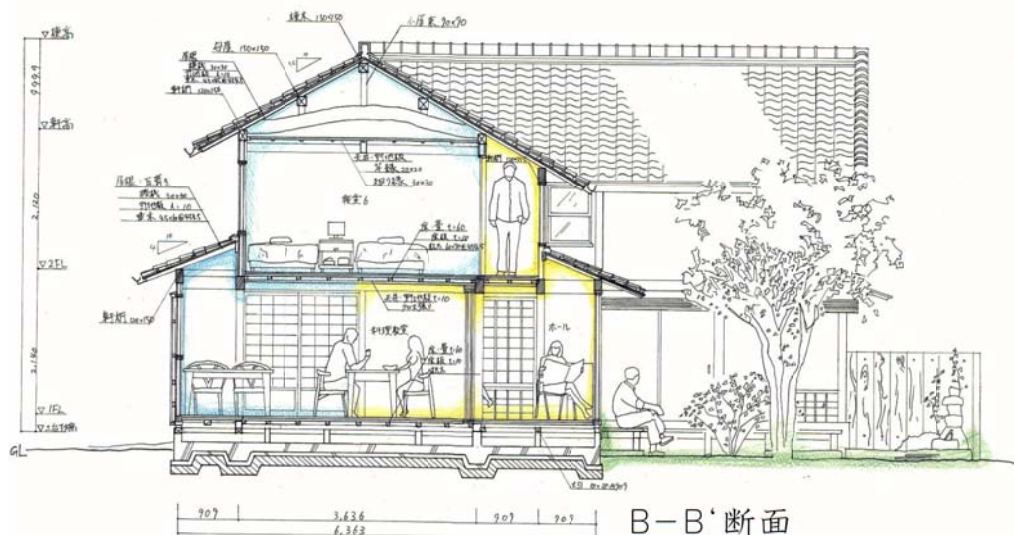
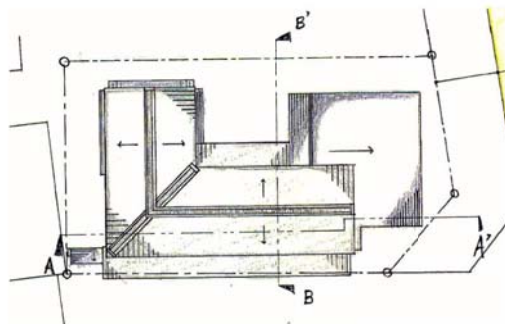
再生

2階平面 再生案



断面計画

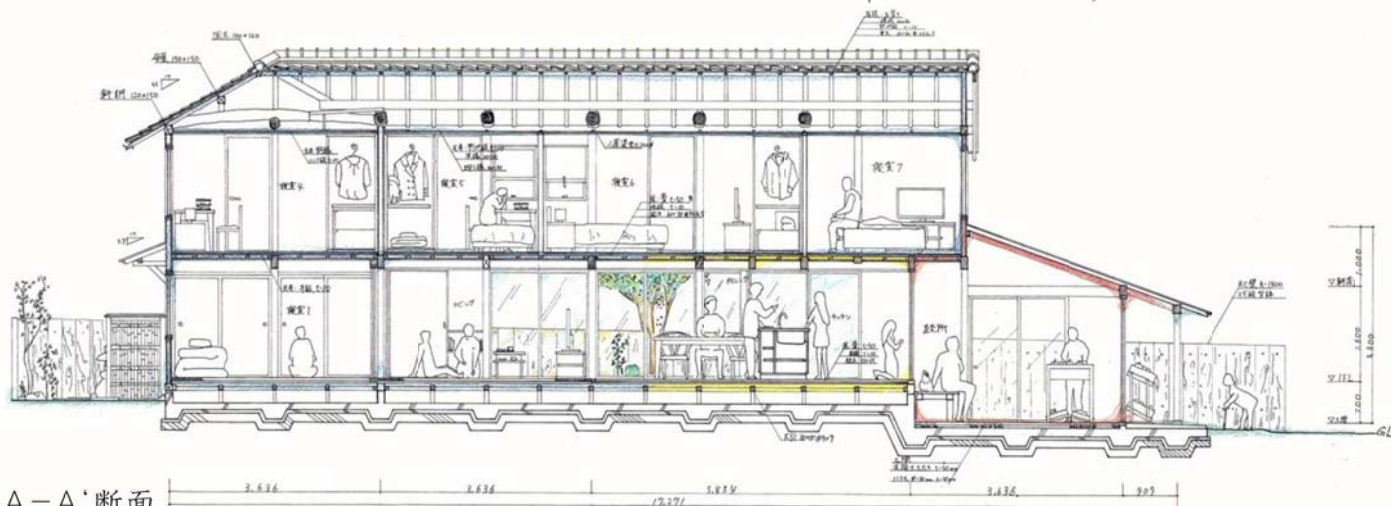
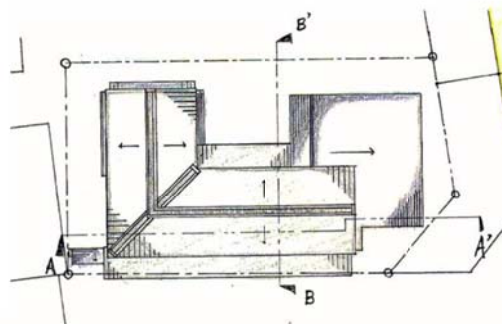
- プライベート
- 中間領域
- パブリック
- 庭



B-B' 断面

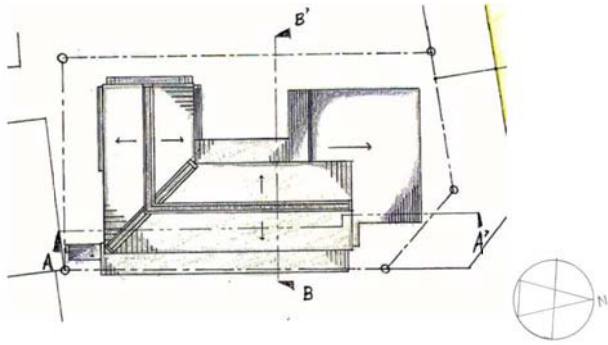
断面計画

- プライベート
- 中間領域
- パブリック
- 庭



A-A' 断面

立面計画



北立面図



西立面図

2階部分は極力増築しない



地域に庭があふれ出す

以上の再生案から
集合住宅に直売所と料理教室を併設することで
地域ににぎわいが出てくるのではないかと思います。



おわり...

ご清聴ありがとうございました。

スリットが切り取るアートな日常



信州大学工学部建築学科三年 鬼頭美絵

コンセプト

須坂を歩いていると優しく話しかけてくれるおじいさんに会ったり、元気よく学校から帰ってくる小学生を見かけたりする。このまちの人は元気であたたかい。そんな人たちを結んだらきつとあたたかくて楽しい場所ができる。

民家を再生して、みんなが集まる美術教室兼下宿を開く。自然が豊かなこのまちで感性を磨きながら、コミュニティを築きながら、日常に彩りを加える。

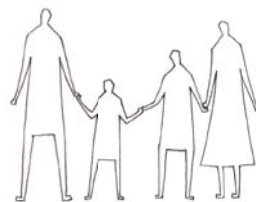
プログラム

* 住人

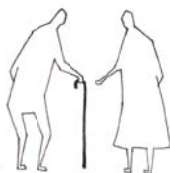
美術教室の講師とその家族

両親夫婦

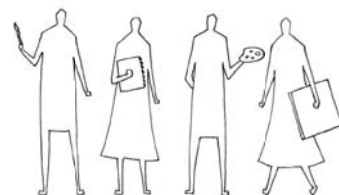
下宿に暮らすアーティスト×4



講師家族



両親夫婦



アーティスト

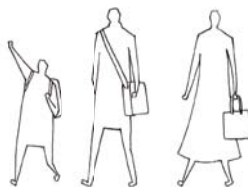
+

* 美術教室に通う人々

(小学生から大人まで年齢は無制限)

* アーティスト インレジデンス

(各種の芸術制作を行う人物を一定期間ある地に招聘し、その地に滞在しながらの作品制作を行わせること)

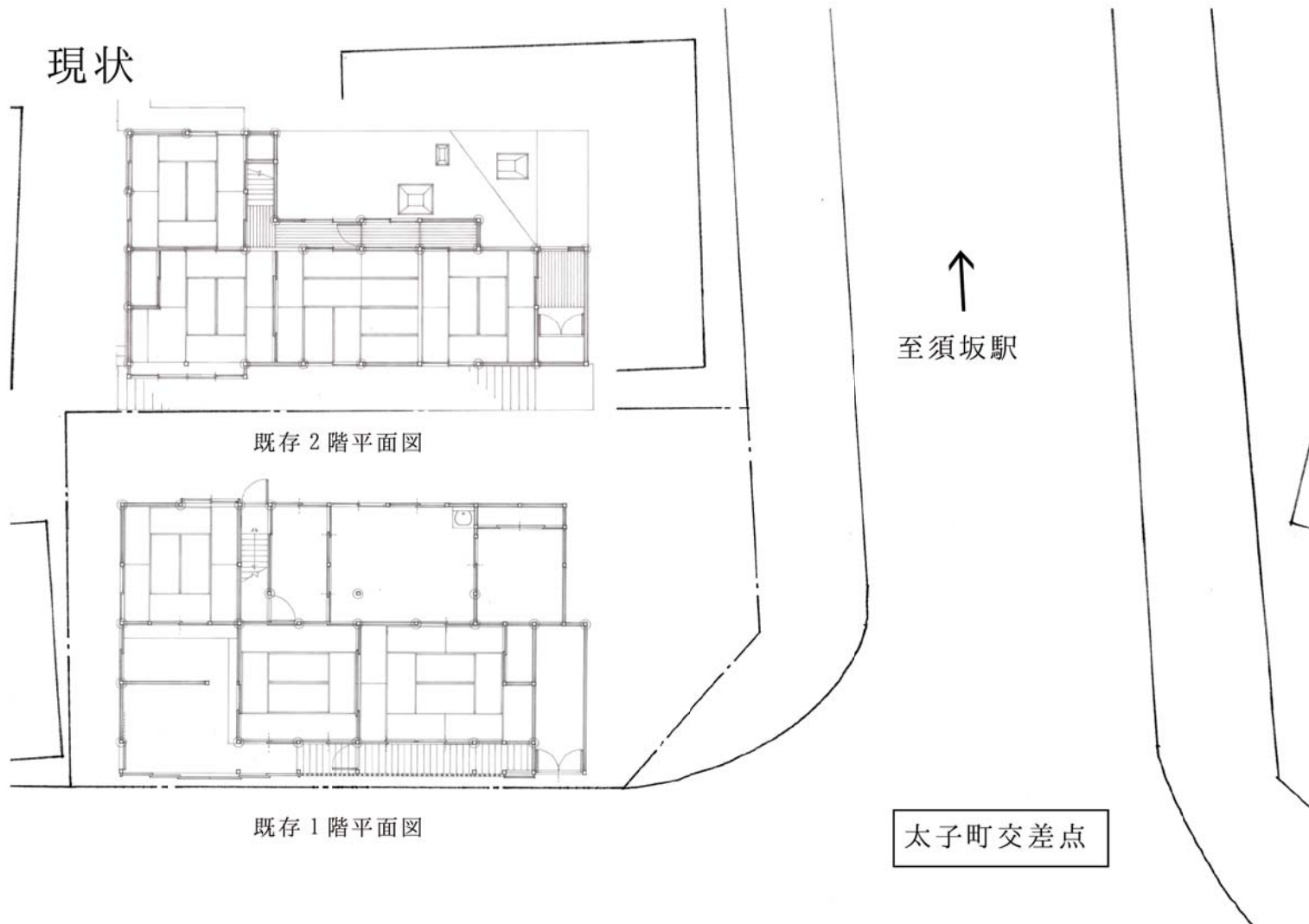


生徒たち

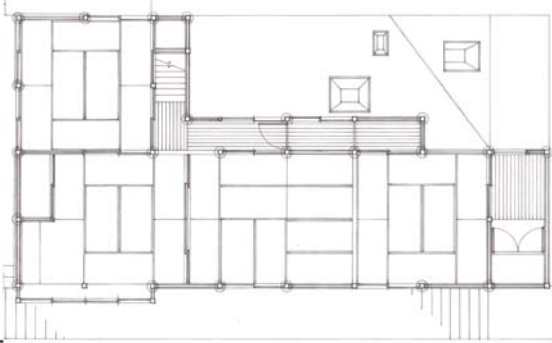


アーティストインレジデンス

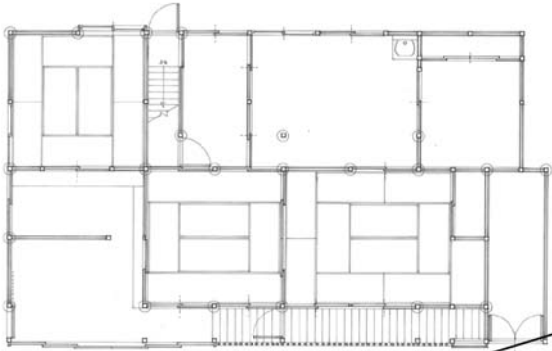
現状



現状



既存 2 階平面図



既存 1 階平面図

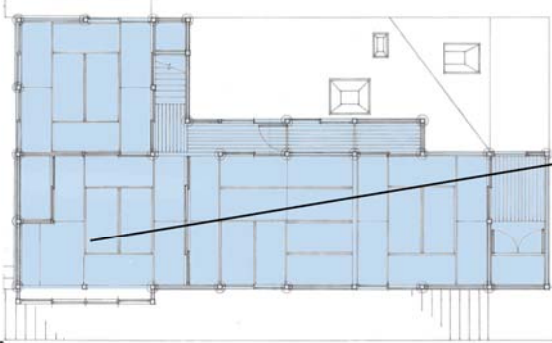


交差点から見た民家。

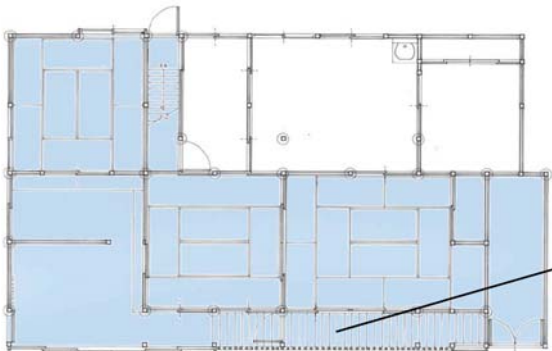


美しい町並みを形成

現状



既存 2 階平面図



既存 1 階平面図

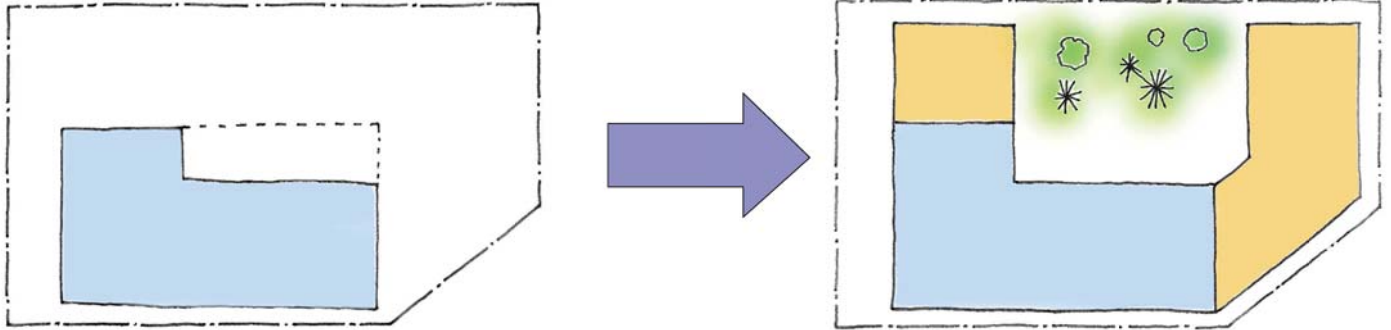


天井が低いのが特徴



道に面する渡り廊下

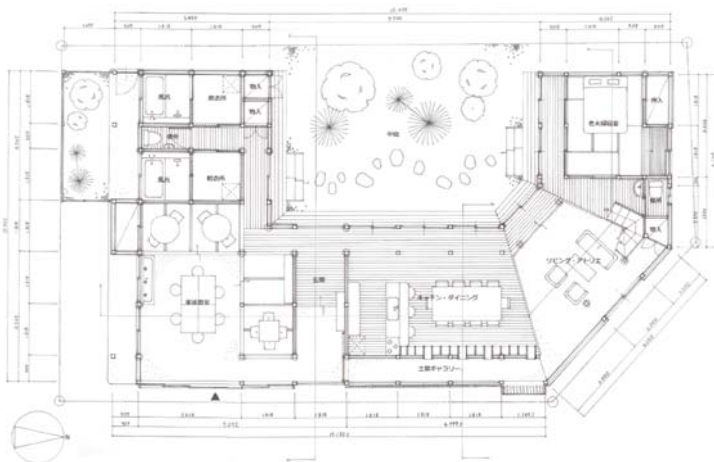
再生のポイント①



既存の建物の増築された部分を減築

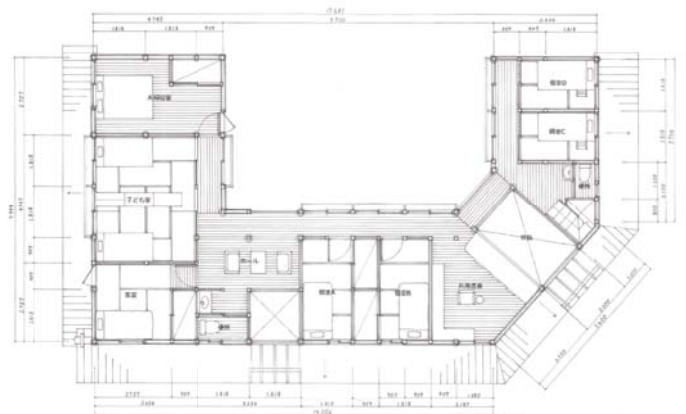
角に対して新しい面、内側に中庭を作るように増築。

再生のポイント②：平面構成



1 階

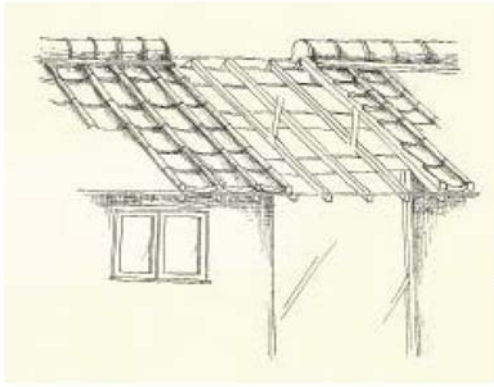
美術教室や住人のためのキッチンダイニング、リビング、アトリエなどみんなで使う空間を配置



2 階

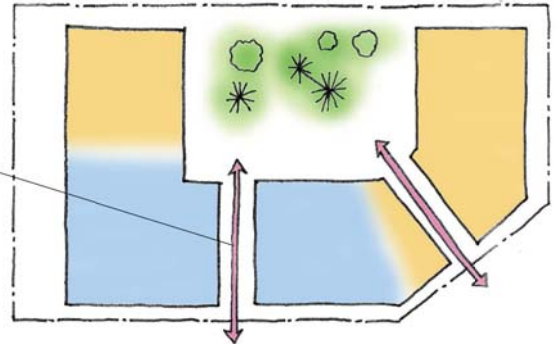
個室や共用書斎、ホールなど住民のための空間を配置

再生のポイント③：スリット

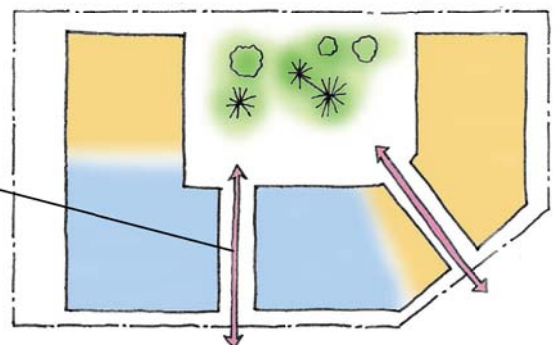


スリット

建物の一部の骨組みを残して、ガラス張りにする。外から内側の中庭まで視線がとおり、室内には光が届く。さらに吹抜を設けることで、古民家特有の薄暗さと天井の低さに変化を持たせる。

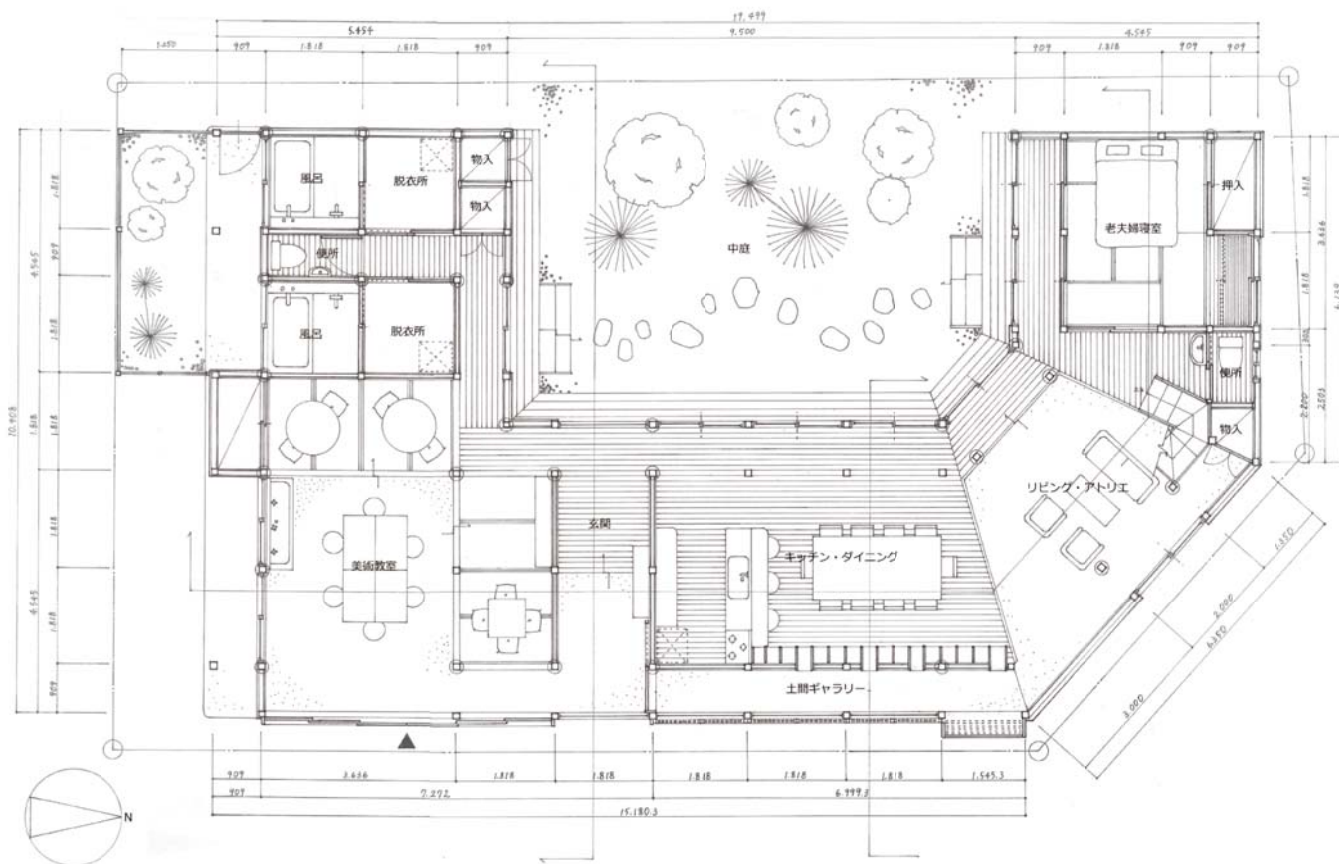


外から内に視線が抜けるようにスリットを二つ配置。室内の活動と奥の庭を切り取る。



外から内に視線が抜けるようにスリットを二つ配置。室内の活動と奥の庭を切り取る。

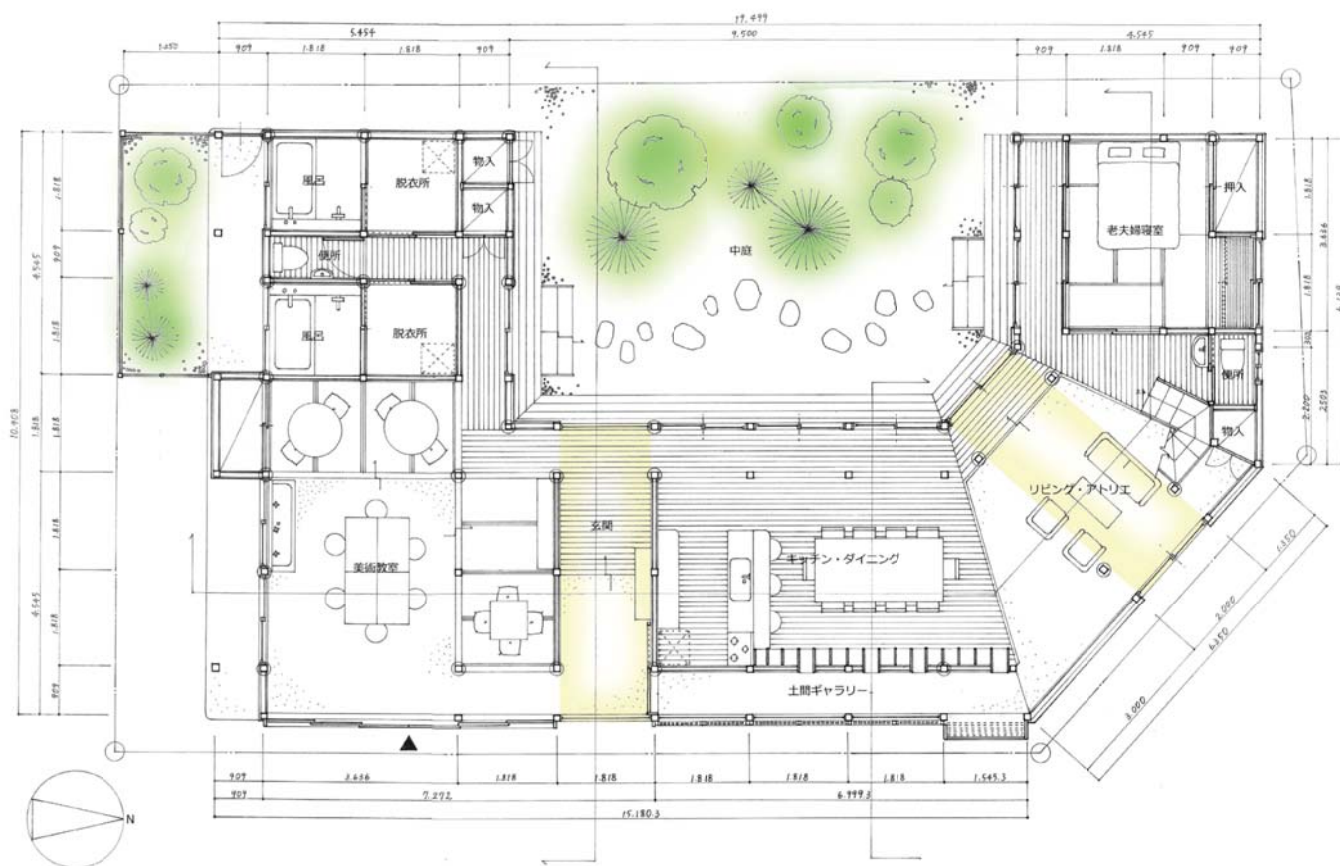
1 階平面図



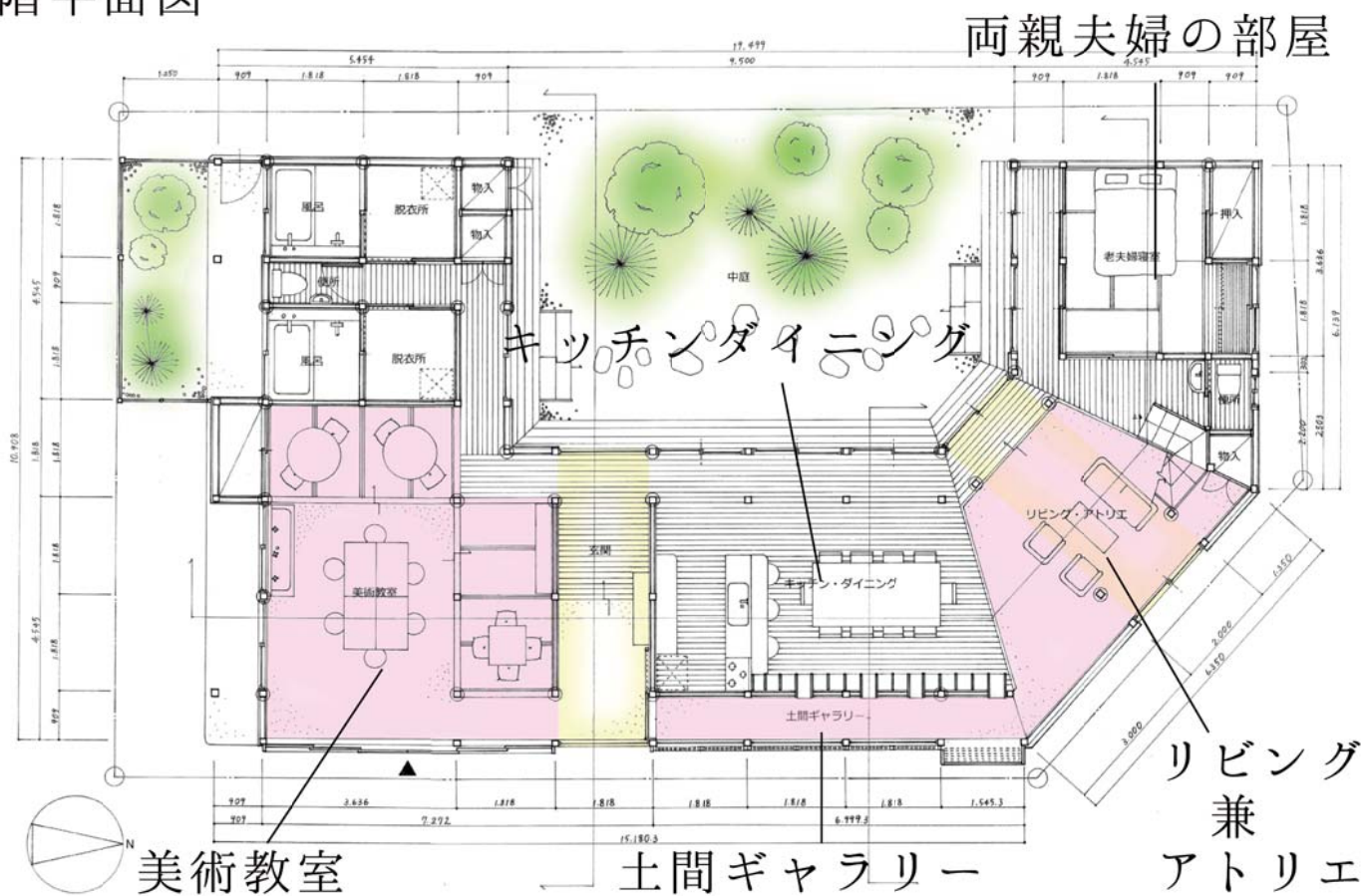
1 階平面図

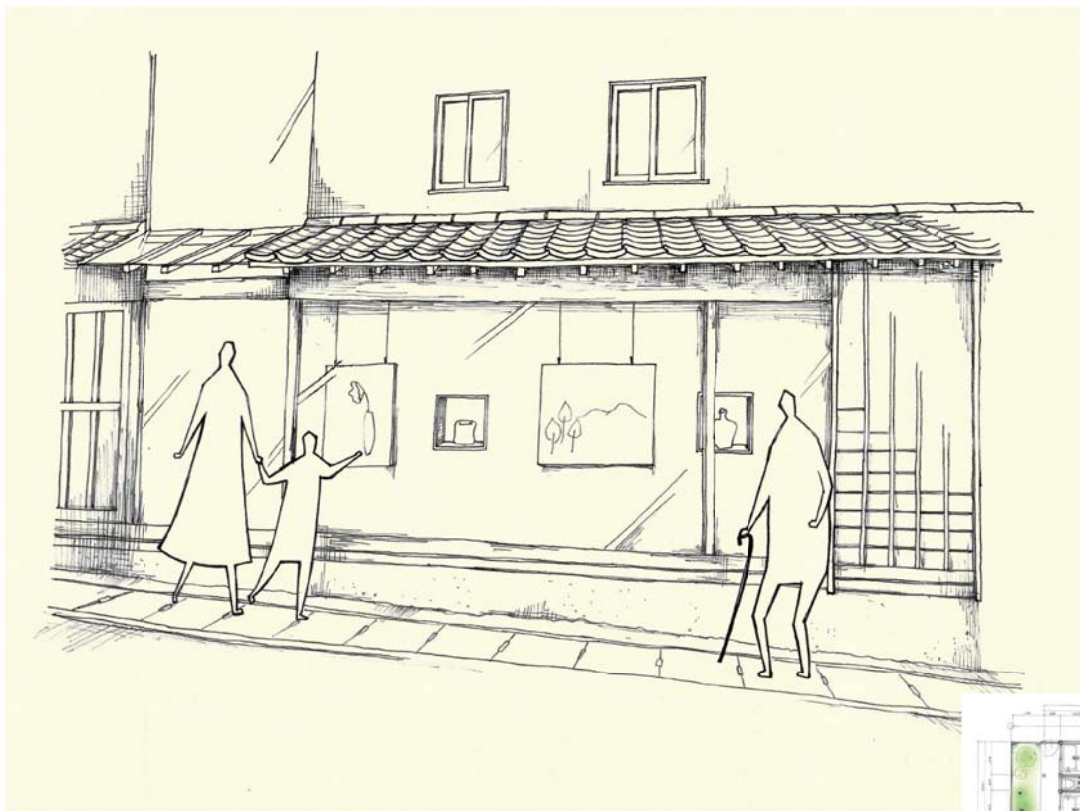


1 階平面図

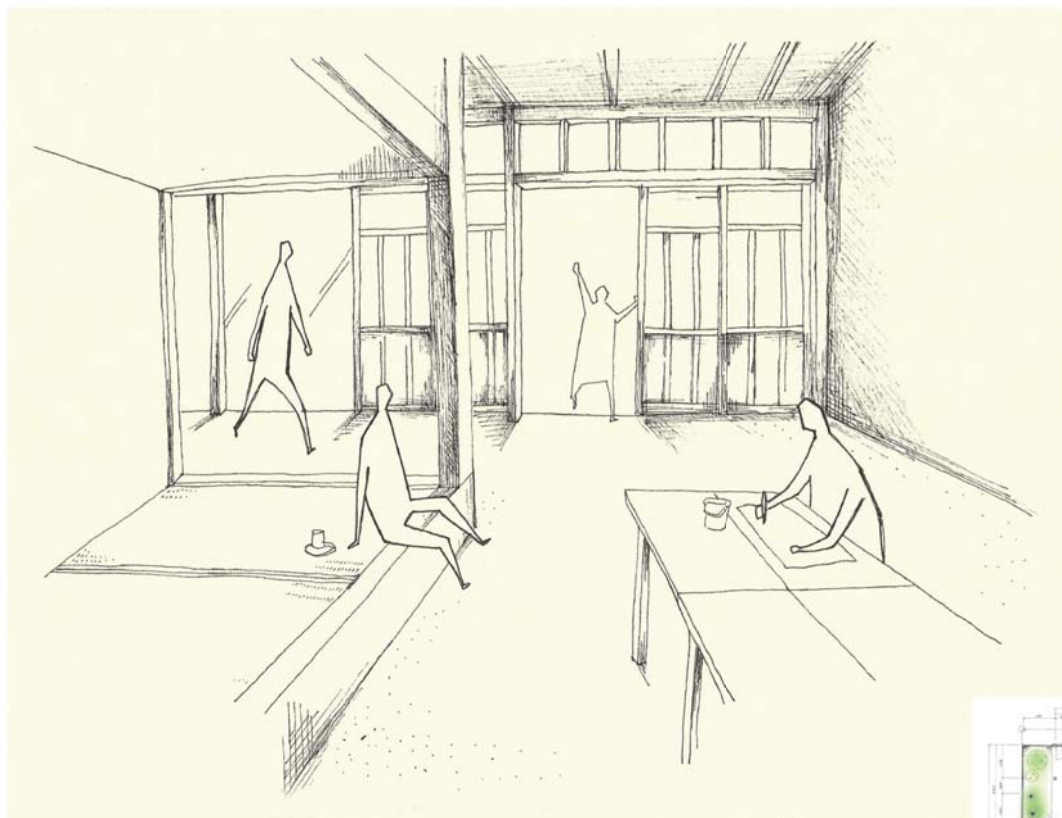
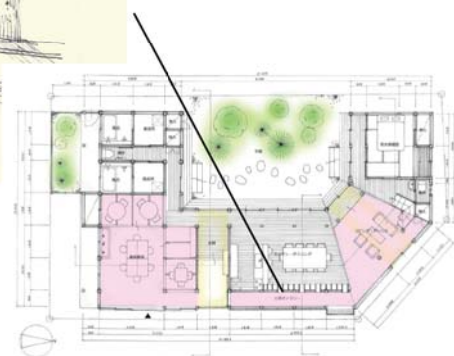


1 階平面図

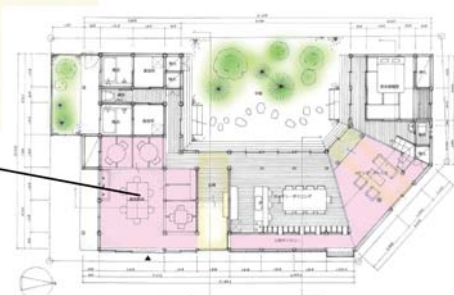




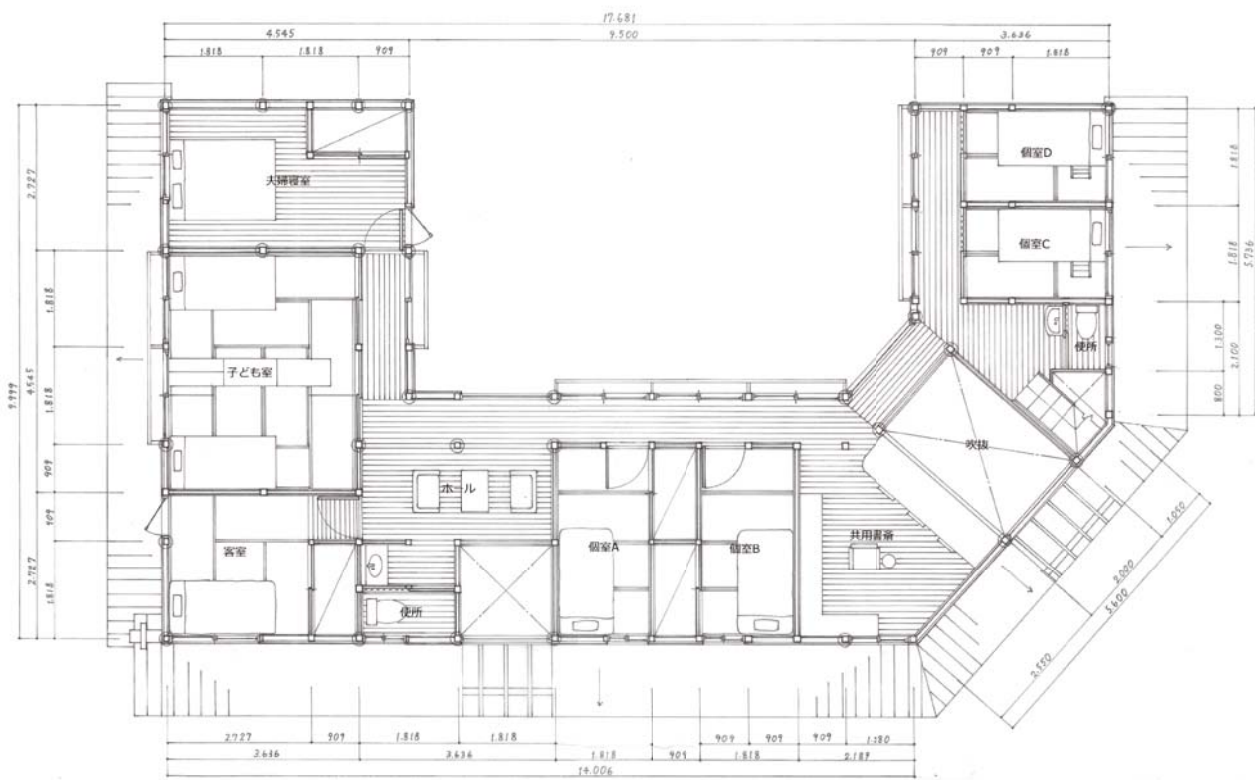
もともと渡り廊下だったところを土間ギャラリーに。
格子戸を開け放つと通りかかった人も見る事が出来る。



土間を再生して美術教室に。
古民家の落ち着いたある雰囲気。



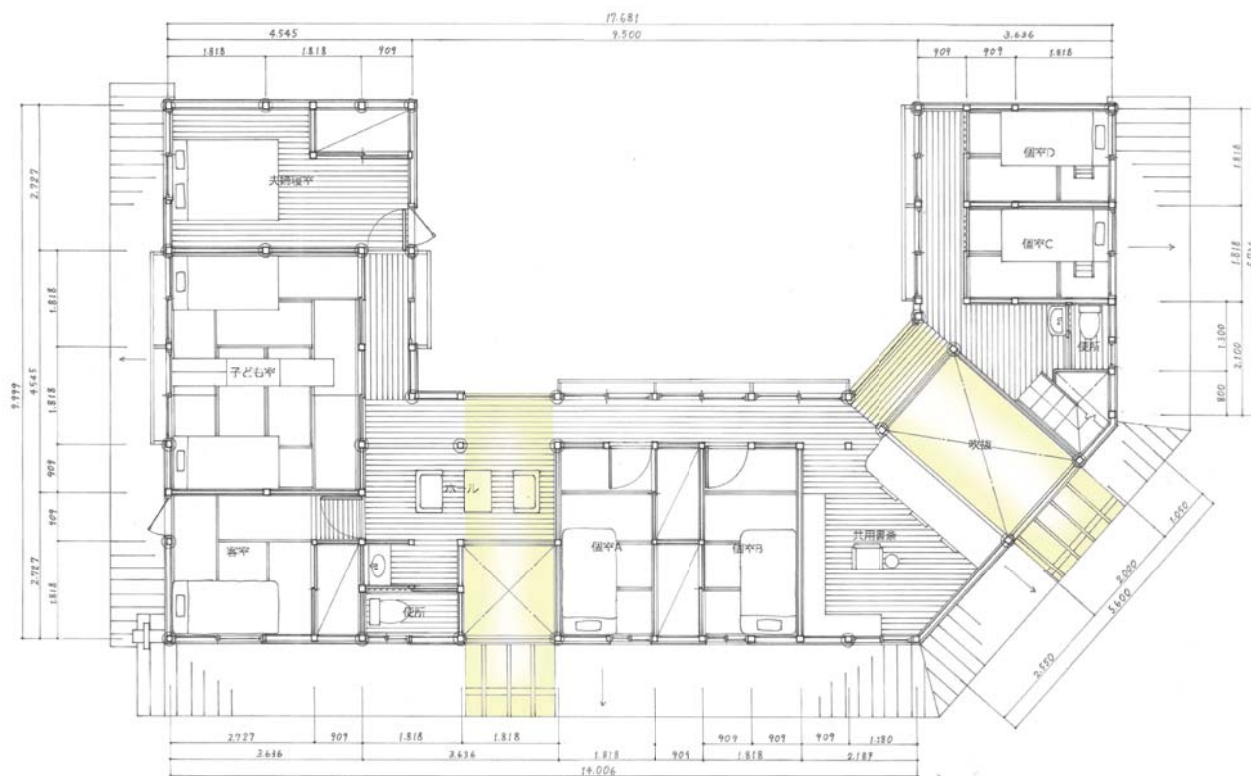
2 階平面図



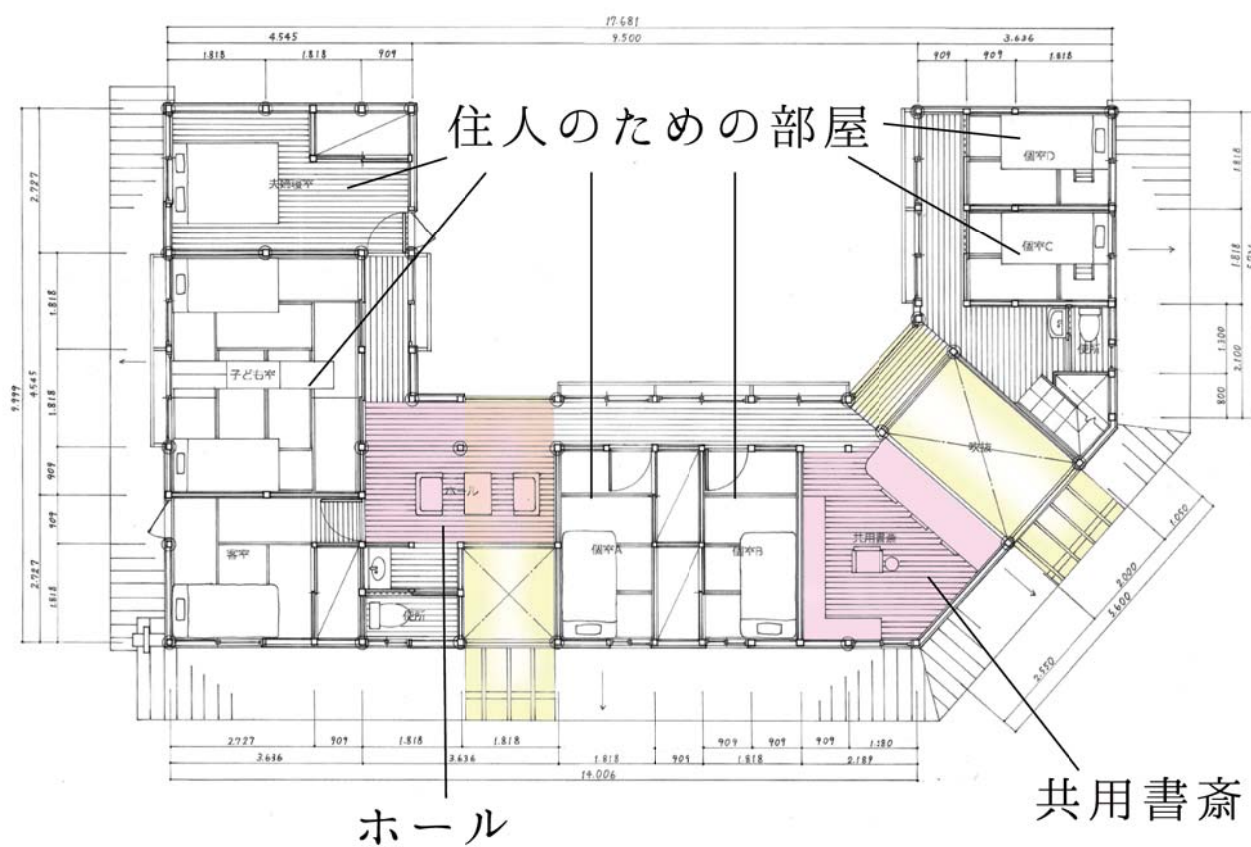
2 階平面図



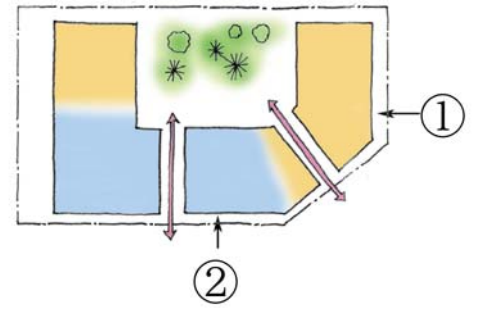
2 階平面図



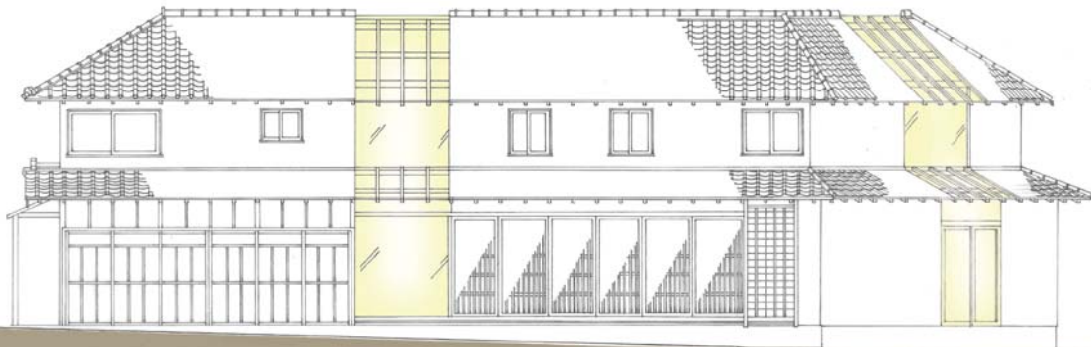
2 階平面図



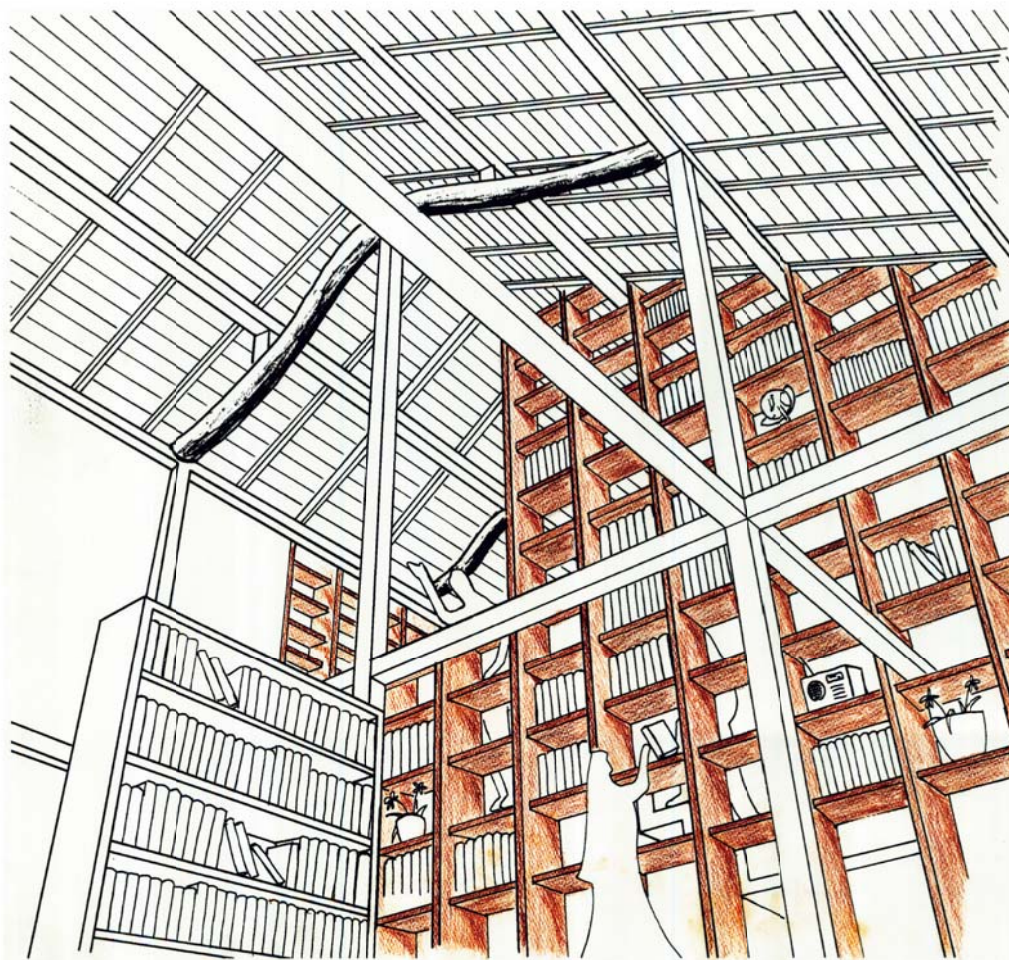
① 外観



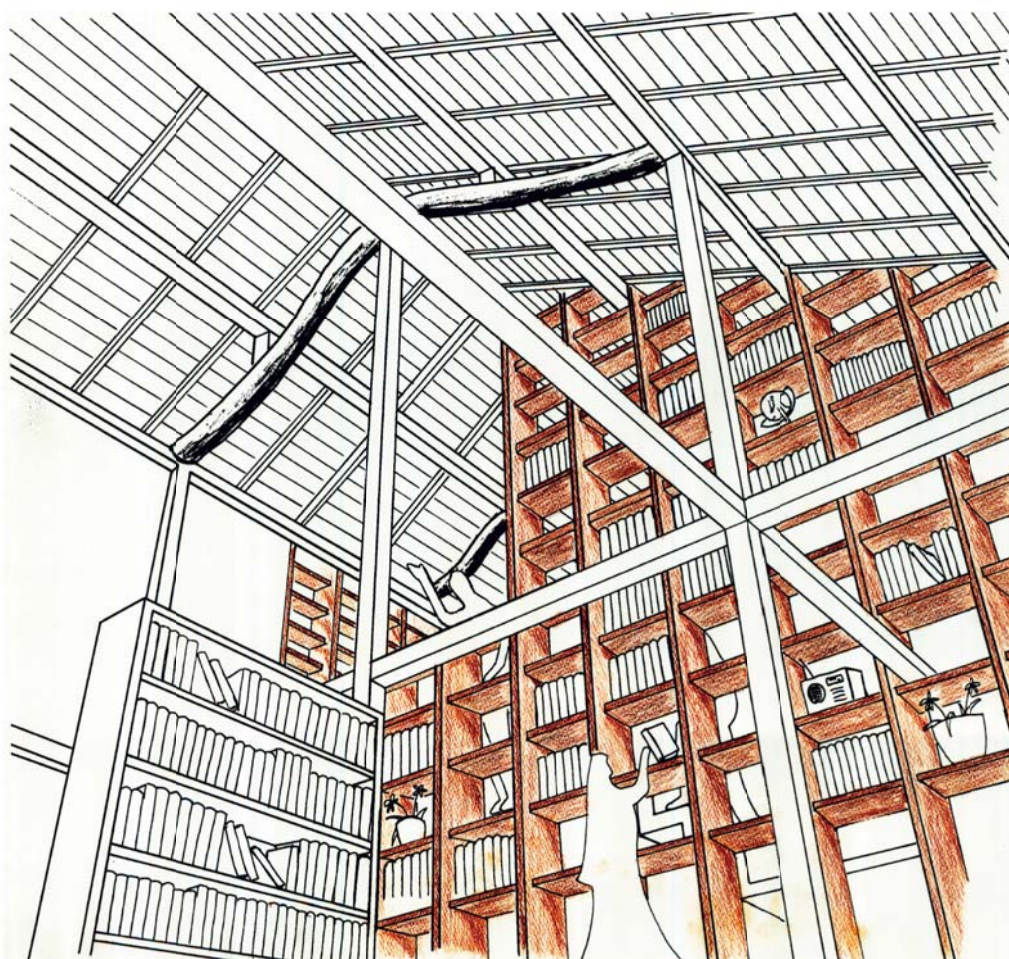
② 外観



ご静聴ありがとうございました



信州大学工学部建築学科 3 年
行谷 拓哉



コンセプト

須坂における「にぎわい」とは
どのようなものなのでしょうか？

「もちより図書」という
本の集まる場所から、人々の
思い出の集まる場所に昇華する。

そこから生まれる小さな交流は、
どこかなつかしく、
暖かみのある、
須坂らしいにぎわいなのでは
ないだろうか。

住む人と、町行く人の
思い出・本を集積できる
古民家の再生を行う。

プログラム

住民構成

住居を管理する老夫婦と図書を
管理する老夫婦の 4 人がオーナー。

須坂の老夫婦 2 組 (4 人)

単身の男女 6 人

住民は単身の男女 6 人で年齢は様々。

合計 10 人

住民はそれぞれが本好きや活字に
関わる仕事をしている。



現状



←通り沿いの景観が非常に
美しく、**趣がある**。

→
大通り沿いは建物の顔になる部分だが、あまりその役割を果たしていない。



操作



趣のある景観は残し、建物の後ろ側・正面を減築する。

操作



趣のある景観は残し、建物の後ろ側・正面を減築する。

後ろ側・正面に屋根を延長するように増築する。



住居管理の
老夫婦寝室

LDK

中庭

図書管理の
老夫婦寝室



個室 A~D

個室 E~F

一階には老夫婦 2 組が住み、二階にはその他の住民が住む。

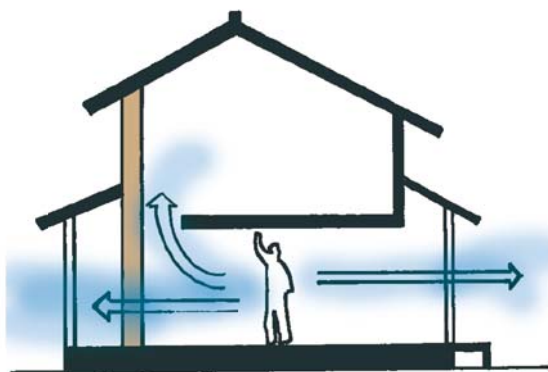
生活の中心は一階の LDK と中庭になる。



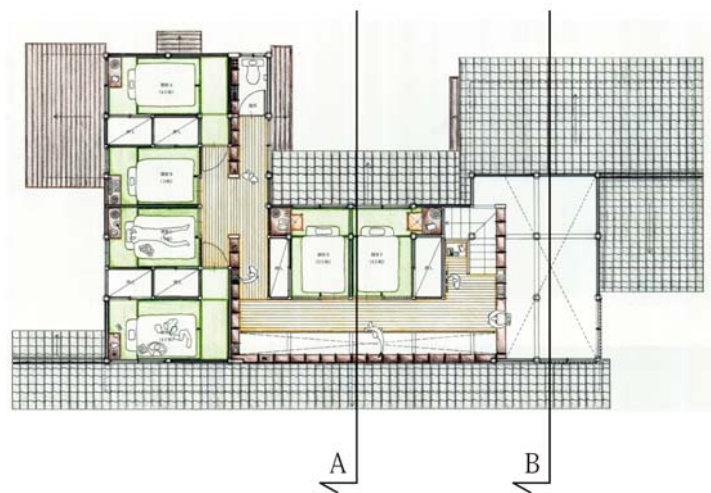
A

B

A



天井が低いという特徴を利用して、
本棚・吹き抜け・中庭を介することで
奥行をつくり、開放感を創出する。



A

B

B



屋根を伸ばすように増築したこと
で、入るほどに天井が高くなり、よ
り解放的な空間になる。



平面再生案の説明



本棚が、既存・新築をつなぐように入り込んでいる。
 本棚が、部屋を区切る役目を持っている。



中庭側に本棚が開いているため、中庭と**一体的な**空間になっている。



通り側は**公共性**のある「**もちより図書**」になっている。

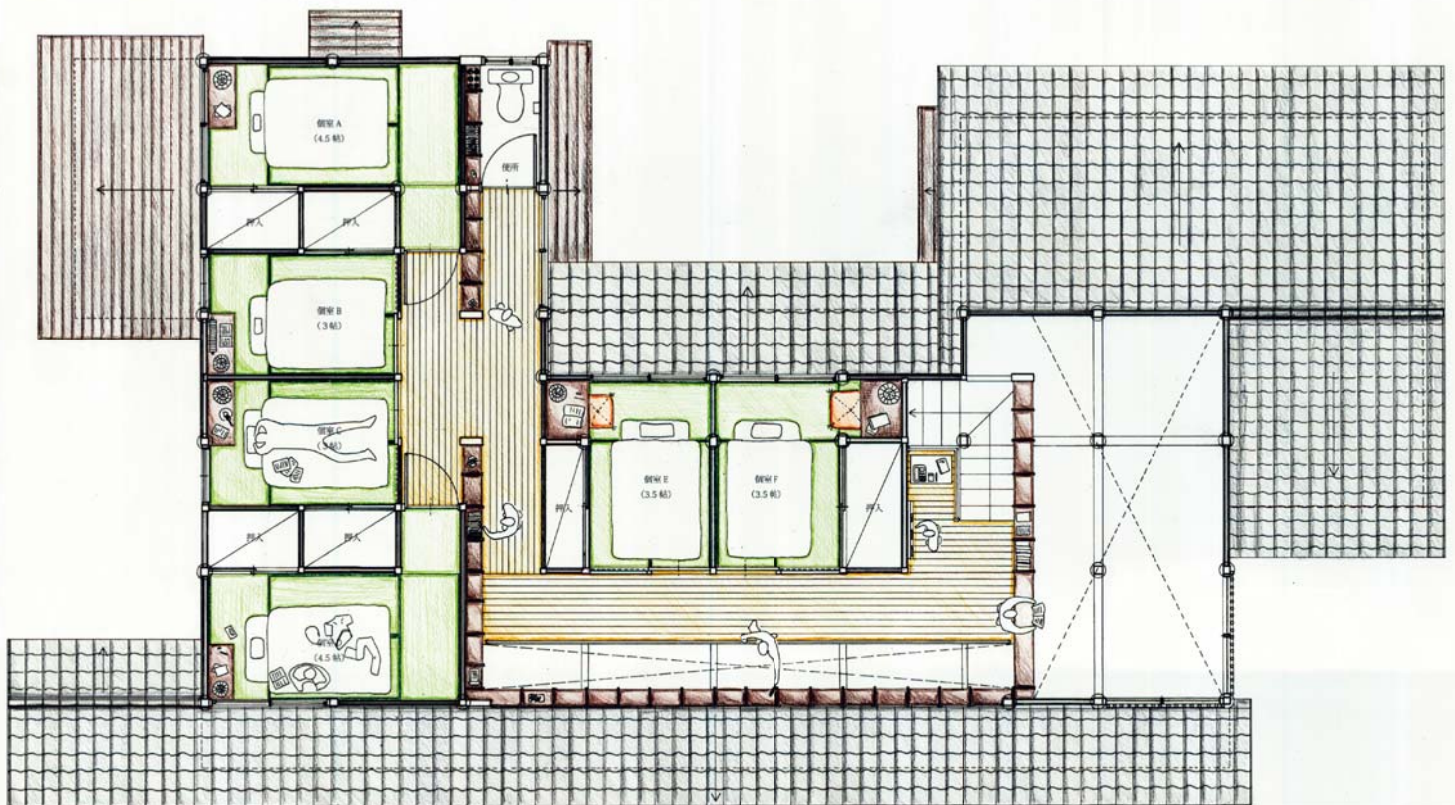
下屋の部分が**ギャラリー**になっていて登下校の児童などの目にとまる。



既存の格子越しに、
本棚が見えるようになる。

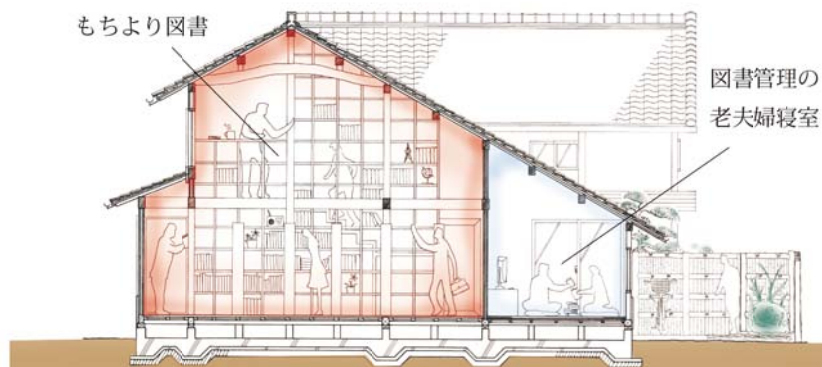


ギャラリーを歩く

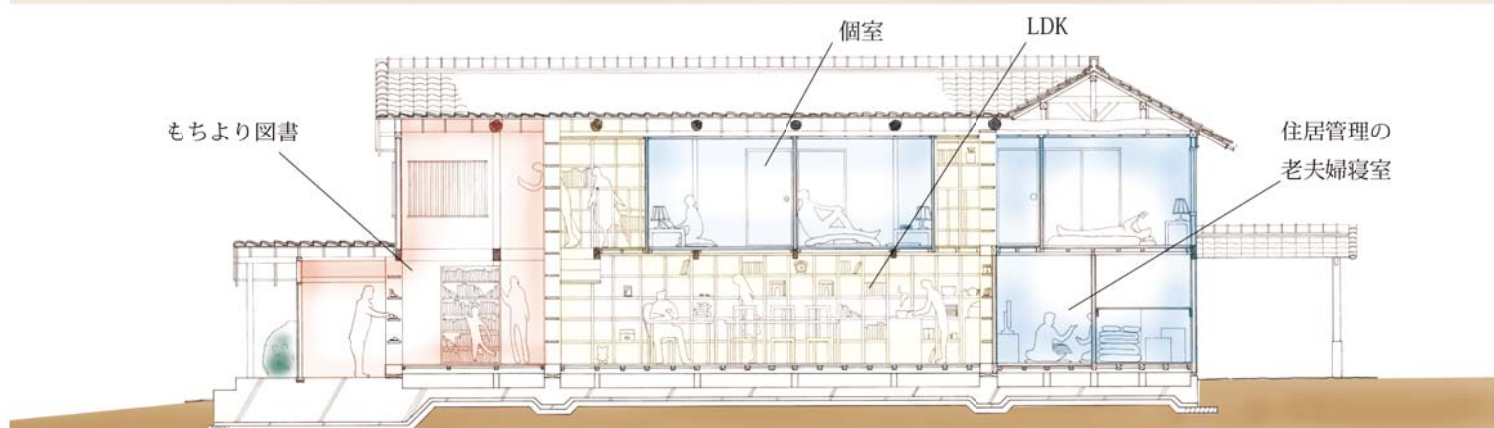
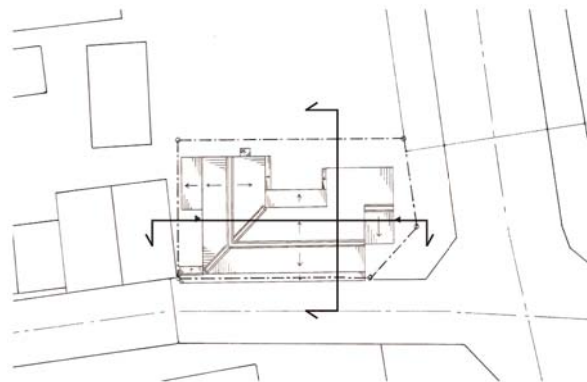


2階に住む人のスペースは最小限。
大きな吹き抜けが1階とのつながりを強くする。

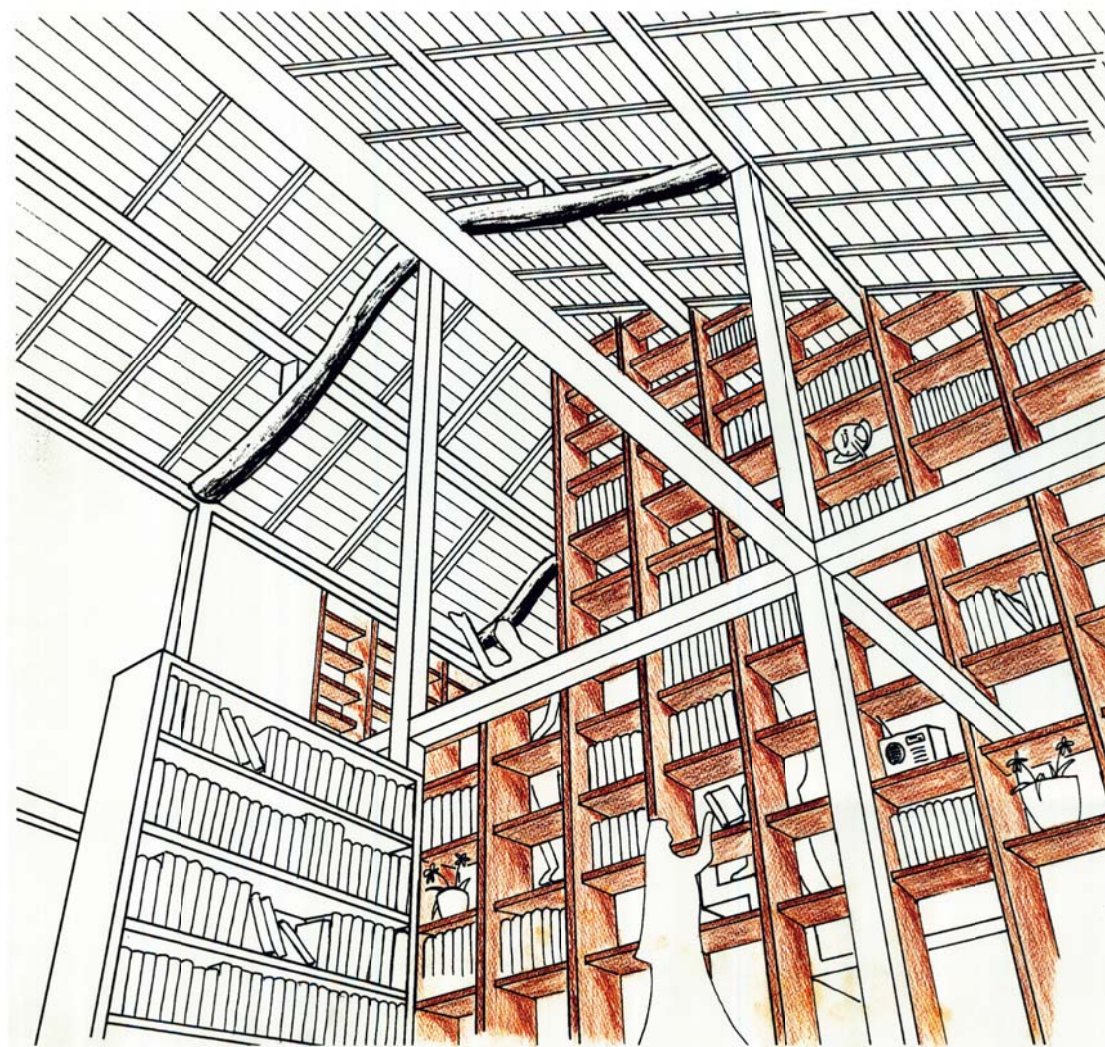
断面計画



再生後短手断面図



再生後長手断面図

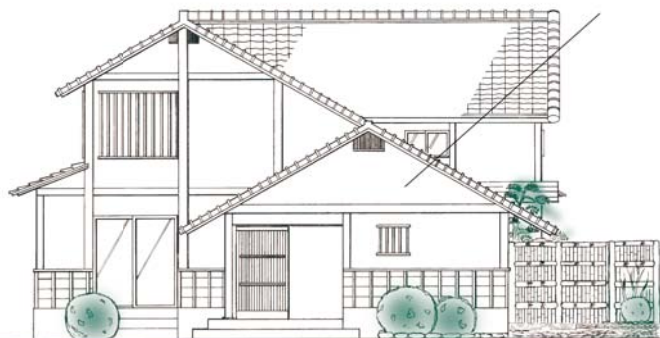


図書空間のパス。

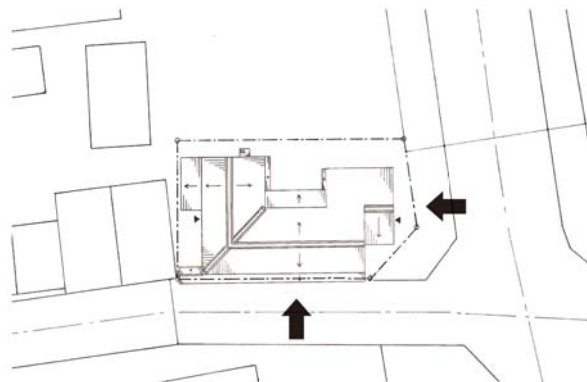
本棚の一部が抜けていて、そこから一階の人とコミュニケーションをとれたりする。

立面計画

特徴的な外観

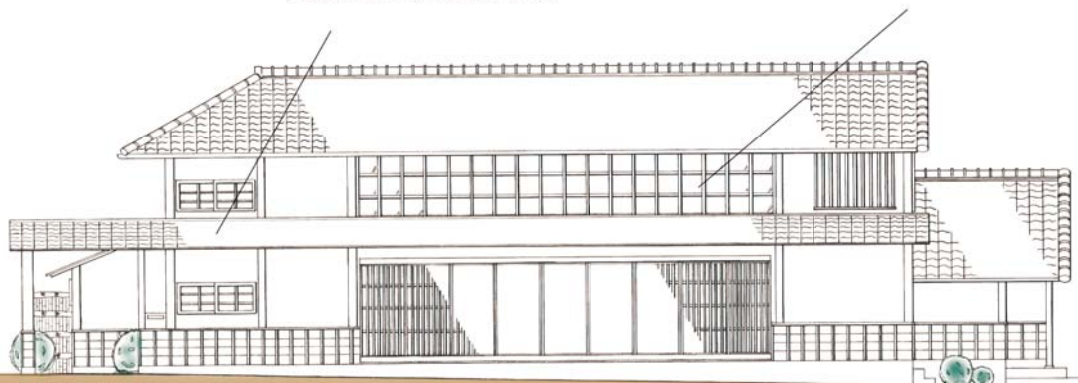


再生後北立面図



外観は趣のある現状を維持

2階の開口は本棚

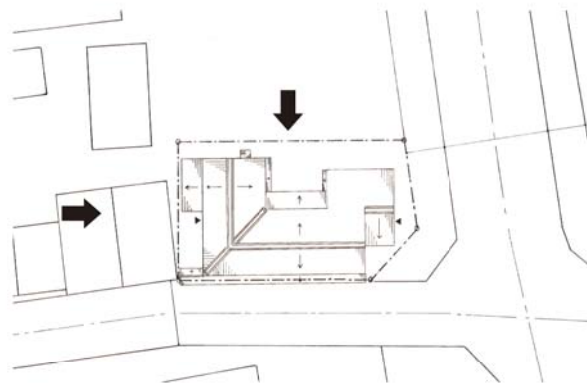


再生後東立面図

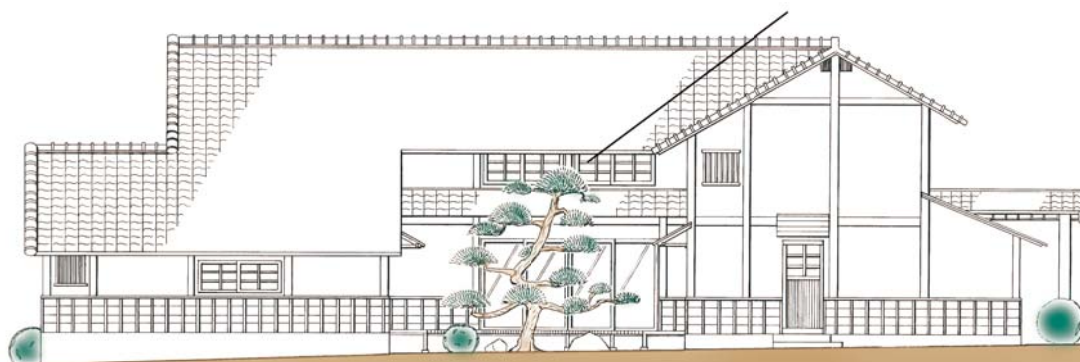
立面計画



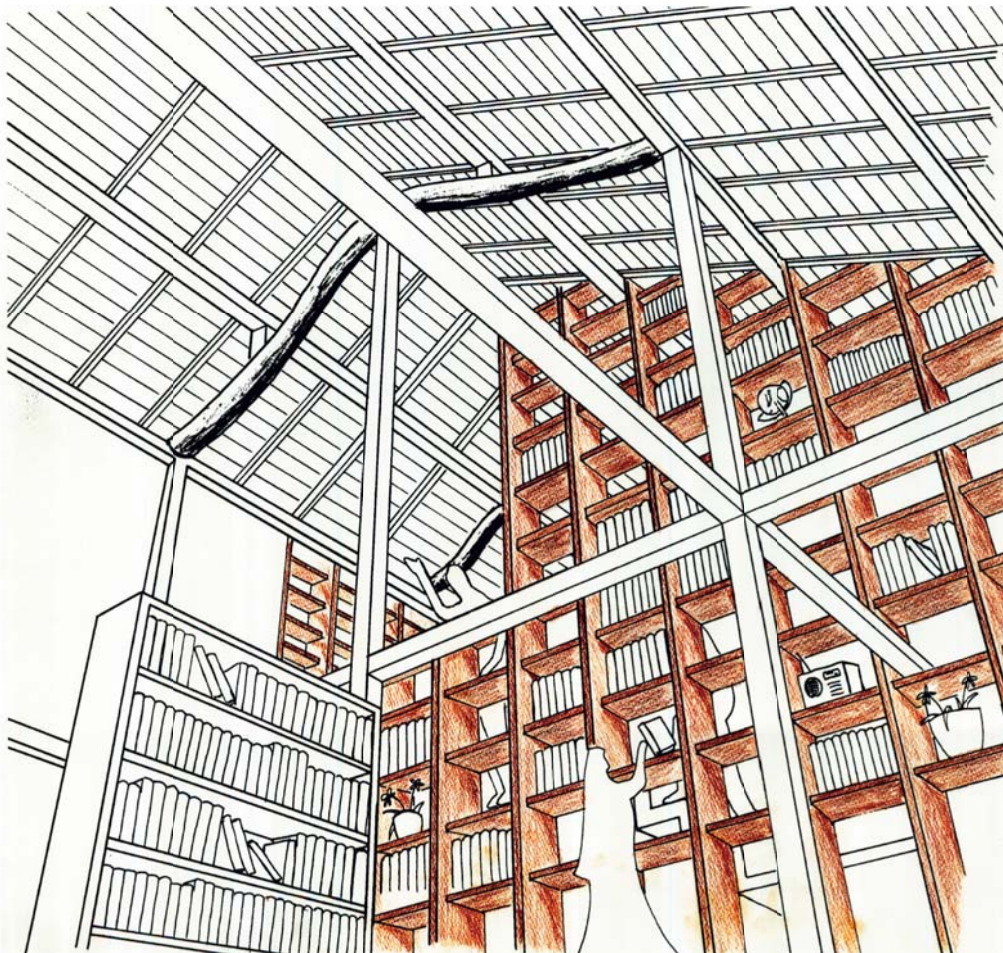
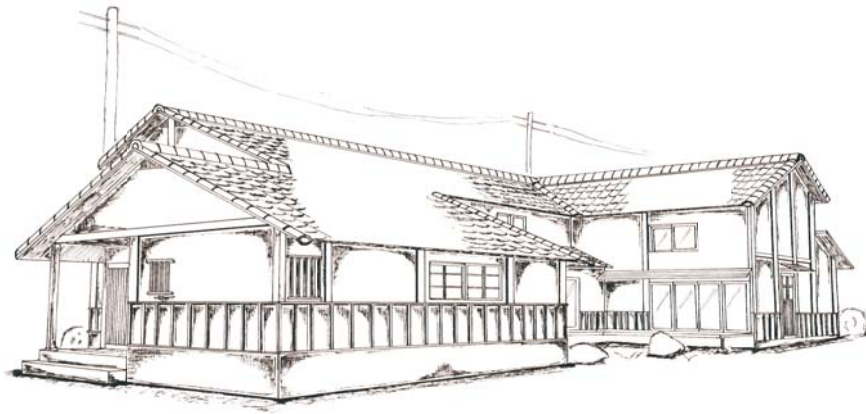
再生後南立面図



増築により出来た中庭



再生後西立面図



ご清聴ありがとうございました。

まちなかベンチのデザイン

認知環境システム学演習課題



信州大学 工学部 建築学科

課題①

- ・ 須坂市の歴史的市街区に求められるベンチについて考える。



課題②

- 地域のニーズおよび敷地の特性などを配慮した上で、適切な配置を試みる。



スケジュール

10月上旬	現地見学・調査	候補地の選定（まちづくり課） 現状把握＞周辺図作成
10月下旬	作業開始・打合せ	各班に分かれての作業 打合せは不定期に実施
11月	↓	打合せ@しらふじ 図面作成（中旬締切）＞メールにて送付＞改訂作業
12月	製作ベンチを決定	プレゼンテーション 製作作品の選定＞発注
01月	ベンチ製作開始	部材の加工・組立て…可能であれば学生参加
02月	製作終了・配置	

須坂のまちなかベンチ

ふれあい館まゆぐらにおけるベンチの設計

1 班 及川 高橋 津雲 安室

須坂のまち

須坂は長野県の北部に位置する、明治から昭和初期にかけて製糸業で栄えたまち。土蔵造りや大壁造りの建物が現在でも残っており、蔵の町として伝統ある町である。歴史ある蔵の町並みを残すことに町が積極的であり、また訪れた人と町の人が交流を持てる温かい町。

周囲を北信五岳の美しい山に囲まれ、アルプスも望むことが出来る。自然と歴史が調和し温かな人と出会える魅力的な町である。



横町通り



本町通り

現地調査

現状

- ・病院に近く、関係者の人が多く利用。
- ・まゆぐらの前を通過する人は多くみられたが、ベンチで休憩をする人は調査時見なかった。
(普段は病院関係者、地元の学生、観光客、直売所に買い物をしに来る人が利用)
- ・敷地内のベンチはそれほど目立つものではない。
- ・2人掛けのベンチが個々に配置されている。

実際に感じたこと

- ・須坂の歴史を感じることでできるまゆぐらの前でいっつくするのは心地よく、落ち着いた空間である。
- ・大きな整地をもっと活用したい。
- ・まちとまゆぐらへつながる空間として、人が集まり繋がる空間に出来ないか…
- ・もし個人的に訪れた時に、先客がいたら利用しづらいのでは…？



2

現地調査



ベンチを計画する場所の写真（上の写真）
2か所
（病院側の整地、中央通り側の広い空間）



ふれあい館まゆぐら（左写真）

3

広域敷地図



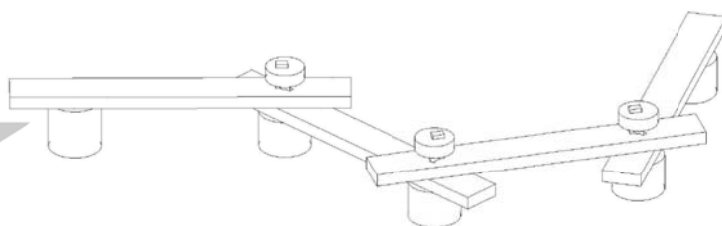
図.1 敷地広域図

ベンチ計画の概要

Concept

まちに溶け込む可変性のあるベンチ

- ・ 1人でベンチを利用する人、2～3人で利用する人両方を考慮したあらゆるニーズに対応したベンチ
- ・ 周囲の環境、須坂のまちに溶け込むベンチ



ベンチ①完成図

対象とする人

- ・ 病院関係者
- ・ 須坂を訪れる観光客
- ・ 地元の人
- ・ 直売所に買い物をしに来る人

ベンチ詳細

座面高さ：400mm、500mm
座面：300mm
板厚：100mm
板材の長さ：2600mm
使用材料：スギ
スギの比重⇒0.38g/cm³

配置図

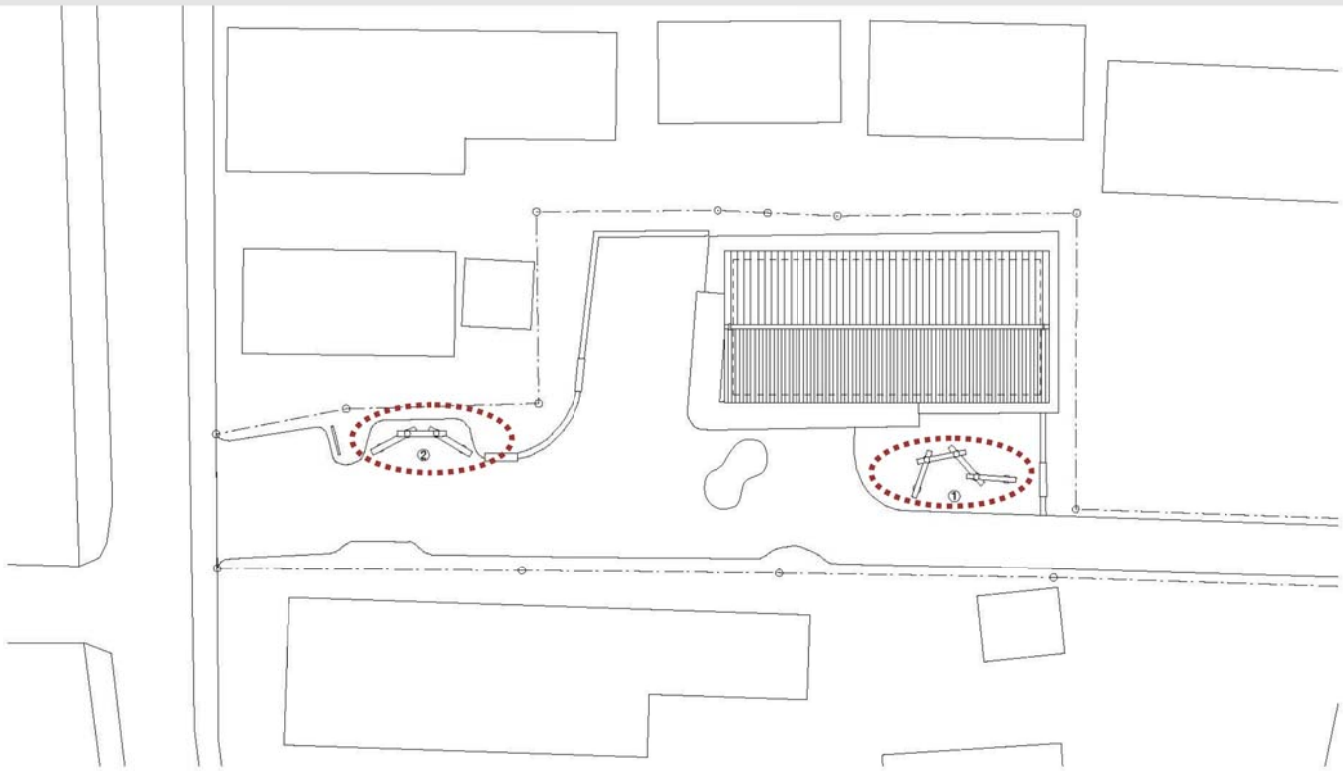


図. 2 配置図

ベンチ配置図

6

①平面図

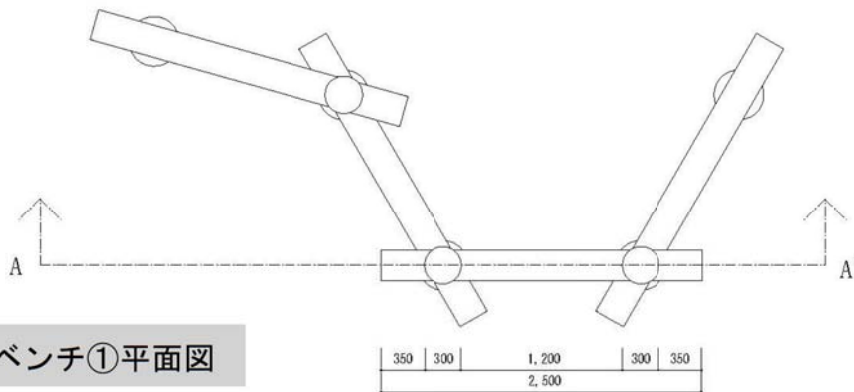


図. 3 ベンチ①平面図

ベンチ①平面図 (S=1/50)

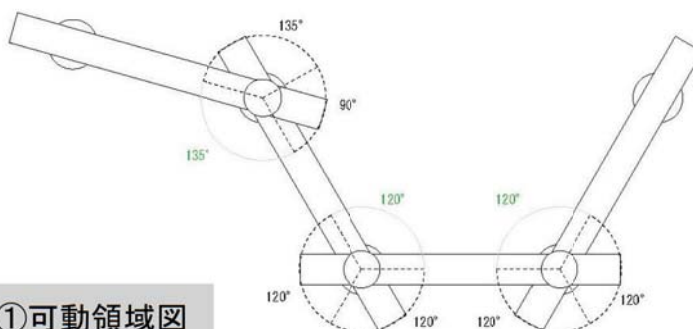


図. 4 ベンチ①可動領域図

ベンチ①可動領域図 (S=1/50)

7

②平面図

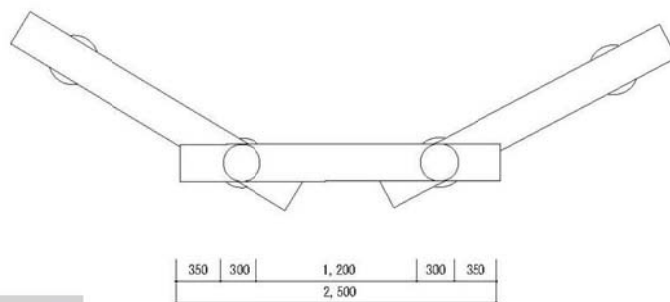


図. 5 ベンチ②平面図

ベンチ②平面図 (S=1/50)

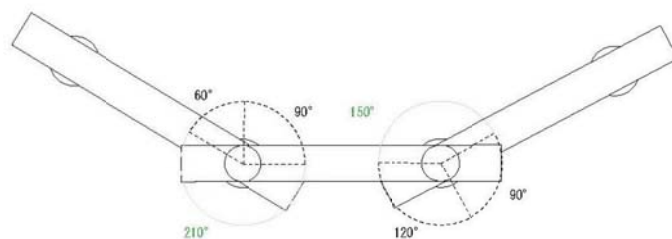


図. 6 ベンチ②可動領域図

ベンチ②可動領域図 (S=1/50)

8

①断面図、①組み立て図

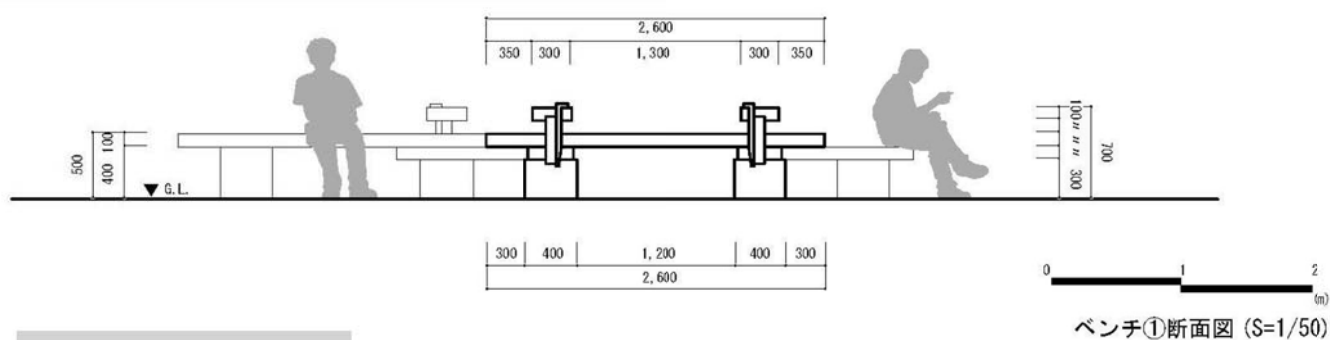


図. 7 ベンチ①断面図

ベンチ①断面図 (S=1/50)

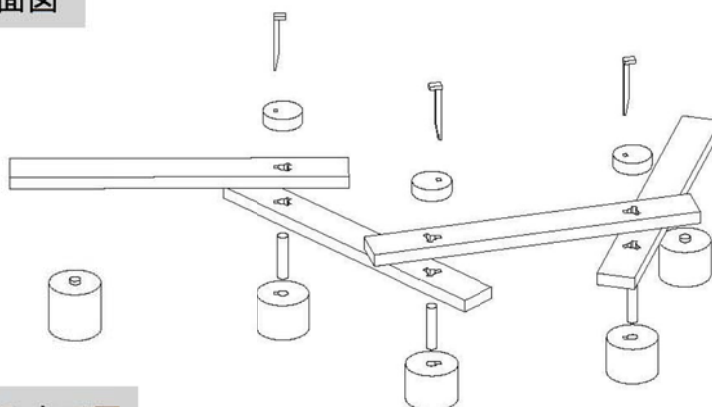
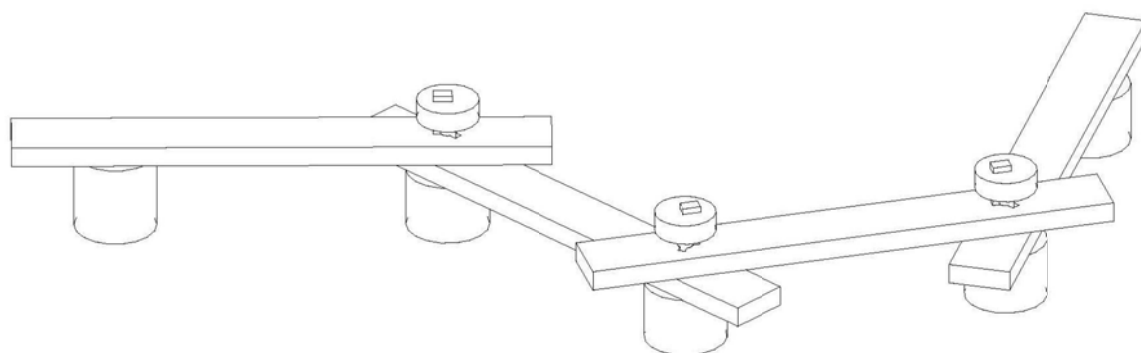


図. 8 ベンチ①組み立て図

ベンチ①組み立て図
※ 部材 (A ~ J) 寸法は次頁より

9

ベンチ完成図



ベンチ①完成図

1人の時間を過ごすのも、数人で訪れても利用しやすい居心地の良いベンチ。
可動性のあるベンチを設計することでさまざまな空間を作り出す。
フレキシブルな形が取れることで視線が交差することも、交わらないようにすることも可能。
須坂のまちに溶け込む、まちの人からも須坂を訪れる人からも愛着の持てる空間づくり。

文化芸術振興ビジョンの咲かせ方

東京大学 小林真理ゼミ

2014年度

文化芸術振興ビジョンの咲かせ方

2013年度

文化芸術振興ビジョンの育て方



文化芸術振興ビジョンの育て方

1. 文化芸術振興ビジョンの育て方

2. 今日は須坂の日

3. 持続可能な須坂を目指して

4. 住みやすい都市〈須坂〉を目指して

5. 新しい須坂を考える会

文化芸術振興ビジョンの育て方

1. 文化芸術振興ビジョンの育て方

市民による文化芸術振興ビジョンの評価
ビジョンへ市民の意見を反映

2. 今日は須坂の日

3. 持続可能な須坂を目指して

4. 住みやすい都市〈須坂〉を目指して

5. 新しい須坂を考える会

文化芸術振興ビジョンの育て方

1. 文化芸術振興ビジョンの育て方

2. 今日は須坂の日

市民が須坂で時間をすごせる居場所を
カフェとワークショップ

3. 持続可能な須坂を目指して

4. 住みやすい都市〈須坂〉を目指して

5. 新しい須坂を考える会

文化芸術振興ビジョンの育て方

1. 文化芸術振興ビジョンの育て方

2. 今日は須坂の日

3. 持続可能な須坂を目指して

須坂市民のつながりを生み出す
Facebookページの有効活用

4. 住みやすい都市〈須坂〉を目指して

5. 新しい須坂を考える会

文化芸術振興ビジョンの育て方

1. 文化芸術振興ビジョンの育て方

2. 今日は須坂の日

3. 持続可能な須坂を目指して

4. 住みやすい都市〈須坂〉を目指して

活気のなさと汚さを解消する
子育て層に向けたアート・プロジェクト

5. 新しい須坂を考える会

文化芸術振興ビジョンの育て方

1. 文化芸術振興ビジョンの育て方

2. 今日は須坂の日

3. 持続可能な須坂を目指して

4. 住みやすい都市〈須坂〉を目指して

5. 新しい須坂を考える会

人と場所をつなぐ緩やかな連携をつくる
市民プロデューサーの発見と育成

文化芸術振興ビジョンの咲かせ方

Art／Outreach

須坂メイカーズ

ひょうかしょうか

アート・アリーナPALM

アート・アリーナPALM

Group Creative

The University of Tokyo
Prof. Mari Kobayashi
Seminar

H. Asakura
M.Koshimura
Y.Kobayashi
M.Gotou
M.Yoshikawa
S.Yasumura

Connection -つながり-

Create -創造-

Community -集い-

いってみました、須坂

昨年7月の須坂カッタカタ祭り

Good!!

最高にアツい須坂を肌で感じる
人がたくさんいる
若い人が多い!!

なかでも印象的だったのが...



祭りで出逢った中学生2人組。

須坂愛溢れる彼らの情熱に応えたい... → **須坂は元気になれる!!**

しかし...

Bad...

人通りが少ない

せっかくの綺麗な町並みに人がいない
蔵の街並以外の建物がさびれている

実際に聞いてみると

中高生は**学校が終わってからの居場所がない**。部活か、家に帰るか。特に、小学生高学年～中学生は、行動範囲が狭い。運動が好きな子は部活動などで楽しめるが、美術や音楽、ダンスと言った文化的なアクティビティーが好きな子は、**せっかくの放課後の時間を有効活用できない**。

須坂に必要な場所

*青少年が日常的に集まれる場所

→家と学校の往復になってしまう生活に変化を

*文化活動の場所

→未来への投資、須坂を若い力で元気に

*思い出の場所

→須坂を交流の場に

武蔵野プレイス



* 須坂市文化芸術振興ビジョン

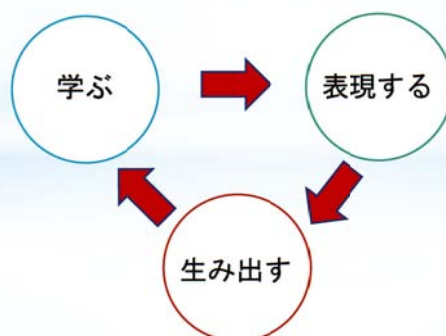
市民主体の文化芸術活動の活性化

・文化芸術に親しむ人を育てる取組みとして、

→体験的学習等、学科学習の取組みを超えた新たな取組みも必要になっています。

・建物にとらわれた施設の活動から、

→全ての文化施設とその活動の場を“学ぶ場”“表現の場”“生み出す場”とします。



若者が日常的に集まれる場所を

* 青少年交流センター×文化施設

* 放課後の児童・生徒が学校・学年の枠を超えた文化活動に取り組む場

* 文化芸術振興ビジョンの理念を実現することにつながる



では、どこに？

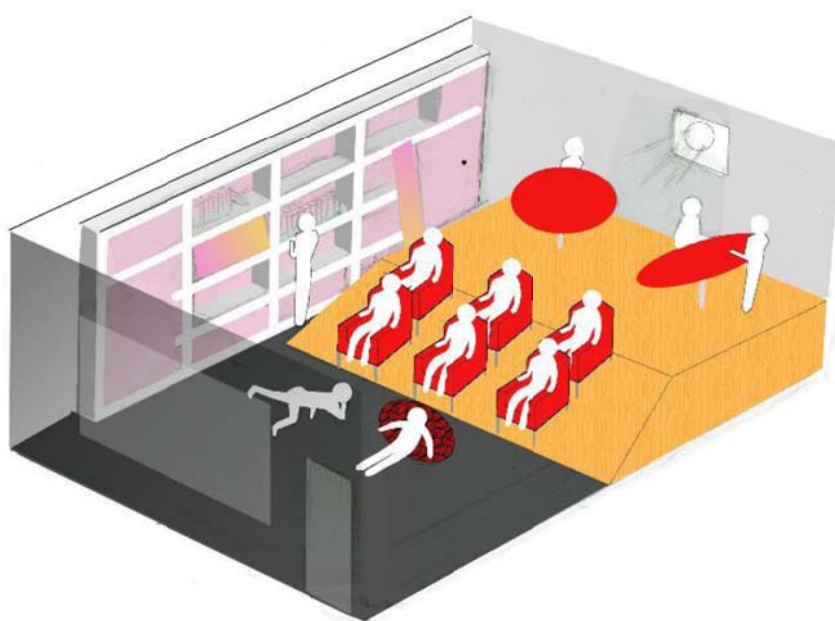
* ショッピングセンター “パルム”

⇒ **アート・アリーナ** **Palm**

10年以上のプランが必要になるかもしれない...
それでもパルムでやることにこだわりたい！



ショッピングセンター パルク



なぜパルム？



映画祭をやってみよう

パルム de フィルム

- ・映画祭を“自分で”プロデュース
→自分の好きな作品の紹介をする
- ・上映作品のアーカイブ化
→棚に「～さんのおススメ」コーナー
- ・上映後はアフタートーク
→映画をはじめ、いろんな話題で交流

なぜ映画 なのか？

- * 須坂と映画のかかわり
→旧上高井郡役所館内 「小林創コレクション」
- * 最もポピュラーなアートのひとつ
- * 現在、須坂に映画館はない
- * 世界観を広げ、新しい発見がある
- * みんなでひとつの作品を共有できる→つながりが生まれる

はじめの 一歩

開催期間：1カ月間

運営委員会による映画の選定

開催期間上半期 選定作品の上映&下半期上映作品の投票

開催期間下半期 投票作品の上映

* パルム de フィルム 運営委員会



- * 須坂一般市民より20名公募（半分は中高生）
- * 定例会を開き、第一回上映作品の選出
- * 開催期間中は映画紹介のポップ作りや、現場の見守り
- * それを見て、興味を持ってくれた人を運営委員会に引っ張ってくる
- * 去年の「須坂蔵の街映画祭」を参考に：
主催：実行委員会(須坂商工会議所)
後援：須坂市

ゆくゆくは…

- ・参加者や運営スタッフが増え、“映画祭”の規模も大きく
- ・会場や施設の拡大
- ・映画というコンテンツの枠を超え、たくさんの人の趣味、夢、好きな事を“共有”できる交流の場へ

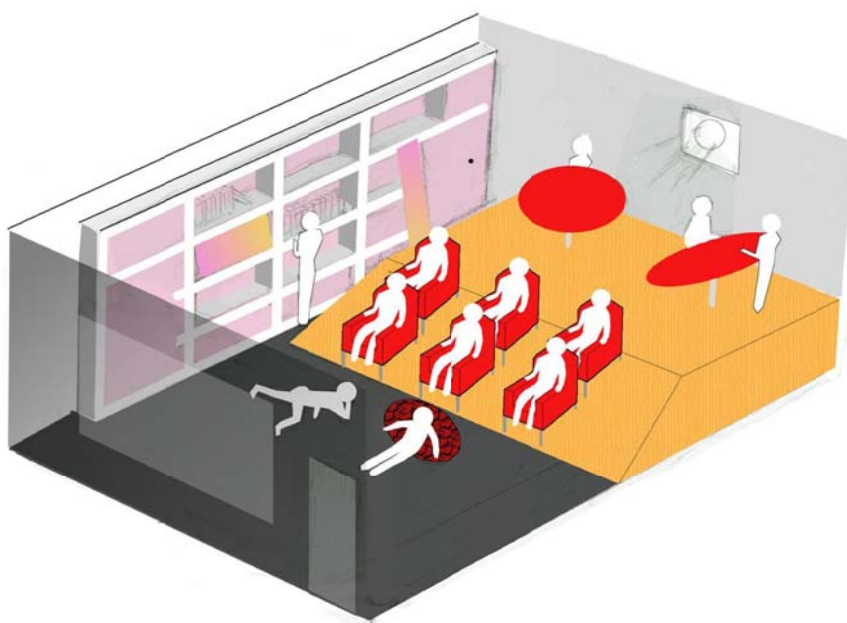
須坂から巣立っていく若者達が

“須坂で育って良かった”

“須坂に帰ろう”

と思えるような未来へ

彼らの未来の可能性を、文化、交流で広げていく。



須坂メイカーズ

須坂に創造人をプロジェクト

杉山昂平 王申冉 森田愛海
寺口瑤貴 児玉卓也 松井千織

須坂の問題 × 文化/芸術

①須坂の抱える問題/課題

少子高齢化

産業の衰退

人口減少

市街地の空洞化

農業の後継者不足

②文化/芸術の意義

(2) 市の継続発展のための文化芸術振興の役割

文化芸術は経済と密接につながっています。それは、工業や商業などあらゆる分野で新しい発想や新たな挑戦が発展をもたらすカギとなっています。

そのカギを創り出すのが文化芸術による知的資源の蓄積であり、基礎となる知的資源なくして経済発展はありません。

継続発展するためには、知的資源の蓄積の糧となる文化芸術振興は不可欠です。

出典 須坂市文化芸術振興ビジョン



提案



須坂メイカーズ

須坂に創造人をプロジェクト

私たちのゴール

須坂の持続発展のために
柔軟な考え方をもち
実行に移していける
人材輩出をすること

創造人を生み出し、 須坂の抱える問題を解決する

創造人の定義

文化芸術のもつ
常識にとらわれない発想に親しみ、
既存と新しいものを掛け合わせながら
問題解決をする人

創造人を生み出すには

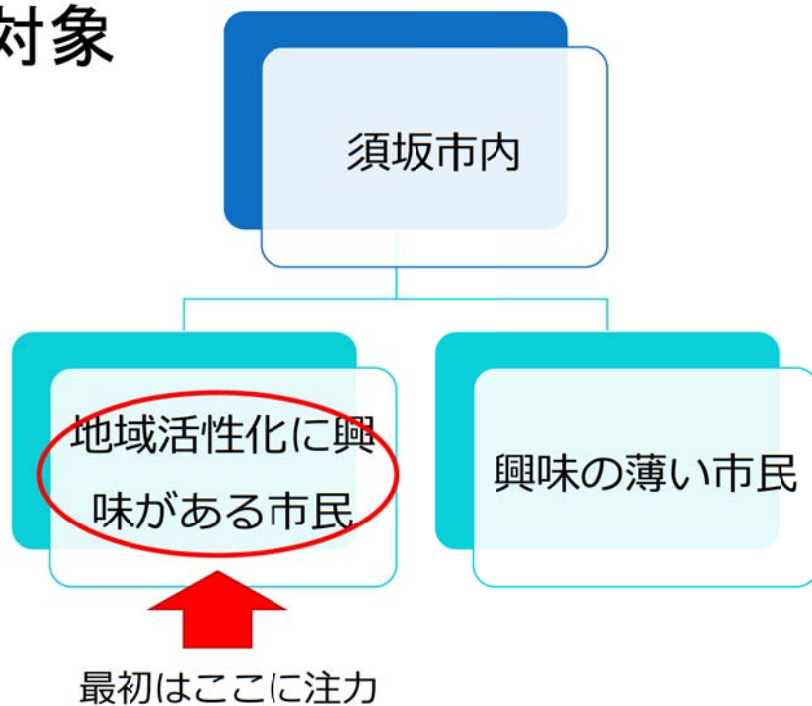
須坂内外の人
様々な職業/年齢/立場の人
に**出会い一緒に学ぶ**必要

概要①

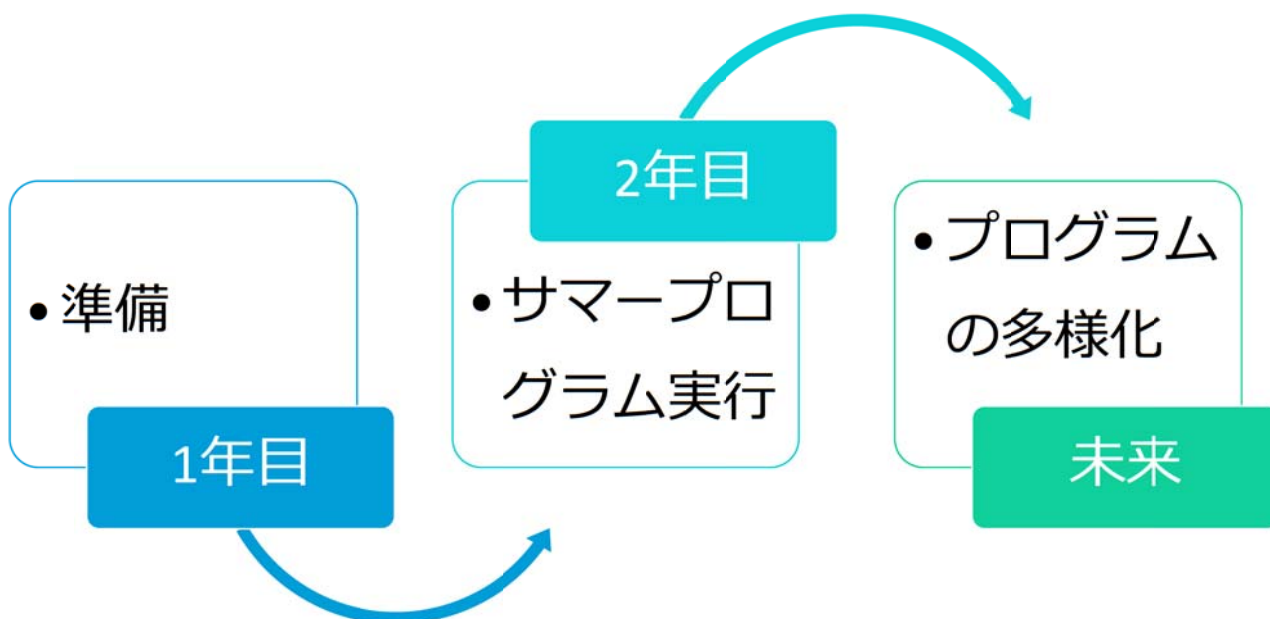
創造人を生み出すプログラムの実施



概要② 対象



年次計画



1年目 準備

参加者集め

協力者探し

プログラム作
成

プレ実施

2年目 サマープログラム～講義



- 参加者目標:30名
- サマープログラムで短期集中型で実施

2年目 サマープログラム～講義内容

基礎講座

- ワークショップのルール
- プロジェクト実施
- 文化芸術とまちづくり

外に学ぶ講座

- ケーススタディ
- 横浜市
- 高松丸亀町

内を学ぶ講座

- 須坂の良さ
- 須坂の歴史
- 現行の取り組み





2年目 サマープログラム～ゼミ活動



- 6人ずつのゼミを形成
- ワークショップの開催
- テーマ
『市から提供された問題を文化/芸術を使って解決せよ』
問題例: 人口減少/土地利用等
- ワークショップ結果は、コンテストで発表

例えば、
私たちが考えてみました！





2年目 サマープログラム～コンテスト



- ゼミ活動での結果を発表
- 評価: 参加者の相互評価
 - 将来的には、より広い市民や専門家

2年目 サマープログラム～実現



- ・須坂市による協力下で、コンテストでの最優秀賞を実際に行いまちづくりに貢献する

未来予想図



- ・毎年、プログラムを様々な形式で開催
 - ・須坂と東京2都市で開催
 - ・通年型で月1開催
- ・創造人(=プログラム卒業生)が自主的に動き文化/芸術で問題解決する
- ・創造人のコミュニティーの形成

須坂内外への広がり



持続発展可能な須坂を
皆さんで文化芸術で
一緒に作っていきましょう！

ひょうかしようか！ —市民の、市民による、 市民のための政策評価

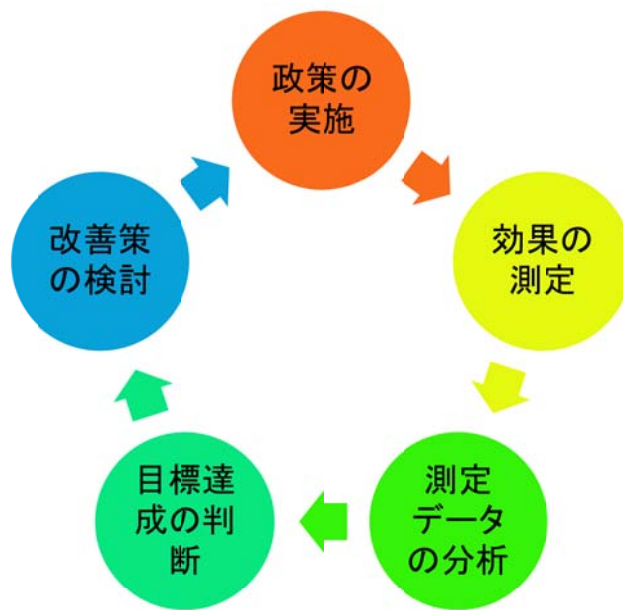
東京大学文学部 小林真理ゼミ
吉木潤

政策評価とは？

「行政機関が主体となり、政策の効果等に関し、測定又は分析し、一定の尺度に照らし合わせて客観的な判断を行うことにより、政策の企画立案やそれに基づく実施を的確に行うことに資する情報を提供すること」

—法務省公式サイト「政策評価について」より





政策評価は必要！

○政策評価の目的（法務省公式サイト「政策評価について」を参考に）

- ・市民に対する行政の説明責任を徹底すること
（予算を使ってその政策を行うことに、意味はある？）
- ・市民本位で効率的な質の高い行政を実現すること
- ・市民的視点に立った成果重視の行政へ転換を図ること
（その政策は、本当に市民のために成果をあげているか？）

でも、面倒・・・

アンケート調査

インタビュー調査

データ集計・分析

評価コスト

自治体職員の減少

行政の方の本音は・・・

日々の業務に追われている
状況。
本格的な評価活動は負担が
大き過ぎる・・・



須坂市職員の方

そんな時、先生の言葉を思い出した

政策は、第一に
市民のための
ものである



であれば・・・

市民の方に直接政策を評価してもらえばよい！

- ・「市民に対する行政の説明責任を徹底すること」
- ・「市民的視点に立った成果重視の行政へ転換を図ること」
- ・調査にかかる労力を抑えられる
- ・政策に関心を持つ市民の方の増加

市民による政策評価の 事例 1



京都府舞鶴市

「市民による政策評価会」

- ・公募と無作為抽出による市民判定員
- ・「新たな舞鶴市総合計画 前期実行計画」を評価し、後期実行計画に反映させる
- ・政策説明→課題共有→政策判定→今後のあり方の議論→まとめ



事例2



高知県高知市

土佐橋地区の遊歩道整備事業

・建設コンサルタント11社から提出された設計図や技術提案書を市役所のロビーに掲示し、市民から意見を募る

・市民から寄せられた意見は81件
個別の技術提案への評価から、事業そのものの是非を問う意見まで

昨年の発表を踏まえて

昨年度

- ・「文化芸術振興ビジョンの育て方」
- ・市民を巻き込むことの重要性

今年度

- ・「文化芸術振興ビジョンの咲かせ方」
- ・巻き込むための具体的な取り組み

文化芸術振興ビジョンのための 市民討議会

市民討議会←ドイツのプラークンクスツェレ



こくぶんじ市民討議会2014(東京都国分寺市)

市民討議会の特徴

無作為抽出

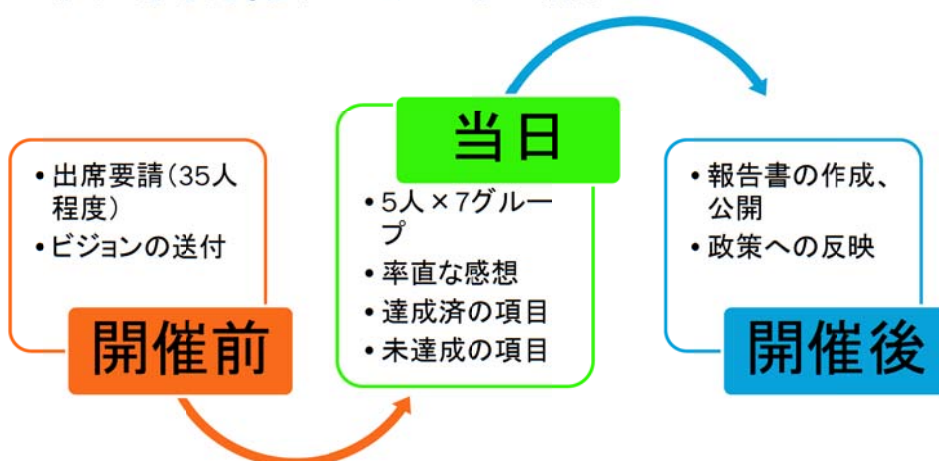
参加者への
有償

専門家から
の情報提供

討議・投票・
合意

提言の公開

文化芸術振興ビジョンのための 市民討議会 初回の案



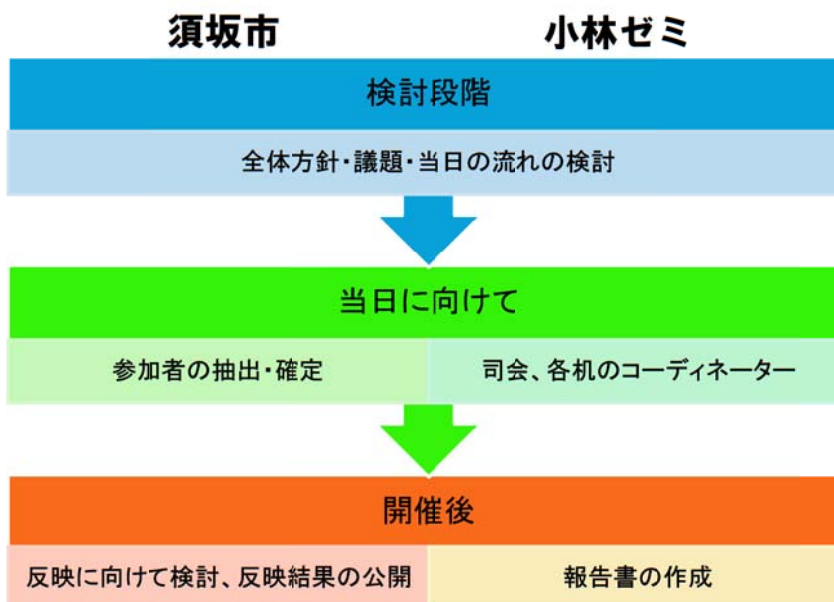
重要なのは・・・

1、政策への反映を担保すること

—「とりあえず市民の声を聞きました」で終わらせない
政策への反映状況を公開

2、無限の可能性に挑戦すること

—違う方々／同じ方々を集めてもう一度
対象をビジョンから個々の事業へ etc.





信州須坂
みそすき丼

ご清聴ありがとうございました！



キャンパス事業Facebook
グループ
参加者募集中！



Art/Outreach

ビジョンへの架橋

井上・上野・大井・酒井・高城・吉木

須坂市文化芸術振興ビジョン

平成 23 年 3 月 31 日

須 坂 市

1.文化芸術振興ビジョン

文化芸術振興ビジョンは先進的な提案。

しかし、現段階ではスムーズに実行されているとは言い難い。

概要

- 須坂市の文化政策の中心に位置づけ
- 須坂市にあるモノ・場所・人の資源の活用
- 文化芸術による市の持続的発展
- 振興ビジョンは全国でも先進的な取り組み

問題点

- 実行に移す体制が整っていない
- 市民に共有されていない
- 市民のニーズを取り入れていない

2. ビジョン実現のメリット

ビジョンを実現することで、何が起こるのか？

高齢化・人口減少等の問題の解決

市民の積極的な文化参加

文化芸術による知的資源の蓄積
→経済発展

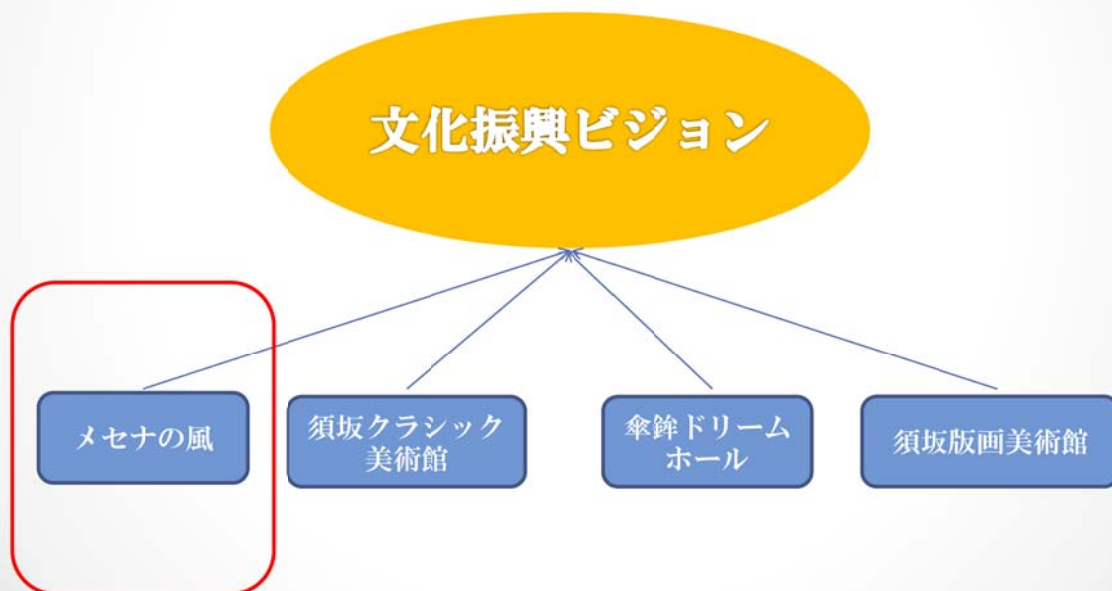
市民間交流の活発化

文化で市民も街づくりの中心に

須坂市文化芸術振興ビジョン
を動かしたい

3. ビジョンと事業を結ぶ

1つの例として、メセナの風について考えていきます。



4. メセナの風とは

メセナホールで開催するコンサートになかなか足を運べない人

日常生活で音楽を身近に感じたい人

そんな皆さんに、生演奏の魅力に触れていただくためのまちかど無料コンサート

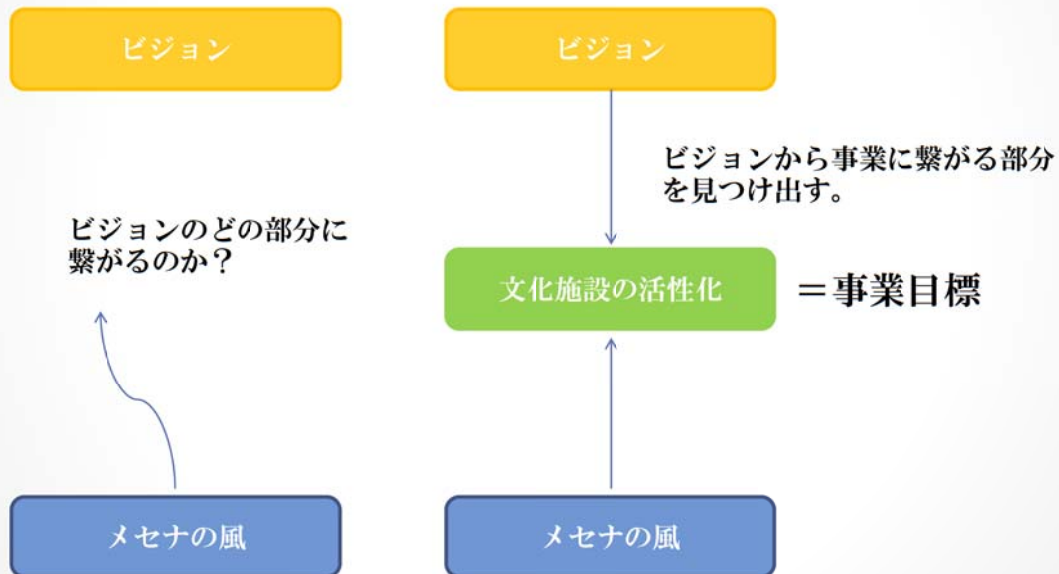
2015年1月末までに103回のコンサートを実施。数多くの来訪者



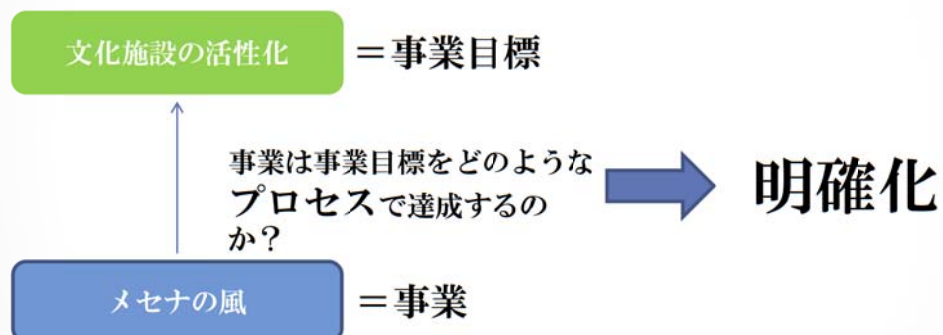
第100回メセナの風
@長野県立須坂病院

5. 繋げ方 (step1)

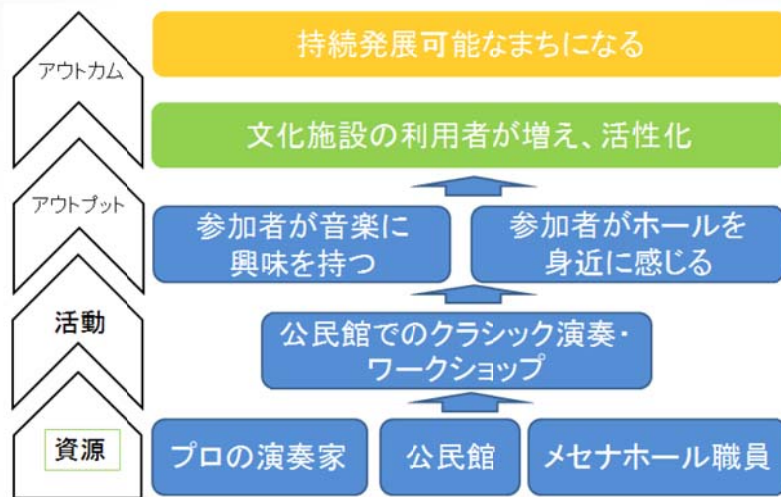
ビジョンは抽象的なゴール。具体的な目標としてメセナの風とつなぎにくい。
⇒ビジョンから抽出した具体的な内容（＝事業目標）を目標とする。



6. 繋げ方(step2)

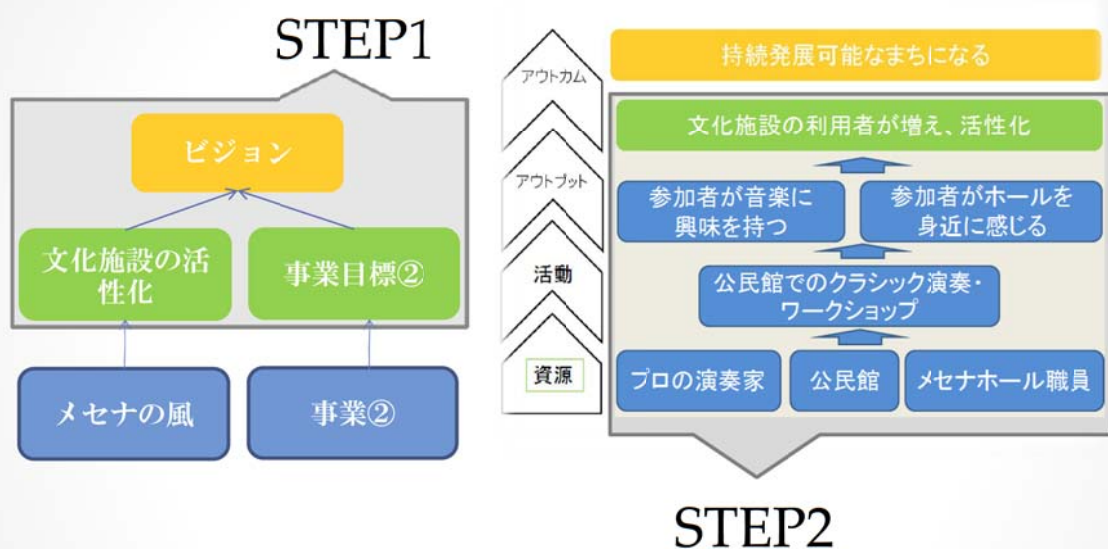


7.事業目標と事業の繋げ方



- ・ 事業目標にいたるプロセスを段階ごとに分けてモデル化する。
- ・ 事業と事業目標との繋がりが明確化

8.モデルの完成図



9.繋がりの確認



10.市民と共に共同評価

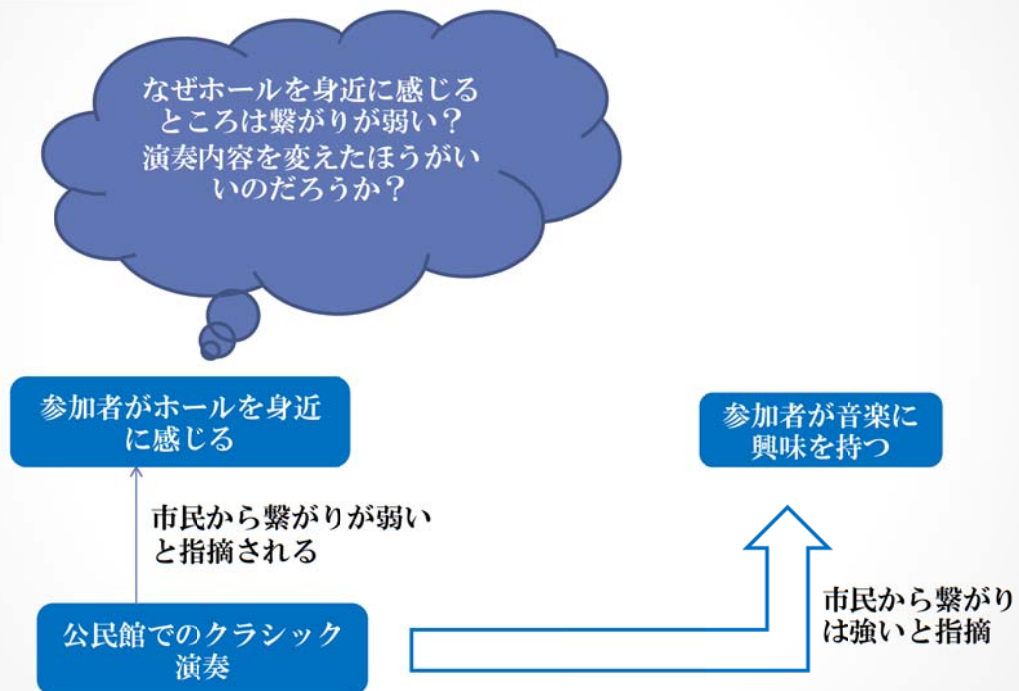
1

市民にメセナの風の活動の最後に活動趣旨（事業目標）を伝え、それに該当するか市民に評価してもらう。

2

事業団自身が活動趣旨から考えて、今回の活動が成功したのか失敗だったのか。その理由も市民の意見も参考に考える

11. 評価の例



12. まとめ

目標 文化振興ビジョンを動かす

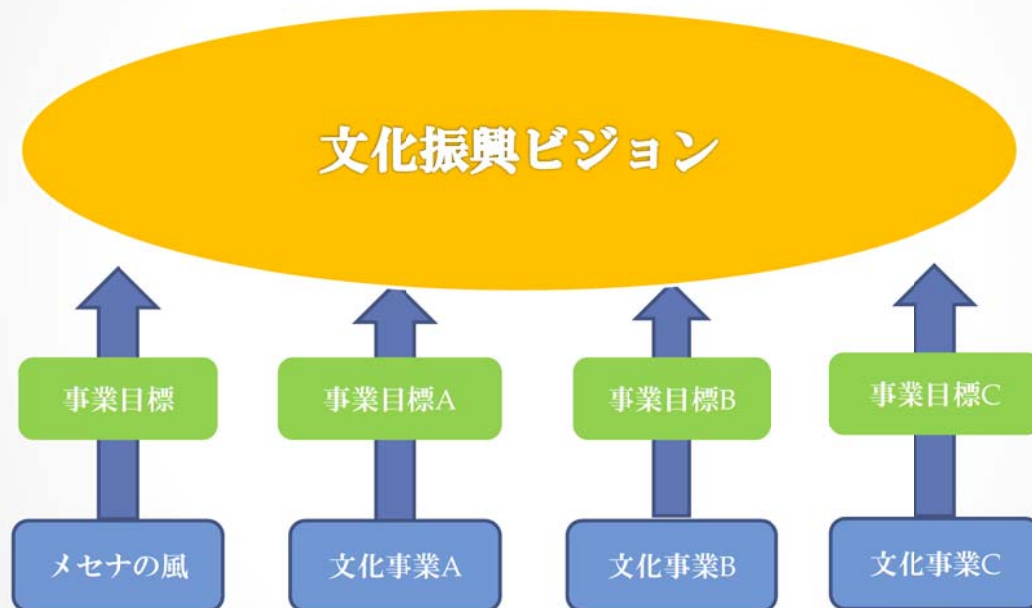
STEP1 ビジョンから事業目標を抽出

STEP2 事業目標達成のプロセスの明確化

STEP3 評価活動による事業の確認および修正

結果 ビジョンの実現にむけて前進
市民とビジョンを共有する

13.Artreach



ご静聴ありがとうございました



■古民家概要

➤須坂市の中でも自然豊かな仁礼地区に立地



➤明治初期に建てられた築約120年の木造2階建て住宅



■南側外觀

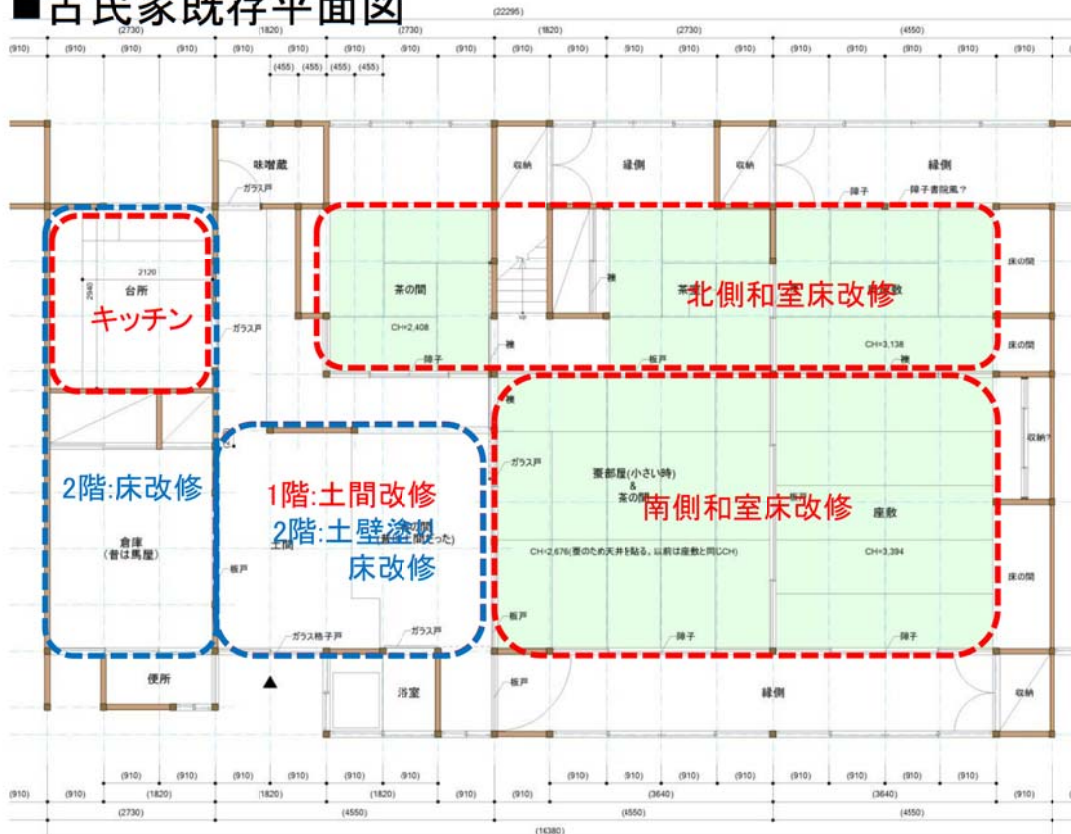


■北側外觀



■室内

■古民家既存平面図



須坂市及び古民家 概要	プロジェクトの 目的と組織	活動	成果と問題点	今後の課題
■目的 ①古民家の活用 ・ 伝統的生活や建築の理解 ・ 現代社会の適応への模索 ②様々な拠点づくり ・ 産学官民を結ぶ拠点 ・ 地域の人々を結ぶ拠点 ・ 都市と地方を結ぶ拠点 ③新しいものづくり教育 ・ 地域の人々の交流 ・ 古民家での生活・再生体験から、現代生活のあり方を考える ↓ 教育の多様化、新しいものづくり教育の可能性				
				5

須坂市及び古民家 概要	プロジェクトの 目的と組織	活動	成果と問題点	今後の課題
■組織				
古民家再生プロジェクトチーム	産 ■協力業者 ・蔵の町並みキャンパス協賛企業 ・地元職人(大工・左官 等) ・日本木材青壮年団体連合 ■協力団体 ・NPO法人グリーンツーリズム 等			
	学 ■文化学園大学 ・文化・住環境学研究所 ・造形学部 デザイン・造形学科 ・造形学部 建築・インテリア学科 ■東京工科大学 ・デザイン学部			
	官 ■須坂市役所 ・まちづくり課 ・観光課 ・農林課 ・蔵の町並みキャンパス 等			
	民 ■古民家所有者 ■仁礼地区住民 ・仁礼地域育成会委員 ・仁礼御神楽保存会 他 ■須坂市民			
				6

須坂市及び古民家概要	プロジェクトの目的と組織	活動	成果と問題点	今後の課題		
■活動実績						
目的	活動内容	人材	場・地域資源	資金	情報・技術	活動頻度
古民家活用	ワークショップ ○藍染め ○フロッタージュ ○風作り・風揚げ	学 教員+学生*2 官 須坂市役所 民 古民家所有者 民 地域住民	官 市内スポーツ施設 民 古民家	学 大学 官 須坂市*1	学 教員・学生の専門分野 民 古民家所有者による話	1回/年 位
	地域交流 ○地域住民 ○地元活動団体	学 教員+学生*2 官 須坂市役所 民 地域住民 民 古民家所有者	民 古民家	学 個人負担*3 官	学 教員・学生との意見交換 民 地域住民の話 民 地域伝統文化	2-3回/年 位
拠点づくり	インフラ整備 ○上下水道	産 地元企業 官 須坂市役所	民 古民家	官 須坂市*1		適宜
	古民家再生作業 ○大掃除 ○壁・床・土間改修 ○家具制作 ○庭の窯作り(調理場)	産 地元企業 産 地元職人 学 教員+学生*2 学 地元大学有志 民 古民家所有者	民 古民家	学 大学 官 須坂市*1	産 職人による技術指導	1回/年 位
新しいものづくり教育	地域資源活用(農・林・食) ○地域伝統食作り(蕎麦・味噌) ○農業体験 ○山林での環境講座	産 地元企業 産 地元NPO団体 学 教員+学生*2 学 地元大学有志 民 古民家所有者 民 地域住民	民 古民家 民 地域農産物 民 農地 民 山林	学 個人負担*3	産 地元企業・団体による講習 民 古民家所有者による作業体験・環境講座 民 地域住民による農業体験	1回/年 位
	蔵の町並みキャンパス ○参加学校が研究・調査活動 ○年度末に成果報告会を実施	産 地元企業・団体 産 協賛企業・団体 学 教員+学生*2 学 参加学校 官 須坂市役所 民 古民家所有者 民 須坂市民	官 公共施設	官 須坂市*1	学 各学校の発表 産 参加者間の交流・情報交換 官 民	成果報告会は 1回/年

*1 須坂市と協賛企業等で構成される蔵の町並みキャンパス推進協議会をさす *2文化学園大学と東京工科大学の教員・学生 *3参加者の個人負担

*1 須坂市と協賛企業等で構成される蔵の町並みキャンパス推進協議会をさす *2文化学園大学と東京工科大学の教員・学生 *3参加者の個人負担

須坂市及び古民家 概要	プロジェクトの 目的と組織	活動	成果と問題点	今後の課題		
■活動実績						
目的	活動内容	人材	場・地域資源	資金	情報・技術	活動頻度
古民家活用	ワークショップ ○藍染め ○フロッタージュ ○風作り・風揚げ	学 教員+学生*2 官 須坂市役所 民 古民家所有者 民 地域住民	官 市内スポーツ施設 民 古民家	学 大学 官 須坂市*1	学 教員・学生の専門分野 民 古民家所有者による話	1回/年 位
	地域交流 ○地域住民 ○地元活動団体	学 教員+学生*2 官 須坂市役所 民 地域住民 民 古民家所有者	民 古民家	学 個人負担*3 官	学 教員・学生との意見交換 民 地域住民の話 民 地域伝統文化	2-3回/年 位
拠点づくり	インフラ整備 ○上下水道	産 地元企業 官 須坂市役所	民 古民家	官 須坂市*1		適宜
	古民家再生作業 ○大掃除 ○壁・床・土間改修 ○家具制作 ○庭の窯作り(調理場)	産 地元企業 産 地元職人 学 教員+学生*2 学 地元大学有志 民 古民家所有者	民 古民家	学 大学 官 須坂市*1	産 職人による技術指導	1回/年 位
新しいものづくり教育	地域資源活用(農・林・食) ○地域伝統食作り(蕎麦・味噌) ○農業体験 ○山林での環境講座	産 地元企業 産 地元NPO団体 学 教員+学生*2 学 地元大学有志 民 古民家所有者 民 地域住民	民 古民家 民 地域農産物 民 農地 民 山林	学 個人負担*3	産 地元企業・団体による講習 民 古民家所有者による作業体験・環境講座 民 地域住民による農業体験	1回/年 位
	蔵の町並みキャンパス ○参加学校が研究・調査活動 ○年度末に成果報告会を実施	産 地元企業・団体 産 協賛企業・団体 学 教員+学生*2 学 参加学校 官 須坂市役所 民 古民家所有者 民 須坂市民	官 公共施設	官 須坂市*1	学 各学校の発表 産 参加者間の交流・情報交換 官 民	成果報告会は 1回/年

*1 須坂市と協賛企業等で構成される蔵の町並みキャンパス推進協議会をさす *2文化学園大学と東京工科大学の教員・学生 *3参加者の個人負担

古民家活用 ワークショップ

9

■藍染とフロッタージュ(2012.09.01) 近隣住民 親子12名が参加



■手ぬぐいやハンカチを藍染(指導:文化学園大学教員)



■古民家での昔話を聞いた後、古民家の記憶をフロッタージュ技法で写しとる(指導:東京工科大学教員)

人材	産	場・地域資源	産	資金	産	情報・技術	産
	学		学		学		学
	官		官		官		官
	民		民		民		民
	教員+学生*2				大学		教員・学生の専門分野
	須坂市役所				須坂市*1		
	古民家所有者 地域住民		古民家				古民家所有者の話

10

須坂市及び古民家 概要	プロジェクトの 目的と組織	活動	成果と問題点	今後の課題
----------------	------------------	----	--------	-------

■立体凧作りと凧揚げ(2013.08.09) 近隣小学生約40名が参加



■学生STAFFが事前準備・試作・凧揚げ練習を行う(指導:文化学園大学教員)



■当日の様子。最後は、50体の凧を連結し、巨大立体凧上げに挑戦！

人材	産	場・地域資源	産	資金	産	情報・技術	産
	学		学		学		学
	官		官		官		官
	民		民		民		民
	教員+学生*2		市内スポーツ施設		大学		教員・学生の専門分野
	須坂市役所		古民家		須坂市*1		
	古民家所有者 地域住民						11

須坂市及び古民家 概要	プロジェクトの 目的と組織	活動	成果と問題点	今後の課題
----------------	------------------	----	--------	-------

古民家活用
地域交流

須坂市及び古民家 概要	プロジェクトの 目的と組織	活動	成果と問題点	今後の課題
■活性化する様々な交流				
				
■地域住民を交えての昼食	■学・官・民の交流	■地域住民との交流		
				
■御神楽保存会による御神楽	■地域に代々受け継がれる話	■留学生による韓国料理の昼食		
人 材 産 学 教員+学生*2 官 須坂市役所 関連部署 民 古民家所有者 地域住民	場・地域資源 産 学 官 民 古民家	資 金 産 学 個人負担*3 官 個人負担*3 民 自宅で栽培された 野菜・果物の差入れ	情報・技術 産 学 留学生との文化交流 教員・学生の視点に よる意見交換 官 民 地域住民の話 地域伝統文化	13

須坂市及び古民家概要		プロジェクトの目的と組織		活動	成果と問題点	今後の課題	
■活動実績							
目的	活動内容	人材		場・地域資源	資金	情報・技術	活動頻度
古民家活用	ワークショップ ○藍染め ○フロッターージュ ○風作り・風揚げ	産 教員+学生*2 官 須坂市役所 民 古民家所有者 民 地域住民	官 市内スポーツ施設 民 古民家	学 大学 官 須坂市*1	産 教員・学生の専門分野 民 古民家所有者による話	1回/年 位	
	地域交流 ○地域住民 ○地元活動団体	産 教員+学生*2 官 須坂市役所 民 地域住民 民 古民家所有者	民 古民家	学 個人負担*3	産 教員・学生との意見交換 民 地域住民の話 民 地域伝統文化	2-3回/年 位	
拠点づくり	インフラ整備 ○上下水道	産 地元企業 官 須坂市役所	民 古民家	官 須坂市*1		適宜	
	古民家再生作業 ○大掃除 ○壁・床・土間改修 ○家具制作 ○庭の窯作り(調理場)	産 地元企業 産 地元職人 学 教員+学生*2 学 地元大学有志 民 古民家所有者	民 古民家	学 大学 官 須坂市*1	産 職人による技術指導	1回/年 位	
新しいものづくり教育	地域資源活用(農・林・食) ○地域伝統食作り(蕎麦・味噌) ○農業体験 ○山林での環境講座	産 地元企業 産 地元NPO団体 学 教員+学生*2 学 地元大学有志 民 古民家所有者 民 地域住民	民 古民家 民 地域農産物 民 農地 民 山林	学 個人負担*3	産 地元企業・団体による講習 民 古民家所有者による作業体験・環境講座 民 地域住民による農業体験	1回/年 位	
	蔵の町並みキャンパス ○参加学校が研究・調査活動 ○年度末に成果報告会を実施	産 地元企業・団体 産 協賛企業・団体 学 教員+学生*2 学 参加学校 官 須坂市役所 民 古民家所有者 民 須坂市民	官 公共施設	官 須坂市*1	学 各学校の発表 産 参加者間の交流・情報交換	成果報告会は1回/年	

拠点づくり

インフラ整備 古民家再生作業

15

■インフラ整備・大掃除



■1階 南側和室



■障子張替え



■建具の不具合調整



■2階 農具やエノキ栽培容器が散乱していたものを片付ける



人材	産	
	学	教員+学生*2 地元大学有志
	官	須坂市役所
	民	古民家所有者

場・地域資源	産	
	学	
	官	
	民	古民家

資金	産	
	学	
	官	須坂市*1
	民	

情報・技術	産	
	学	
	官	
	民	

須坂市及び古民家 概要	プロジェクトの 目的と組織	活動	成果と問題点	今後の課題
■壁改修				
				
■1回目: 既存壁をはつる	■1回目: 土を塗っていく	■1回目: 左官職人さんと記者		
				
■2回目: 土を運ぶ	■2回目: 前回の壁に接着剤を塗る	■左官職人さんより指導		
人材 産 地元職人 学 教員+学生*2 官 民 古民家所有者	場・地域資源 産 学 官 民 古民家	資金 産 学 大学 官 須坂市*1 民	情報・技術 産 職人による技術指導 学 官 民	17

須坂市及び古民家 概要	プロジェクトの 目的と組織	活動	成果と問題点	今後の課題
■土間・床改修				
				
■既存土間	■既存土間を一部解体	■縁側を制作		
				
■大工さんと段取りの確認	■既存荒床に根太を配置	■一列に並んで床板張り		
人材 産 地元企業 地元職人 学 教員+学生*2 官 民 古民家所有者	場・地域資源 産 学 官 民 古民家	資金 産 学 大学 官 須坂市*1 民	情報・技術 産 職人による技術指導 学 官 民	18

須坂市及び古民家 概要	プロジェクトの 目的と組織	活動	成果と問題点	今後の課題
■家具制作・庭の窯作り				
				
■家具制作風景	■制作した家具(収納棚・椅子)	■制作した家具(テーブル)		
				
■庭の一角に窯を制作	■立って使える高さ	■夏は20人以上の食事を作る		
人材 産 学 教員+学生*2 官 民 古民家所有者	場・地域資源 産 学 官 民 古民家	資金 産 学 大学 官 須坂市*1 民	情報・技術 産 職人による技術指導 学 教員・学生の専門分野 官 民	19

須坂市及び古民家概要		プロジェクトの目的と組織		活動	成果と問題点	今後の課題	
■活動実績							
目的	活動内容	人材		場・地域資源	資金	情報・技術	活動頻度
古民家活用	ワークショップ ○藍染め ○フロッタージュ ○風作り・風揚げ	産 教員+学生*2 官 須坂市役所 民 古民家所有者 民 地域住民	官 市内スポーツ施設 民 古民家	学 大学 官 須坂市*1	産 教員・学生の専門分野 民 古民家所有者による話	1回/年 位	
	地域交流 ○地域住民 ○地元活動団体	産 教員+学生*2 官 須坂市役所 民 地域住民 民 古民家所有者	民 古民家	学 個人負担*3 民	学 教員・学生との意見交換 民 地域住民の話 地域伝統文化	2-3回/年 位	
拠点づくり	インフラ整備 ○上下水道	産 地元企業 官 須坂市役所	民 古民家	官 須坂市*1		適宜	
	古民家再生作業 ○大掃除 ○壁・床・土間改修 ○家具制作 ○庭の窯作り(調理場)	産 地元企業 産 地元職人 学 教員+学生*2 学 地元大学有志 民 古民家所有者	民 古民家	学 大学 官 須坂市*1	産 職人による技術指導	1回/年 位	
新しいものづくり教育	地域資源活用(農・林・食) ○地域伝統食作り(蕎麦・味噌) ○農業体験 ○山林での環境講座	産 地元企業 産 地元NPO団体 学 教員+学生*2 学 地元大学有志 民 古民家所有者 民 地域住民	民 古民家 民 地域農産物 民 農地 民 山林	学 個人負担*3	産 地元企業・団体による講習 民 古民家所有者による作業体験・環境講座 民 地域住民による農業体験	1回/年 位	
	蔵の町並みキャンパス ○参加学校が研究・調査活動 ○年度末に成果報告会を実施	産 地元企業・団体 産 協賛企業・団体 学 教員+学生*2 学 参加学校 官 須坂市役所 民 古民家所有者 民 須坂市民	官 公共施設	官 須坂市*1	学 各学校の発表 産 学 参加者間の交流・情報交換 官 民	成果報告会は1回/年	

*1 須坂市と協賛企業等で構成される蔵の町並みキャンパス推進協議会をさす *2文化学園大学と東京工科大学の教員・学生 *3参加者の個人負担

新しいものづくり教育 地域資源活用 (農・林・食)

21

■地域伝統食作り(蕎麦・味噌・ひんのべ)



■蕎麦打ち



■蕎麦打ち



■蕎麦打ち



■地元味噌屋さんの講習を受ける



■味噌作り



■地域伝統食ひんのべ

人材	産	地元企業
	学	教員+学生*2 地元大学有志
	官	
	民	古民家所有者 地域住民

場・地域資源	産	
	学	
	官	
	民	古民家 地域農産物

資金	産	
	学	個人負担*3
	官	
	民	

情報・技術	産	地元企業による 作り方講座
	学	
	官	
	民	古民家所有者・地域 住民の作り方講座

須坂市及び古民家 概要	プロジェクトの 目的と組織	活動	成果と問題点	今後の課題
■農業体験				
				
■早生ごぼう掘り	■りんごの葉摘み	■りんご園でのLUNCH		
				
■梨狩り	■稲刈り	■稲刈り		
人材 産 地元NPO団体 学 教員+学生*2 官 民 古民家所有者 地域住民	場・地域資源 産 学 官 民 農地	資金 産 学 個人負担*3 官 民	情報・技術 産 学 官 民	23

須坂市及び古民家 概要	プロジェクトの 目的と組織	活動	成果と問題点	今後の課題
■山林での環境講座				
				
■古民家所有者の山林と炭焼小屋	■環境講座	■環境講座		
				
■チェーンソー体験	■放牧場視察	■山歩き		
人材 産 学 教員+学生*2 官 民 古民家所有者 地域住民	場・地域資源 産 学 官 民 山林	資金 産 学 官 民	情報・技術 産 学 官 民 古民家所有者・地域 住民の体験講座	

新しいものづくり教育 その他

25

■蔵の町並みキャンパス成果発表会・その他



■成果発表会発表風景



■成果発表会後の懇親会



■成果発表会後の懇親会



■古民家滞在を知らず暖簾



■大学文化祭で宣伝を兼ねた屋台



■収穫物を使っでの調理実習

人材	産	地元企業・団体 協賛企業・団体	場・地域資源	産		資金	産		情報・技術	産	
	学	教員+学生*2 参加学校		学			学			学	各学校の成果発表 参加者間の交流・ 情報交換
	官	須坂市役所		官	公共施設		官	須坂市*1		官	
	民	古民家所有者 須坂市民		民			民			民	

26

平成26年度 活動報告 春合宿

(実際は、平成25年度の春)

27



古民家2階の土壁塗り(2回目)
以前の下塗りの上に、接着剤を塗布しているところ

28



土壁の土が、結構重いことを身体で知る

29



慣れてくると楽しい
コツは、いかに力を抜くかである。
身体も道具もなるべく壁の近くに寄せる

30



うどん打ち体験
隣家の篠塚さんから指導を受ける

31



古民家1階の板張りの部屋に
新聞紙を広げて

32



打ったうどんを早速、皆で食す
美味！

33

平成26年度

活動報告 夏合宿

34





流しそうめん体験 37



御神楽保存会の方と学生との交流(古民家1階)

須坂市及び古民家 概要	プロジェクトの 目的と組織	活動	成果と問題点	今後の課題
 近隣住民の方との交流 大量の肉の差し入れを捌く				

須坂市及び古民家 概要	プロジェクトの 目的と組織	活動	成果と問題点	今後の課題
■成果 ① 拠点づくりとしての古民家再生を推進することで、長い間未利用だった古民家に活用実績ができた。 ② 古民家を拠点とした産学官民の交流が活発に行われた。 ③ 古民家以外の地域資源も活用することができた。				

■今後の課題

① 継続的な活用に向けての仕組みづくり

→基本的には、年2回(合宿)の利用のみ。

- ・ 地域住民、地元や都市の他大学・組織と連携した古民家の有効活用方法の模索

② 学生の企画・アイデアの採用と運用

→現状は、教員中心の企画・運営

- ・ 学生主体の企画・運営に移行
→コアメンバーを確保できるような体制づくり

③ 地元の方々への還元

→ワークショップはもちろん、それ
以外の方法の検討



おわり